



国立大学法人

鹿児島大学概要

2023



kagoshima university

CONTENTS

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学の基本的な目標
- 04… 大学憲章
- 05… 学生憲章
- 06… 教育目標／生涯学習憲章
- 07… ポリシー
- 09… 男女共同参画基本理念
- 10… 沿革
- 13… 組織図
- 14… 学術研究院
- 15… 学部
- 18… 鹿児島大学病院
- 19… 大学院
- 22… 総合教育機構
- 25… ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- 26… 学内共同教育研究施設
- 29… 学内共同教育研究施設／海外拠点
- 30… 海外拠点／奄美群島拠点
- 31… 学部等附属教育研究施設／
教育関係共同利用拠点
- 32… 教育学部附属学校
- 33… 本学の特徴ある研究
- 36… かがしまるネットサンスアカデミー／
大学地域コンソーシアム
- 37… 支援センター等
- 38… 地域交流施設ほか

資料編

- 43… 役職員等
- 45… 役職員数
- 46… 入学定員・現員数
- 47… 附属学校入学定員・現員数
- 48… 入学状況
- 50… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 51… 奨学生状況／経済支援制度
- 52… 産学官連携活動
- 54… 公開講座等
- 55… 学術国際交流協定締結状況
- 57… 外国人留学生
- 58… 収入・支出決算額／予算
- 59… 外部資金受入状況
- 61… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 62… 附属図書館実績
- 63… 土地・建物・船舶
- 64… 位置図・交通アクセス
- 65… 地区別建物等配置図
- 69… 所在地一覧

学 年 暦

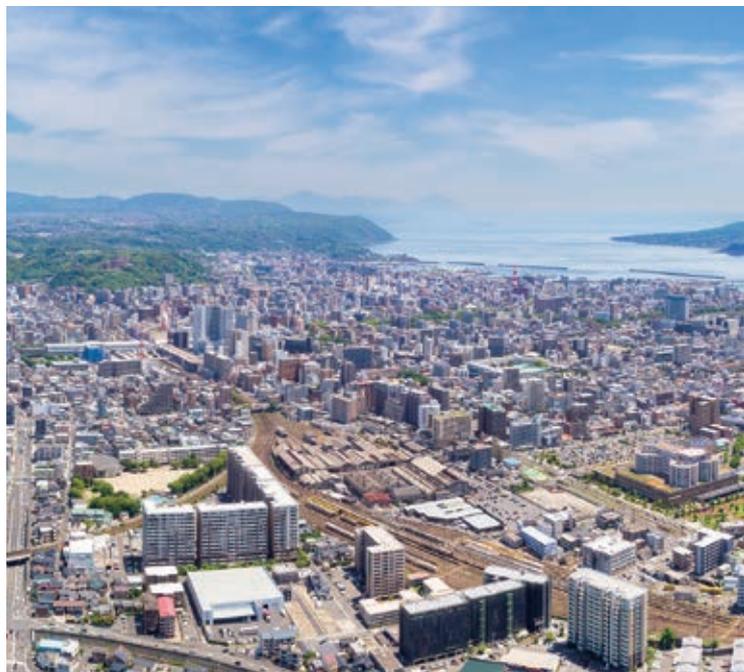
学 期	期	……4月1日～9月30日
前 後	期	…10月1日～3月31日
入 学	式	……………4月7日
休 業	日	
春 季	休 業	……4月1日～4月10日
夏 季	休 業	… 8月1日～9月30日
冬 季	休 業	…12月25日～1月8日
	鹿児島大学記念日	…………… 11月15日
卒 業	式・修了式	……………3月25日

※学期・休業日は鹿児島大学学則より抜粋

歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
”	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
”	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※
”	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
”	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
”	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
”	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
”	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
”	平成22年1月12日～平成25年3月31日	
前 田 芳 實	平成25年4月 1日～平成28年3月31日	
”	平成28年4月 1日～平成31年3月31日	
佐 野 輝	平成31年4月 1日～令和 5年3月31日	
”	令和 5年4月 1日～	

※学長事務取扱



「南九州から世界に羽ばたく グローバル教育研究拠点・鹿児島大学」を目指して

鹿児島大学は、安永2年(1773年)に設立された藩学造士館を起源とし、第七高等学校造士館などとの統合により、昭和24年(1949年)に新制国立鹿児島大学として発足しました。以来、南九州における最高学府として、多くの有為な人材を輩出し卒業生は国内外の幅広い分野で活躍しております。

現在は、9つの学部と9つの大学院研究科において、1万人を超える学部学生と大学院生が、世界に羽ばたき活躍すべく3つのキャンパスで学びを深めております。

さて、鹿児島大学は、地域社会、我が国ならびに国際社会に貢献し、何事にも果敢に挑戦する進取の気風にあふれる総合大学として“南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学”となることを目指しております。海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地理的特性や我が国の近代化を支えた伝統と歴史を踏まえ、自主自律と進取の精神を備えた人材育成を教育の基本理念とし、実践し、そして日々改革に取り組んでおります。

また、第4期中期目標では、持続可能な社会の実現に向けて、南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化しつつ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材を育成し、「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、次の基本目標を掲げています。

1. グローバル人材の養成に向けた教育改革
2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進
3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進
4. 地域を支える質の高い医療の提供
5. 自己分析に基づく確かな組織整備と運営

国境を超えた感染症の脅威や少子高齢化社会の到来など国内外で様々な課題を抱える今、新たな取り組みや変革が求められておりますが、南九州の「知(地)の拠点」として本学教職員はもとより、ご家族及び関係の皆様ならびに地域の皆様のご理解とご協力をいただき、協働しながら魅力あふれる鹿児島大学を創っていききたいと思います。

「生死未断 不可妄陳」

生死、未だ断たずして、妄陳すべからず

父も座右の銘としていた隠元和尚の句です。「人間の価値は棺を覆ったのちに定まるもので、生死未だ断じないで妄陳してはならない」との意で、言い換えますと「自分に与えられた才能を一生懸命に使って、毎日を一生懸命生きる。それが人生だ」というように解釈します。苦しいと思うときにも高らかに大らかに善意を失わず前向きに人を包めるよう生きていきたいと肝に銘じています。

第13代 鹿児島大学長
さ の あきら
佐野 輝



国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標

第4期中期目標(令和4～9年度)

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にあるという地理的特性や我が国の近代化を支えた多くの人材を育ててきた教育的精神的伝統を踏まえた本学ならではの取組を推進することで、地域社会、我が国並びに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとするような「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第4期中期目標・中期計画期間においては、持続可能な社会の実現に向けて、引き続き南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化しつつ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材を育成し、「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、以下の基本目標に取り組みます。

1. グローカル人材の養成に向けた教育改革

国際レベルの教育の質の担保を進め、多様な教育制度・入試制度を活用して一層の教育の国際化を図るとともに、グローバルな視点に基づき地域で活躍できる人材の育成に向け、地域との協働に基づく学びを更に拡充し、地域特性を活かした体験型教育を推進します。また、総合大学としての強みを活かした文理横断的な学びを取り入れつつ社会の急激な変化も見据えた柔軟な教育体系を構築するとともに、学生への支援拡充等の教育改革に取り組み、「進取の精神」を備えた人材の輩出を目指します。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

食と安全、先進的感染制御、生物多様性、宇宙・天文、島嶼や環境等、大学の強みや地域特性を活かした研究分野の更なる発展に取り組みます。また、各種基金等を活用し、若手研究者や競争的資金の獲得が難しい基礎研究及び人文社会科学分野等への支援体制を充実するとともに、イノベーション創出を目指した先進的な分野融合型研究を推進します。

3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進

地域・産業界と連携し、地域課題に応じたリカレント教育プログラムの充実、火山対策をはじめとした地域の防災・減災に資する多様な活動、地域産業や自治体等が抱える課題の解決に取り組むとともに、研究成果の活用と社会実装を推進し、地域イノベーションの創出に取り組みます。また、島嶼や環境など、本学の特徴を活かした教育・研究・社会貢献を全学的に推進するための拠点を強化・充実させます。

4. 地域を支える質の高い医療の提供

先端の基礎的研究から橋渡し研究の結果としての先進的医療を実践しつつ、離島へき地などの地域性を活かした実習・研修を行い、次世代の地域医療従事者育成に取り組みます。

5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、IR体制や監査機能の充実を図り、自らをよく知り、評価結果を改革に活かすことで、効果的な組織整備や他機関との連携、効率的かつ健全な大学運営に取り組みます。



鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

【教 育】

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

【研 究】

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

【社会貢献】

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

【大学運営】

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

※「進取の精神」とは、自ら困難に立ち向かう態度である。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)



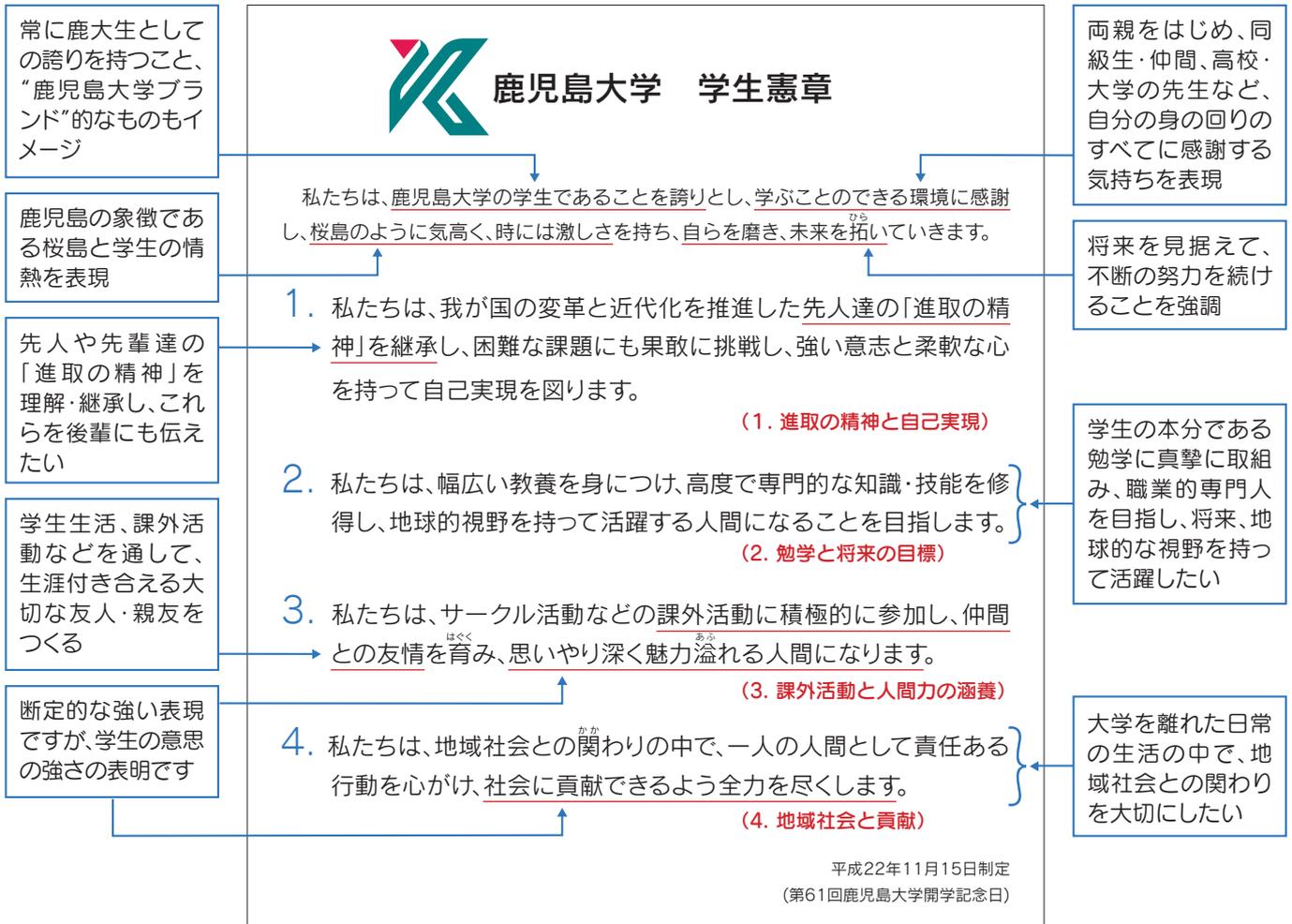
鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定
(第61回鹿児島大学開学記念日)

〈学生憲章の解説〉



鹿兒島大学教育目標

鹿兒島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げます。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。

平成23年12月15日制定

鹿兒島大学生涯学習憲章

鹿兒島大学は、大学憲章の理念に沿って、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します。

鹿兒島大学は、古来より海上交通の要衝として多彩な文化を集積し、世界で固有の多様な自然と共生してきた地域に学び、成熟社会における新たな社会像、地域像、大学像を獲得できる生涯学習に全学で取り組みます。

地域のもつ知は大学及び大学人に新たな知的発見をもたらす宝庫であり、知的拠点としての鹿兒島大学がめざす生涯学習とは、地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくことです。

鹿兒島大学は、全構成員が生涯学習の理念を共有し、地域と世界を結ぶ視野をもって、生涯学習を組織的に実践するために、次の方針を掲げます。

1. 青年期の教育とともに、成人を対象とした教育に取り組み、生涯にわたる学習の機会を提供します。
2. 地域の発展の基礎となる多様な教育機会を用意し、激動の時代を生きる地域の人びとが、ともに支え合い、暮らしていくことに貢献します。
3. 大学の専門知と科学知が、地域の生活や経験と向きあうことを大切にします。そのことを通じて学問を鍛え直し、新しい社会を展望できる知を創造し、広く地域に還元していきます。
4. 鹿兒島大学学生憲章の実現に向けて、学びの主体性を支え、進取の精神を養い、課題解決能力や実践力を育むため、学生が大学で修める学問を基礎に、地域とともに成長できる機会を保障します。
5. 柔軟で闊達な組織づくりに努め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出し、生涯学習の推進を地域とともに発展する大学づくりの柱と位置づけます。

平成25年9月19日制定

鹿児島大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、大学憲章及び教育目標に鑑み、地域の活性化及び国際社会の発展に貢献していくため、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、多様なコミュニケーションができる能力
3. 自ら進んで様々な社会活動に参加し、省察し、その上で、将来の課題を発見し、その探究・解決を志向し続けられる実践力

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

■修士(博士前期)課程

修士(博士前期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における基礎的な研究能力
- 高度な学識と専門性を活かして地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■博士(博士後期)課程

博士(博士後期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における独創的な研究能力
- 専門分野で指導的な役割を担い、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■専門職学位課程

専門職学位課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に専門職学位を授与します。

- 高度専門職業人として求められる責任感、職業倫理観、及び実務能力
- 専門分野で指導的な役割を担うことのできる能力

鹿児島大学教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成
 - ① 幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目を配置します。
 - ② 自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目を配置します。
 - ③ 大学、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開します。
 - ④ アクティブ・ラーニングの推進を通して、学生が倫理観をもって自主的に問題に取り組むことを支援する教育を展開します。
 - ⑤ 人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島特有の資源を活用した教育を展開します。
2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。
3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

大学院

鹿児島大学大学院は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

1. 進学から学位取得に至るまで系統性のある教育課程の編成

①修士(博士前期)課程

- 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 専門分野における基礎的な研究能力と高度な専門性を発揮できる実践的な能力を身につけた人材を育成する教育を展開します。

②博士(博士後期)課程

- 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 鹿児島大学の多様な学術的研究を背景に、課題の発見・探究・解決を目指す研究者や、専門分野を牽引していく役割を担うことのできる専門家を育成する教育を展開します。

③専門職学位課程

- 高度専門職業人として、固有の専門業務に必要な深い学識と卓越した能力を養成する体系化した教育を展開します。
- 学外との連携を通じた実務教育を行い、地域に根ざした高度専門職業人としての責任感と倫理観を養成する教育を展開します。
- 専門分野において、指導的な役割を担う実務家を養成する教育を展開します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

鹿児島大学入学者受入の方針(アドミッション・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

1. 鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
2. 人間としてのモラルを大切にし、教養をより高めようとする人
3. 知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
4. ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

このような学生を適正に選抜するために、学部・学部の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

■修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程

1. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人
2. 主体的に学ぶ態度を身につけ、専門分野に関連する諸問題に関心をもつ人
3. 自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人

■専門職学位課程

1. 高度専門職業人をめざす明確な問題意識・関心を持ち、幅広い教養と柔軟な思考力をもつ人
2. 専門職技能並びに実践力を身につけたい人
3. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人、または、当該分野の基礎資格や現場での経験を有する人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

鹿児島大学男女共同参画基本理念

男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の最重要課題であると位置づけています。男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。この実現には、教育・研究の場であるとともに、就業の場である大学の果すべき役割・社会的責任が極めて大きいものと考えます。

鹿児島大学は、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画社会実現の意義と責任を認識しつつ、21世紀の総合大学に期待される使命を自覚し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざし、以下の基本理念の下、男女共同参画を積極的に推進します。

<基本理念>

鹿児島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

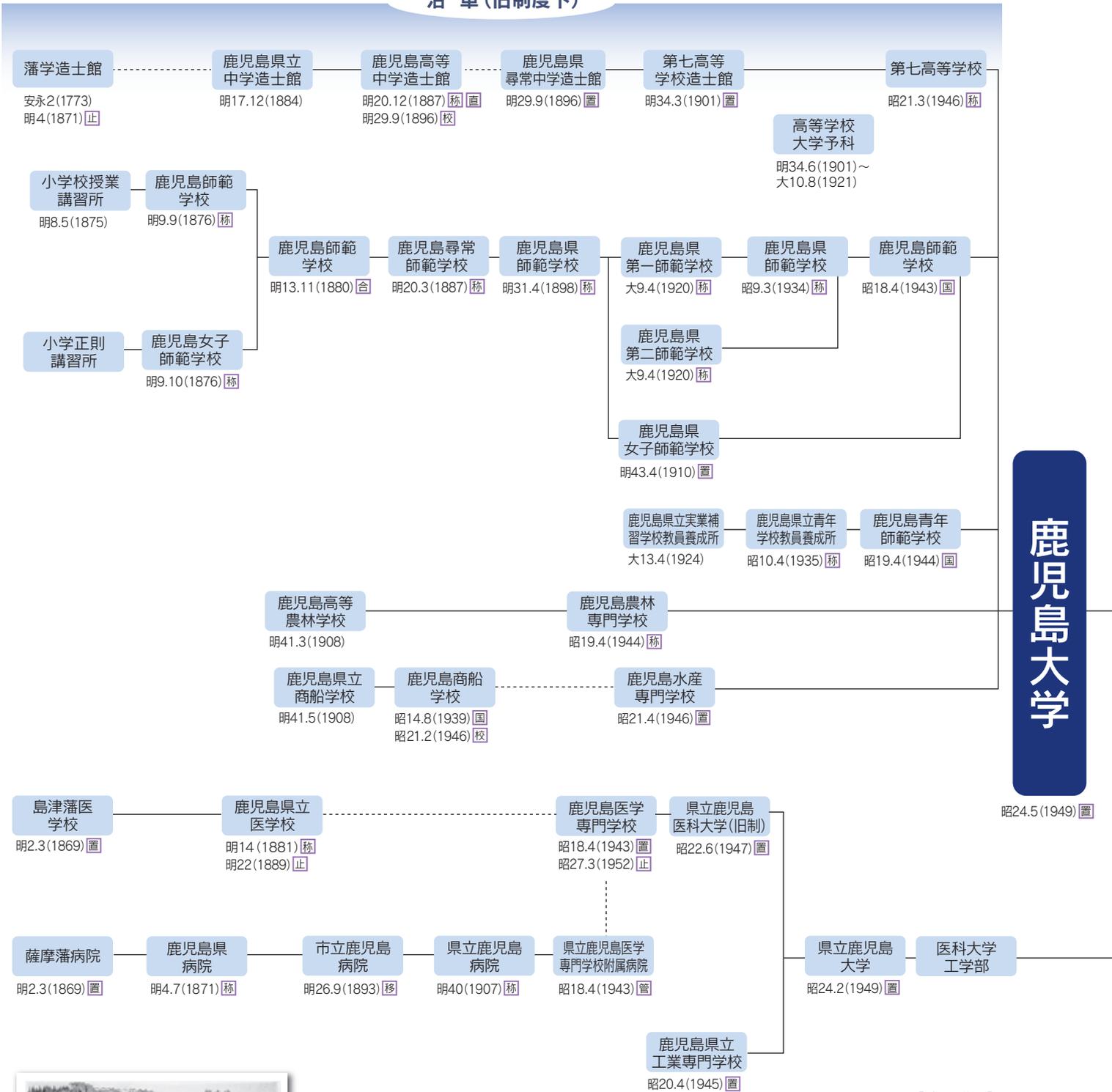
「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」

<行動指針>

1. 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立および大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大します。
2. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視した施策を推進するための環境を整備します。
3. 女性の能力開発・能力発揮(エンパワーメント)を支援するために、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進、女性キャリアガイダンスの充実、再チャレンジ支援などを行います。
4. 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域(地方自治体、教育機関、医師会、企業、NPO等)と連携して積極的に推進します。

平成22年1月21日制定
教育研究評議会決定

沿 革 (旧制度下)



鹿兒島大学

昭24.5(1949)直



藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)



第七高等学校造士館前景

- 【略記説明】
- 置: 設置
 - 称: 改称
 - 組: 改組
 - 定: 認定
 - 加: 参加
 - 校: 廃校
 - 離: 離脱
 - 止: 廃止
 - 造: 建造
 - 移: 移管
 - 停: 募集停止
 - 国: 国立移管
 - 管: 移管改称
 - 措: 学内措置
 - 合: 合併改称
 - 直: 文部省直轄

鹿児島大学

昭24.5(1949) 圖

鹿児島県立大学
昭24.6(1949) 稱

医学部
昭27.2(1952) 圖

【略記説明】

- 圖：設置
- 稱：改称
- 組：改組
- 定：認定
- 加：参加
- 校：廃校
- 離：離脱
- 止：廃止
- 造：建造
- 移：移管
- 停：募集停止
- 国：国立移管
- 管：移管改称
- 措：学内措置
- 合：合併改称
- 直：文部省直轄

学部

- 文理学部 昭47.3(1972) 直
- 第七高等学校 昭25.3(1950) 直
- 鹿児島師範学校 昭26.3(1951) 直
- 鹿児島青年師範学校 昭26.3(1951) 直

教養部

- 鹿児島県立大学医学部 昭33.4(1958) 直
- 県立鹿児島医科大学(旧制) 昭36.3(1961) 直
- 附属熱帯医学研究施設 昭35.4(1960) 圖、昭57.3(1982) 直
- 附属病院霧島分院 昭33.5(1958) 圖
- 附属看護学校 昭33.5(1958) 圖
- 附属助産婦学校 昭33.5(1958) 圖
- 附属保健婦学校 昭36.4(1961) 圖
- 附属腫瘍研究施設 昭42.6(1967) 圖
- 昭63.3(1988) 直
- 昭63.3(1988) 直
- 平元.3(1989) 直
- 平元.3(1989) 直
- 平15.3(2003) 直
- 鹿児島県立大学工学部 昭33.4(1958) 直
- 鹿児島農林専門学校 昭27.3(1952) 直
- 鹿児島水産専門学校 昭26.3(1951) 直

大学病院

- 医学部附属病院 昭33.5(1958) 圖、平15.9(2003) 直
- 歯学部附属病院 昭55.4(1980) 圖、平15.9(2003) 直

大学院

- 法学研究科 昭54.4(1979) 圖、平15.3(2003) 直
- 人文社会科研究科 昭61.4(1986) 圖、平13.9(2001) 直
- 理学研究科 昭52.4(1977) 圖、平12.3(2000) 直
- 工学研究科(修) 昭43.4(1968) 圖

専攻科

- 県立鹿児島医科大学研究科(旧制) 昭29.5(1954) 圖、昭36.3(1961) 直
- 教育専攻科 昭34.4(1959) 圖、平6.3(1994) 直
- 理学専攻科 昭44.4(1969) 圖、昭52.3(1977) 直
- 工学専攻科 昭34.4(1959) 圖、昭43.3(1968) 直
- 農学専攻科 昭29.4(1954) 圖、昭41.3(1966) 直
- 水産専攻科 昭34.4(1959) 圖、昭44.3(1969) 直
- 遠洋漁業学特設専攻科 昭28.4(1953) 圖、昭49.4(1974) 稱
- 水産専攻科 平15.3(2003) 直

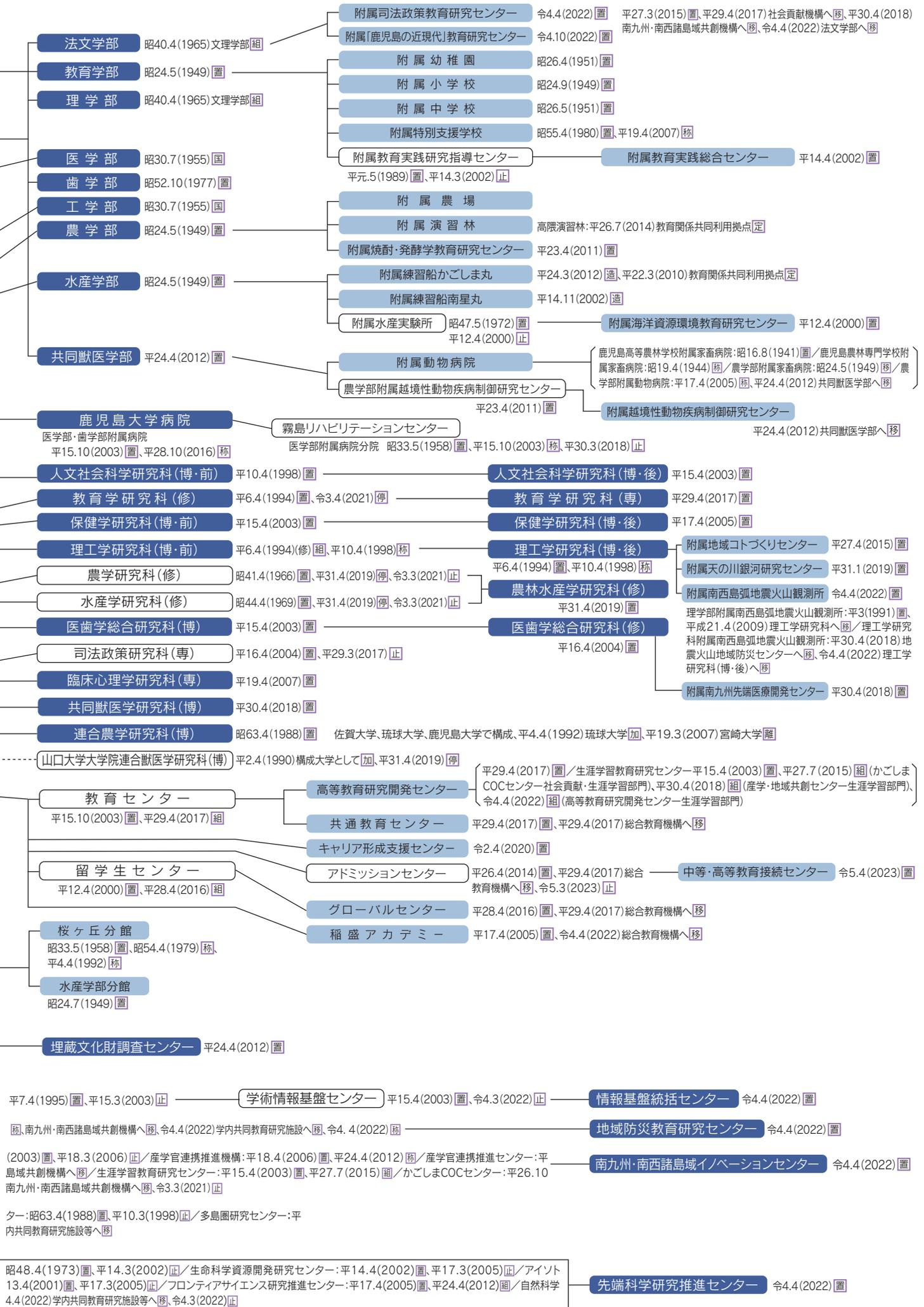
機構

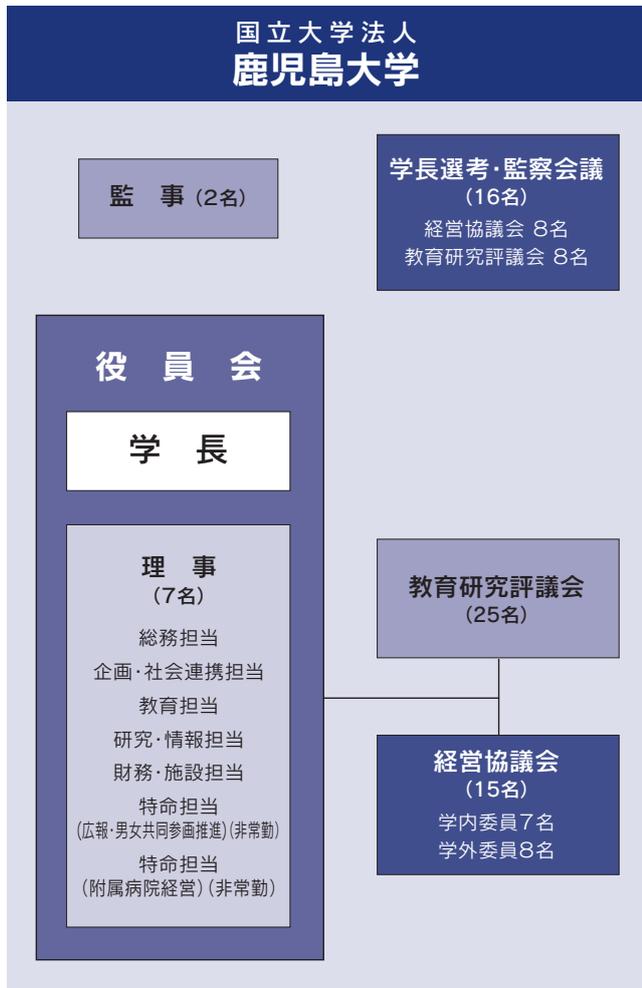
- 総合教育機構 平29.4(2017) 圖
- 研究推進機構 平29.4(2017) 圖、令4.3(2022) 直
- 難治ウイルス病態制御研究センター 平16.4(2004) 圖、平31.3(2019) 直
- 社会貢献機構 平29.4(2017) 圖、平30.4(2018) 組
- 南九州・南西諸島域共創機構 平30.4(2018) 圖、令4.3(2022) 直

学内共同教育研究施設等

- ヒトレトロウイルス学共同研究センター 平31.4(2019) 圖 (熊本大学との共同設置)
- 附属図書館 昭24.5(1949) 圖
- 保健管理センター 昭47.5(1972) 圖
- 総合研究博物館 平13.4(2001) 圖
- 埋蔵文化財調査室 昭60.6(1985) 圖、平24.4(2012) 稱
- 研究支援センター環境保全施設 環境安全センター 平31.4(2019) 圖
- 情報処理センター 昭62.12(1987) 圖、平7.3(1995) 直
- 総合情報処理センター
- 地震火山地域防災センター 地域防災教育研究センター：平23.6(2011) 圖、平成29.4(2017) 社会貢献機構へ 圖、平30.4(2018)
- 産学・地域共創センター 地域共同研究センター：平4.4(1992) 圖、平18.3(2006) 直 / 知的財産本部：平15.12 24.4(2012) 圖、平29.4(2017) 社会貢献機構へ 圖、平30.4(2018) 圖、南九州・南西諸(2014) 圖、平27.7(2015) 圖、平29.4(2017) 社会貢献機構へ 圖、平30.4(2018) 圖、
- 国際島嶼教育研究センター 南方海域研究センター：昭56.4(1981) 圖、昭63.3(1988) 直 / 南太平洋海域研究セン 10.4(1998) 圖、平22.4(2010) 圖、平29.4(2017) 研究推進機構へ 圖、令4.4(2022) 学
- 医用ミニブタ・先端医療開発研究センター 遺伝子実験施設：平8.5(1996) 圖、平14.3(2002) 直 / 医学部附属動物実験施設：一 総合センター：平11.4(1999) 圖、平17.3(2005) 直 / 機器分析センター：平 教育研究支援センター：平24.4(2012) 圖、平29.4(2017) 圖、研究推進機構へ 圖、令
- 研究支援センター

医療技術短期大学部
昭60.10(1985) 圖、平11.4 (1999) 医学部保健学科に 組、平14.3(2002) 直





鹿児島大学



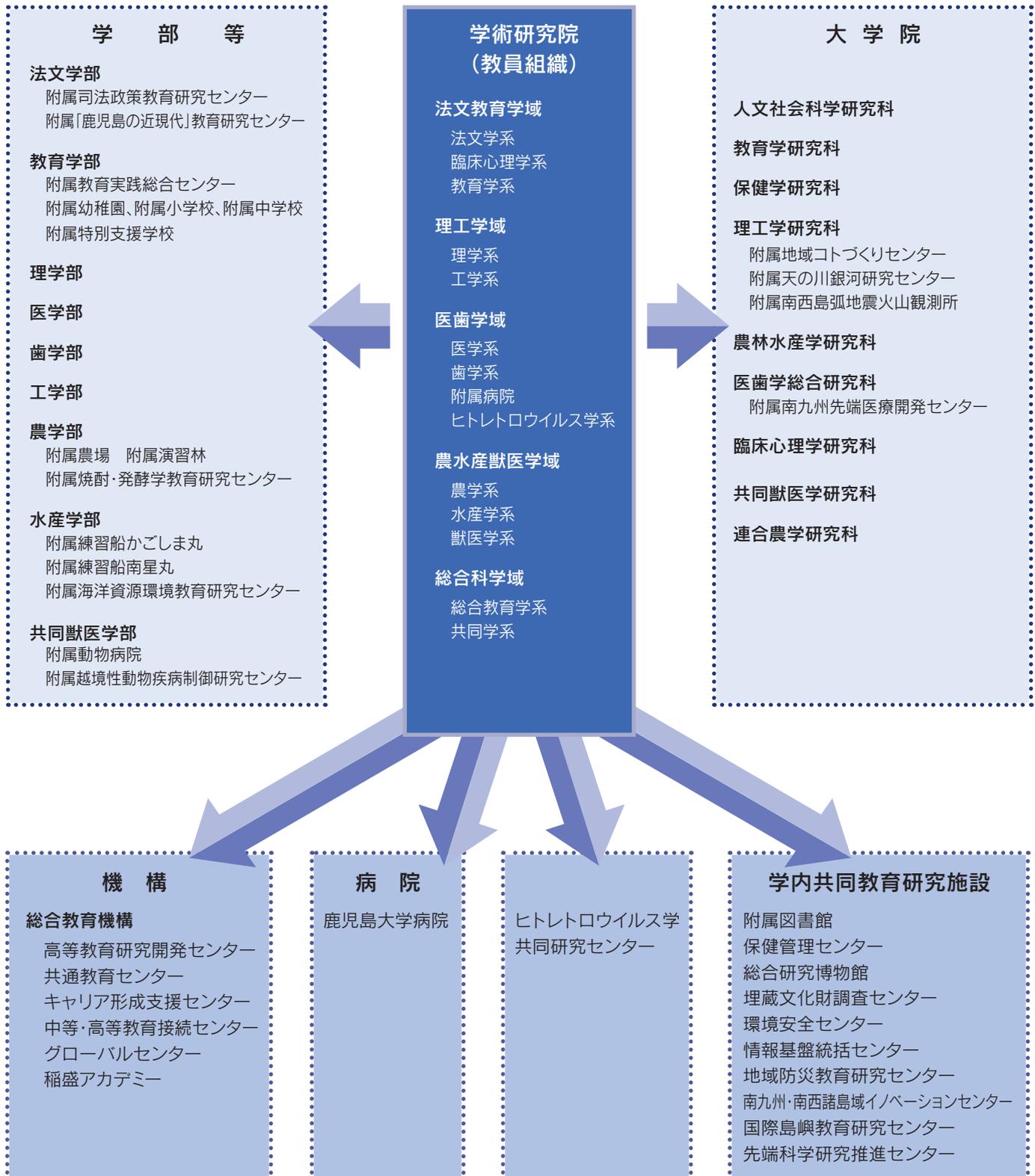
【学術研究院】

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、現行の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院(教員組織)を平成27年4月1日に設置しました。

学術研究院は、5つの「学域」と14の「学系」からなり、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じた組織となっています。

学術研究院長には学長を充て、今まで学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行うこととしています。

教育研究組織 (令和5年4月1日)



法文学部



法経社会学科／人文学科

藩学造士館、旧制第七高等学校の系譜を引く法文学部は、現在、法経社会学科（法学コース、地域社会コース、経済コース）、人文学科（多元地域文化コース、心理学コース）の2学科5コースを擁する南九州唯一の人文社会系総合学部となっており、附属施設として「鹿児島県の近現代」教育研究センターおよび司法政策教育研究センターを有している。

本学部では、「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」という「3つの学び」を実現し、各コースの履修モデルにしたがった実践的できめ細かな専門教育と、学際的な知識と現場感覚を身につける「法文アドバンスト科目」などの教育プログラムを展開することで、総合的な観点から人間と社会を深く理解し、情報化、国際化および地域社会の変化にともなう諸問題に適切に対処できる課題解決能力を持った人材の育成を目指している。

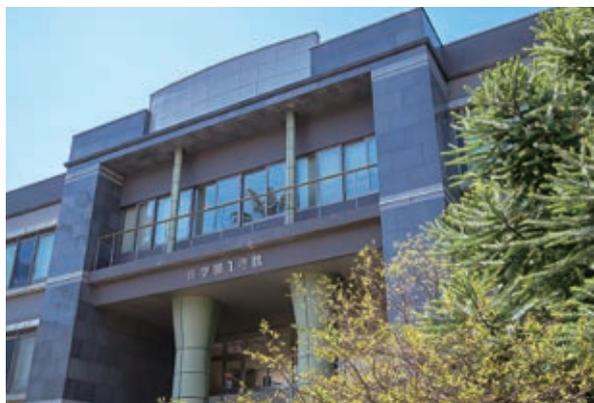
教育学部



学校教育教員養成課程

教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。令和2年4月には、学校教育教員養成課程（初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コース）1課程に改組し、Society5.0に向けて、これからの社会を生きて行く子供の学ぶ力・学び続ける力を地域との関わりの中で育てるために、自らの専門性を効果的に活かして多様な他者と協働し、グローバルな視野をもって、地域を活かし輝かせる教員の養成を目指している。

理学部



理学科（数理情報科学プログラム、物理・宇宙プログラム、化学プログラム、生物学プログラム、地球科学プログラム）

「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究とともに、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- * 創造的で指導的な役割を担う専門的職業人として活躍できる人材
- * 未知の課題に挑戦する研究者・技術者として活躍できる高度な研究能力を有する人材

医学部



医学科／保健学科

医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として招聘した薩摩藩医学校を源流とし、昭和18(1943)年に開校した県立鹿児島医学専門学校を直接の前身とする。その後幾多の変遷を経て、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部となった。平成10(1998)年には保健学科が設置され、2学科体制となり、平成30(2018)年に医学部創立75周年、保健学科設置20周年を迎えた。人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ、医学・医療を担う人材を育成することを使命として掲げた教育・研究・診療を実践し、これまでに両学科を合わせて1万人を超える医療人を輩出している。鹿児島県のみならず、日本全国、さらに海外で人々の健康と福祉の向上、医学・医療の発展に多大な貢献をしている学部である。

歯学部



歯学科

歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置され、平成29(2017)年に創立40周年を迎えた。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と問題解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、および治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としている。また、県内離島の歯科巡回診療同行実習や海外の大学での研修などを通して、地域医療の重要性を理解し、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を有する人材を育成している。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

工学部



先進工学科（機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、海洋土木工学プログラム、化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、情報・生体工学プログラム）
／建築学科（建築学プログラム）

工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科系学徒の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取り組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつひとりひとりの学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する2学科7プログラム編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。令和4年には、文部科学省「数理データサイエンスAI教育プログラム(応用基礎レベル)」に認定されるなど、数理データサイエンスAIに関する教育へ強化を図っている。

農学部



農業生産科学科／食料生命科学科／農林環境科学科
／国際食料資源学特別コース(農学系サブコース)

農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、農業生産科学科(3教育コース)、食料生命科学科(3教育コース)、農林環境科学科(3教育コース)の3学科ならびに農・水産分野からなる国際食料資源学特別コースから構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林及び附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。

水産学部



水産学科／国際食料資源学特別コース(水産学系サブコース)

水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「就職に強く学生に親切な水産学部」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の調査と保全、グローバル化する産業社会や「食」に関わる生活文化の創出において、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保とその生産基盤である海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、資源・環境・食品分野に強く、高度で先端的教育を受けた水産技術者を養成し、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国をはじめとする国際社会で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を多数送り出している。また、ISO9001認証に準拠した独自の教育システムを運用し、弛まぬ改善と教育の質の保証に取り組んでいる。農学部と連携した国際食料資源学特別コースも設置し、世界の食料問題に取り組むグローバル人材の育成も強化している。

共同獣医学部



獣医学科

共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学と山口大学による共同教育課程は、欧米水準の獣医学教育を目指し、令和元年6月には、国内及びアジアで初めてEAEVE(欧州獣医学教育機関協会)による教育認証を取得した。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指している。教育病院である附属動物病院には、小動物診療センターに加え、大動物診療センター、軽種馬診療センター、大隅産業動物診療研修センターを置く。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、高病原性鳥インフルエンザや狂犬病などの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

鹿兒島大学病院

鹿兒島大学病院は、平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、平成28年10月1日から病院名称を鹿兒島大学病院とした。なお、病院再開発計画として、平成19年から建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿兒島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

また、平成26年4月に、県より救命救急センターとしての指定を受け、平成26年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指している。なお、平成28年4月には災害拠点病院、平成29年11月には原子力災害拠点病院の指定を受けている。

教育面では、平成25年度に「総合臨床研修センター」を設置し、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めており、平成28年8月には、九州の国立大学病院として初めて、厚生労働大臣から看護師の「特定行為研修指定研修機関」に指定されている。

なお、平成30年2月には、医療環境体制の充実と療養環境の向上を目指した新病棟(B棟)が完成し、平成30年3月には、霧島リハビリテーションセンターを閉院した。令和元年9月には「がんゲノム医療拠点病院」として指定され、鹿兒島県におけるがんゲノム医療を推進している。

診療センター	部門科	中央診療施設等	プロジェクトセンター
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救命救急センター(救急科) ■集中治療部 ■輸血・細胞治療部 ■周産母子センター ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部・病理診断科 ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター(病理遺伝子診断科) ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■HIV対策室 ■緩和ケアセンター ■歯科口腔ケアセンター ■超音波センター ■ME機器センター ■探索的医療開発センター ■外科医療振興センター ■心血管病低侵襲治療センター ■ロボット手術センター ■難治性腸疾患支援センター ■医療器材管理部 ■医療情報部 ■総合臨床研修センター ■医療安全管理部 ■感染制御部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理部 ■臨床研究管理センター ■看護師特定行為研修センター	■下垂体疾患センター ■ヒトゲノム遺伝子解析センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科		薬 剤 部 看 護 部 臨床技術部 事 務 部
脳・神経センター	脳神経内科 脳神経外科		
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科		
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科		
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科		
メンタルケアセンター	神経科精神科		
小児診療センター	小児科 小児外科		
女性診療センター	産科、婦人科		
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科		
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科		
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科		
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科		
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科		
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科		
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯インプラント科		
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科		



▲病棟 (C 棟)



▲歯科診療棟・リハビリテーション病棟

人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年に設置され、博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)によって構成されている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試(秋入学)による留学生の受け入れ、遠隔授業制度(令和6年度より導入)など、社会のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。令和元年度には経済社会システム専攻に地域開発教育コースが設置され、地域開発に関わるグローバル人材の養成を目的として英語による教育を行っている。

博士前期課程

- 法学専攻
- 経済社会システム専攻
- 人間環境文化論専攻
- 国際総合文化論専攻

博士後期課程

- 地域政策科学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、平成29年4月にこれまでの修士課程(教育実践総合専攻)に加え、新たに専門職学位課程(学校教育実践高度化専攻)を設置した。令和3年4月には、修士課程(教育実践総合専攻)の募集を停止するとともに、専門職学位課程(学校教育実践高度化専攻)の入学定員を増員した上で、学校教育実践高度化専攻の1専攻に再編成した。

学校教育実践高度化専攻は、指導力・展開力を備え、様々な教育課題に取り組む新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員や、確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備え、地域や家庭と連携しつつ学校において指導的役割を果たしうるスクールリーダーとしての中核的教員の養成を目的とする。所定の科目を履修すると修了時に教職修士(専門職)の学位が与えられる。

また、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭・養護教諭・特別支援学校教諭(知・肢・病)の一種免許状を所有していると、条件に応じて専修免許状を取得することもできる。

専門職学位課程

- 学校教育実践高度化専攻

保健学研究科

保健学研究科は、保健学に関する優れた専門知識・技術をもつ高度専門職業人並びに卓越した教育や研究のできる人材及び離島・へき地や国際的な保健医療活動の推進・充実に貢献できる人材を育成し、併せて教育研究の成果及び情報を広く提供し、社会に貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)優れた専門知識・技術をもつ高度専門職業人の育成、(2)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究ができる人材の育成、(3)離島・へき地や地域の保健医療活動の充実、向上に貢献できる人材の育成、(4)国際保健医療活動を推進できる人材の育成を教育目標としている。

なお、博士前期課程(看護学領域)には、放射線看護専門コース(定員2名)、島嶼・地域看護学コース(定員2名)、助産学コース(定員7名)を設置している。

博士前期課程

- 保健学専攻
 - 看護学領域
 - 保健学領域

博士後期課程

- 保健学専攻
 - 保健看護学分野
 - 神経運動障害基礎学分野
 - 臨床精神神経障害学分野

理工学研究科

理工学研究科は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもと、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極め、社会の発展に寄与する高度専門職業人の育成を目的としている。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に2専攻12プログラム(PG)、博士後期課程に1専攻2コースを設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

博士前期課程

- 理学専攻
 - 数理情報科学PG 物理・宇宙PG
 - 化学PG 生物学PG 地球科学PG
- 工学専攻
 - 機械工学PG 電気電子工学PG
 - 海洋土木工学PG 化学工学PG
 - 化学生命工学PG 情報・生体工学PG
 - 建築学PG

博士後期課程

- 総合理工学専攻
 - 基盤研究コース 先端科学技術コース

農林水産学研究科

農林水産学研究科は農学研究科と水産学研究科を前身として平成31年(2019年)4月に設立された。個々のニーズにきめ細かく対応出来、先進的スマート農畜林水産業の創出等を担える人材を育成するため、南西諸島と南九州の環境や食品・生命科学に関する農水融合型の「環境フィールド科学専攻」「食品創成科学専攻」、及び資源の持続的生産に向けたイノベーションを重視した「農林資源科学専攻」「水産資源科学専攻」の4専攻を設置している。学生は植物生産科学、畜産科学、地域ビジネス、食品流通、養殖、食品創成に関する生産活動、食と健康、及びそれらの基盤となる地域の環境特性、亜熱帯化、森林科学、防災、水産資源、地域の生物環境等の、高度な専門知識と研究・開発手法を学修する。それらに基づき、農畜林水産業や食品産業における問題を提起し、地域社会において指導的立場での解決方策を示す能力を持つ人材を養成する。また、グローバル化人材を育成する「ダブル・ディグリープログラム」、「熱帯水産学国際連携履修プログラム」及び課程修了に必要なすべての学修を英語で行う「留学生プログラム」を開設している。

修士課程

- 農林資源科学専攻
- 食品創成科学専攻
- 環境フィールド科学専攻
- 水産資源科学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、12講座、3プロジェクト講座、3連携講座のほか、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)や、本研究科の優れた研究シーズの非臨床・臨床開発と実用化への一体的な支援・推進を行う南九州先端医療開発センター(平成30年4月)を含む8研究センター、5共同研究講座、8寄附講座が設置されている。

修士課程

- 医科学専攻

博士課程

- 健康科学専攻
- 先進治療科学専攻

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理分野専門職学位課程であり、高度専門職業人の臨床心理士養成を主眼に平成19年度に国立大学初の独立研究科として設置された。学位は臨床心理修士(専門職)である。教育理念に(1)個別支援、集団支援、地域文化を理解した地域支援、危機介入支援ができる人材の育成、(2)教育、福祉、医療、司法・矯正領域等で即戦力となる人材の育成を掲げ、理論と実践を架橋すべく学内・学外実習を充実強化した2年間の教育課程を編成し、教育研究教員と実務家教員の協働による講義・演習・実習を連動させた指導を展開している。要件を満たす者には公認心理師受験資格も提供している。

入学定員は15人で、修了後は精神科を始めとする医療関係、児童養護施設、スクールカウンセラー等における心理職、県市町村の心理職や、家庭裁判所調査官補、法務技官等の公務員心理職に就いており、博士後期課程に進学し研究職に就いている者もいる。

専門職学位課程

- 臨床心理学専攻

共同獣医学研究科

共同獣医学研究科は、平成30年4月に鹿児島大学10番目の大学院として設置された。当研究科は、山口大学に設立された共同獣医学研究科と、修業年限4年間の共同教育課程(博士課程)を組み、2つの教育コースを設けている。一つは獣医科学コースで、我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。もう一つは獣医学専修コースで、実験動物の健康と福祉に寄与する実験動物医学専門医、病理学的診断により疾病制御を担う病理学専門家等の高度獣医学専門家、あるいは先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成する。2つの教育コースとも修了要件を満たした場合、博士(獣医学)の学位が授与される。

博士課程

獣医学専攻

連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して安全・安心な食料生産と生物資源の環境保全を目指す、農林水産学分野における高度な専門教育と研究を行っている。3つの専攻の中には農学・林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業(タカラバイオ(株))との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座など、特徴ある分野が設置されている。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

(注)連合農学研究科は、3大学(佐賀、琉球、鹿児島)で構成

博士課程

生物生産科学専攻

応用生命科学専攻

農水圏資源環境科学専攻

総合教育機構は、本学における学士の質保証、共通教育の実質化と高度化、そして地域人材の育成を全学的かつ学部横断的に行うことを目的として設置された本学全体の学修を支える組織であり、以下の6センター等から構成されている。

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、国内外の高等教育(≒大学)について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査・検討を行っている。また、全学的な教育カリキュラムの構築と改善、教育改革についての提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発なども実施している。限られた学内資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が本センターに期待されている。

すなわち、本センターの活動には、「大学において大学を研究する」という側面と、「鹿児島大学において鹿児島大学について調査・検討する」という側面がある。そしてこの2つの取組の成果を、鹿児島大学における教育の改善につなげていくとともに、我が国の高等教育の発展にも資することが、本センターの大きな役割である。

近年、上記のように「大学が大学自身を調査・検討すること」をIR(Institutional Research)、「教職員の能力開発を行うこと」をFD(Faculty Development)やSD(Staff Development)と呼ぶ。これらの活動のうち、FDとSDについては大学の義務であるとされ、本学においても全学や各学部のFD委員会を中心に様々な取組が行われている。本センターは全学FD委員会において、IRで得られたデータを活用しつつ、FD・SD活動の企画立案を担っている。

さらに、学部横断型の全学的な取組である「地域人材育成プラットフォーム」において、教育プログラムの構築及びコーディネートを担当するのも本センターである。この「地域人材育成プラットフォーム」は、学習のプロセスと成果を管理するためのラーニング・マネジメント・システム(LMS)やe-ポートフォリオの導入などを通じて、地域人材育成の基盤というだけでなく、鹿児島大学における教育改革の重要な牽引役となる。その質的向上および量的拡大は、本学の将来を左右する大きな試金石であると言える。

なお、令和4年度から旧産学・地域共創センターの生涯学習部門が高等教育研究開発センターに機能統合された。

- 人口減少型社会を見据えた生涯学習の質的転換の取組
- 青年期教育と成人教育、教養教育と職業教育などを接続させた高等教育機関としての生涯学習推進
- 地域の生涯学習の再構築への学校、行政、民間などと協働しての取組



▲FD・SD合同フォーラムの様子(鹿児島大学FD委員会・大学地域コンソーシアム鹿児島共催)



▲総合教育機構地域人材育成プラットフォームパンフレット

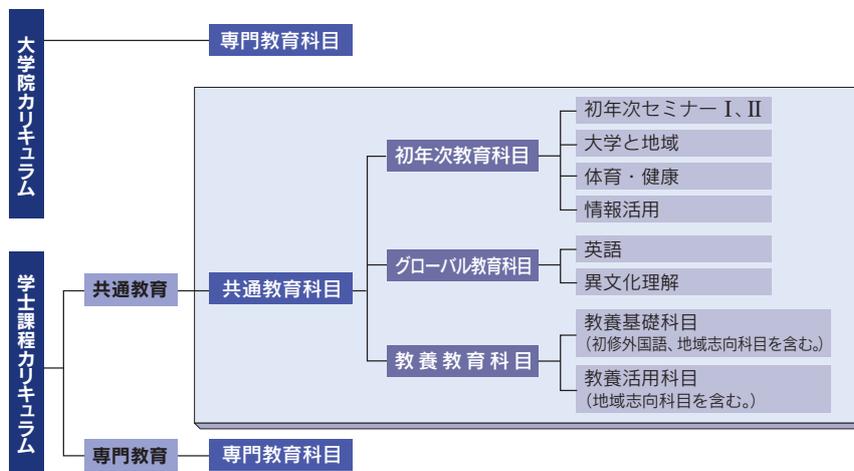
共通教育センター(共通教育)

平成15年10月に設置された教育センターは、平成29年4月の総合教育機構の設置に伴い共通教育センターと高等教育研究開発センターへ再編された。

共通教育センターは、共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負う組織であり、全学協力体制に基づき実施する共通教育及び学芸員資格科目に関する企画・立案・実施、並びに教育に係る全学的な連絡調整等を行うことにより、鹿児島大学における教育の充実・発展を図ることを目的としている。

また、共通教育は、旧制第七高等学校時代以来連続と引き継がれてきた学士課程教育の一つであり、大学での学び方や大学と地域との関わりを理解するとともに、自主自律的に学び続けるための基盤となる初年次教育、グローバル化が進む社会で貢献するための基盤となるグローバル教育、社会に貢献できる能力を養成するための教養教育をとおして、真理を愛し高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい国際社会で活躍しうる人材の育成を目指しており、鹿児島大学における教育の礎となっている。

鹿児島大学教育課程 (大きな枠内が共通教育センターの教育)



▲共通教育科目「屋久島の環境文化Ⅰ-植生-」授業風景



▲共通教育棟1号館

キャリア形成支援センター

キャリア形成支援センターは、全学的なキャリア形成支援体制のもとで、キャリア教育及びインターンシップを含めたキャリア形成・就職支援を充実・推進し、学生の多様なキャリア形成を全学的立場から支援することを目的として、令和2年4月1日に設置された。

【主な業務内容】

- キャリア教育の研究開発・実施
- キャリア・就職支援の企画立案・実施
- インターンシップの企画立案・実施
- 鹿児島大学地域人材育成プラットフォーム(かごしまキャリア教育プログラム)の運営及び実施
- 学生(卒業生及び中途退学者を含む)へのキャリア・就職に係る指導助言
- キャリア教育やキャリア・就職支援、インターンシップ等に関する調査・分析及び報告
- 求人その他の就職及びインターンシップ情報の収集・提供



▲センターの様子



▲専門スタッフが配置されたインターンシップ窓口

中等・高等教育接続センター

中等・高等教育接続センターは、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、入学者選抜方法の検証、学生確保に係る広報活動、中等・高等教育接続に関する事業等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的とし、前身のアドミッションセンター(平成26年4月設置)を廃止して、令和5年4月に設置された。

【主な業務内容】

- 多面的・総合的な能力の評価を行う入試の実施へ向けた各種調査・検討およびシンポジウム等の開催
- 入試結果の分析・評価や入学後の学業成績の追跡調査等を通じた入学者選抜機能の検証
- 鹿児島県内各地での「鹿児島大学説明会(単独主催)」の開催をはじめ、高校および高校生と大学との相互理解を深める
「高校訪問」の企画実施、高校等からの大学訪問の受入といった入試広報活動
- 中等教育と高等教育との連携 ●入学前教育と補習教育の体系化



▲「鹿児島大学説明会」の様子

グローバルセンター

グローバルセンターは鹿児島大学の教育研究の国際化推進を目的に、留学生センター(平成12年設置)と国際連携推進センター(国際戦略本部(平成17年設置)を平成24年に改名)を統合して、平成28年4月に設置された。「鹿児島大学 進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム」(P-SEG Interactive)の運営を通して学生の海外派遣を促進するとともに、外国人留学生を対象とした「Study Japan Program」で日本語・日本文化教育を提供し、留学生の受入を促進している。平成30年度には「大学の世界展開力強化事業」(補助期間5年間)に採択され、全学の国際教育推進を統括している。



▲「ベトナム学生海外研修」の様子



▲37カ国368名の外国人学生が留学中!

キャンパス・グローバル化部門

- 国際教育研究プロジェクトの推進
- 海外の大学・研究機関との連携強化
- 国際社会に向けた情報発信

外国人留学生部門

- 全学留学生向け日本語、日本文化・異文化理解教育
- 外国人留学生への生活・学習支援
- 留学生と地域との交流促進

学生海外派遣部門

- 「進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム」(P-SEG Interactive)の実施
海外研修、学術交流協定校、トビタテ!留学JAPAN等の派遣留学促進
- 海外留学に必要な情報の提供、相談・指導
- 日本人学生と外国人留学生の協働学修促進

稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された鹿児島大学名誉博士の稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長(当時)および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置し、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としている。このため稲盛哲学(フィロソフィ)の探究および継承・発展を基盤に据え、人材育成を目指した教育研究および社会貢献(人間教育、経営教育、地域・国際連携)を展開するとともに、名誉博士創設の国際賞「京都賞」関連行事などを通じた地域および国際との連携・協働を図っている。

学内向けプログラム

- 共通教育科目の提供:「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
- 国内体験学習や海外研修などの学習機会の提供
- 「京都賞」関連行事の開催

学外向けプログラム

- 「履修証明プログラム」に基づく社会人向けプログラム「稲盛経営哲学」の実施
- 「公開シンポジウム」、「特別セミナー」の実施
- 「稲盛哲学」に関する国内外における研修の支援



ヒトレトロウイルス学共同研究センター

ヒトレトロウイルス学共同研究センターは平成31年4月に鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターを再編・統合した新しい共同研究センターとして設置された。前身の両センターは、それぞれ20年以上にわたるHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）やHIV-1（ヒト免疫不全ウイルス1型）研究の歴史がある。本共同研究センターではこれらのレトロウイルスとは異なる研究領域であるHBV（B型肝炎ウイルス）を加えた3つのウイルスの診断法・治療法の開発を目指した共同研究を実施する。血液や神経の病気の原因となるHTLV-1やHIV-1と肝疾患の原因となるHBVはこれまで研究交流がほとんどなかったが、3つのウイルスは逆転写酵素をもち排除が困難という共通点をもつため、新しい研究体制ではこれまでにない発想による新しい治療法の開発を目指している。HTLV-1感染により、成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)や鹿児島大学で発見・命名されたHTLV-1関連脊髄症（HAM/TSP）を発症するが、これらの疾患に対しては、いまだに有効な治療法が開発されていない。HIV-1感染では、ウイルスの増殖を抑制する抗ウイルス剤が開発されエイズの発症を予防できるようになったが、ウイルスそのものを排除できないため、一生涯薬を飲み続けなければならない問題が残っている。HBV感染では致死的な肝硬変や肝癌を発症するが、ウイルスを完全に排除する治療法の開発はなされていない。本センターでは基礎研究と医薬品開発の橋渡しを担当するトランスレーショナルリサーチ部門を新設し、抗ウイルス剤と抗がん剤の開発を進めていく。さらに世界的な喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症についても、治療法などの研究開発を行う。

本共同研究センターでは、従来の共同研究では実施されなかった、教員の共同選考や、大型機器の計画的な導入等の、人的・物的資源の最適化を実施する全国的にも初の試みがなされるため、少子化時代の地方国立大学連携の新しいモデルケースとなる。



▲センター建物



▲センター実験室



附属図書館

附属図書館は、中央図書館(郡元キャンパス)、桜ヶ丘分館(桜ヶ丘キャンパス・医学図書館)および水産学部分館(下荒田キャンパス・水産学図書館)の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、一般市民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングcommonsとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

国民の祝日、年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋地上5階地下2階建(平成8年12月竣工)

総座席数 915席 図書蔵書冊数 1,010,070冊



【桜ヶ丘分館(医学図書館)】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

国民の祝日、年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋3階建(昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築・令和4年3月改修)

総座席数 202席 図書蔵書冊数 161,555冊



【水産学部分館(水産学図書館)】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

日曜日、国民の祝日、年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋2階建(昭和45年2月竣工・平成26年3月改修)

総座席数 130席 図書蔵書冊数 59,283冊



保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としている。

センターでは、医師、保健師のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、神経科精神科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行っている。さらに学医とカウンセラー、キャンパスソーシャルワーカーがこころの健康相談及び学生支援を行っている。桜ヶ丘キャンパスには分室があり、保健師が健康相談業務を行っている。

また、定期健康診断Web問診システムや感染症申請Webシステムを確立し、学生の健康状態等の把握に努めている。

【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- こころの健康相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行（定健受診者のみ）
- 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 環境衛生および感染症予防に関する指導
- 卒煙支援
- 心肺蘇生法講習会
- 産業界活動



総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニュースレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲特別展

埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学では、郡元キャンパス・桜ヶ丘キャンパス・唐湊学生寮・指宿植物試験場・入来牧場に埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されている。埋蔵文化財調査センターは、学内の施設整備事業等によって影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的として設置されている。センターの主な事業としては、校舎建設等工事に伴う発掘調査などの調査研究の実施や、調査報告書の作成、出土遺物の管理や活用などである。また、学内遺跡における研究成果公開の取組として、一般市民向けの体験発掘や遺跡見学会、公開講座などを開催している。



▲発掘調査の様子

環境安全センター

大学は高度で専門的な教育・研究活動が行われる場であり、新しい発見、有用な成果、人材育成により社会の発展に貢献している。その一方で、多種多様な廃棄物も発生しており、特に、実験廃液には危険性・有害性が高い性状のものも多くある。これらの安全・適正な取り扱いと処理は一事業場として当然のことであるが、万一問題が発生した場合には、個人として、そして組織として、迅速かつ適切に対応し、原因解明と再発防止に努める必要がある。

環境安全センターでは大学の教育・研究活動の結果生じる有害廃棄物の管理に関すること及び、実験排水の管理に関することについて全学から情報を集約し、安全・適切な管理を行えるよう体制を整備し、事故防止に貢献するとともに、学生・教職員に対し、適切な教育・指導・助言を行うことで安全・環境に関する高い知識と意識を持った人材の育成に貢献している。



情報基盤統括センター

情報基盤統括センター(2022年4月より学術情報基盤センターより改組)は、鹿児島大学のDX(Digital Transformation)を推進し、地域のDXを積極的に支援するとともに、大学の情報通信基盤を支え、情報環境の高度化の推進に取り組んでいる。また、授業・自習利用のための端末室を設置し、当該センターに、鹿児島大学IDで利用できる端末を190台準備し年間通じて(月～金 8:30～21:00、土日 13:00～18:00)利用できる。さらには、情報セキュリティマネジメントシステムJIS Q 27001(ISO/IEC27001)の認証を取得し、国際的な情報セキュリティ基準の下、安全な情報サービスを提供しているとともに、2016(平成28)年からサイバーセキュリティ戦略室を設置し、さらなるセキュリティ対策の強化及び事業継続計画対策、情報セキュリティ啓発活動、緊急を要するセキュリティインシデント事案への迅速な対応を行う体制も整えている。



地域防災教育研究センター

南九州から南西諸島にかけては、豪雨、台風、火山噴火、地震、津波などに起因する多様な自然災害が発生している。昨今の災害は、台風の大型化や長時間にわたる線状降水帯の渋滞などがみられ、土砂崩れ、住宅等の浸水・倒壊など生命や財産、インフラに甚大な被害をもたらしているほか、噴火により住民が避難を余儀なくされるなど災害は時代とともに変遷し、大規模化、複合化している。また原子力災害も考慮すべき新たな課題である。このため、こうした新たな事態に対応した地域防災体制の確立と、それを支える総合的な防災研究、防災教育の推進が喫緊の課題となっている。

鹿児島大学地域防災教育研究センターは、南九州から南西諸島における災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携して取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指している。

調査研究部門

- 豪雨、台風、火山噴火、地震、津波などに起因する多様な災害に関する調査研究
- 災害時の応急対応、災害医療、復旧復興策、防災対策、警戒避難等に関する調査研究

防災教育部門

- 本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営
- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援、防災士資格取得支援

地域連携部門

- 地 公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決
- 自治体、自主防災組織、企業等からの防災に関する問い合わせの対応



▲レジリエント社会・地域共創シンポジウム
(令和4年12月)

南九州・南西諸島域イノベーションセンター

南九州・南西諸島域イノベーションセンターでは、本学における研究支援・産学連携の中核的組織として専門教職員を配置し、学内研究者への外部資金獲得等の研究支援から、研究シーズと企業ニーズとのマッチングによる共同研究の推進、研究成果としての知的財産の保護・管理及びそのライセンスの推進、大学発ベンチャーによるイノベーションの創出まで、一体的で切れ目のない支援を行っている。また、南九州・南西諸島域の基幹産業である農林水畜産分野を中心に、関連産業である観光・エネルギー・ライフサイエンス等を含めた潜在的な地域課題「マイクロニーズ」を発掘して磨き上げ、それを起点に大学が持つ「研究シーズ」と「教育」、地域が持つ「フィールド」を融合させることで、イノベーションの創出及び人材の育成を目指す地域生産エコシステム「知とデータの地産地消」活動を推進している。

研究・産学地域連携ユニット

- 本学研究者が国際的に高い水準で研究を実施するための各種研究支援活動
- 地域産業界や自治体等からの技術相談対応、一元的な社会ニーズ収集・集約、潜在的な地域課題「マイクロニーズ」の発掘・収集
- 本学で生まれた研究シーズと企業ニーズとのマッチングによる共同研究・受託研究の推進
- 地域中小企業の研究・開発力強化を目指し、研究成果の可視化(試作・プロトタイプング)の場として「オープン実証ラボ・実証フィールド」を企画・運営
- 大学研究成果を収集した「研究シーズ集」の発行、産業界等での活用が見込まれる大学研究・技術情報の展示会等での発信、大学研究成果の社会実装に向けた外部資金等の獲得支援、技術移転の推進
- 産学支援コーディネーター等連絡会議や認定コーディネーター制度といった地域の産学官金交流の場を主催、大学研究成果の情報発信を目的としたセミナー・講演会の企画・運営 ●大学発ベンチャーの認定及び事業化支援活動

知的財産・リスクマネジメントユニット

- 知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進 ●知財セミナーの開催等、知的財産に係る教育・啓発活動
- 知的財産のライセンス交渉やライセンス契約の推進及び共同研究契約や研究マテリアル移転契約等に対する支援
- 安全保障輸出管理や利益相反等、産学官連携に伴い生じるリスクマネジメントの推進



▲研究シーズ集
2023-2024

国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島からアジア・太平洋に広がる島嶼域を対象にした教育・研究を推進している。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究を行うとともに、英文学術誌“South Pacific Studies”等を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、観察会を通して研究成果を地域に還元している。令和4年度は奄美群島及び甌島列島において兼務教員とともに総合学術調査を行った。新型コロナの影響のため例年より回数は少なかったが、研究会・島めぐり講演会はそれぞれ6回ずつ、シンポジウムは2回開催した。鹿児島の島嶼域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために『鹿児島の島々』『鹿児島大学島嶼研ブックレット』等を発刊するとともに、英文書籍“The Amami Islands”や“The Tokara Islands”を出版して海外にも成果を発信している。また、「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では与論島、大学院全学横断的教育プログラムの島嶼学概論では三島村硫黄島において一部講義を行っている。また、JSPSアジア・アフリカ研究拠点形成事業の助成を得てアジアの若手研究者との連携も進めている。さらに、平成27年4月に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置し、文化・社会・生物の多様な地域として発展してきている奄美群島で急務である多様性維持機構の解明と保全の活動を行っている。



▲JSPSアジア・アフリカ研究拠点形成事業で開催した実習



▲奄美分室で行われた「奄美分室で語りましょう」の様子

先端科学研究推進センター

先端科学研究推進センターは、地域課題の解決につながる研究及び先進的感染制御等の国際レベルの研究による地域への貢献等を推進し、先端的な生命科学・自然科学系の教育・研究の進展に資することを目的として令和4年4月に設置された。動物実験、遺伝子実験及び放射性同位元素等を活用した教育研究および高度先端研究機器・設備の一元的管理・運営、新興・再興ウイルス感染症に対する高度な研究・教育活動等の推進・支援を行うため、3つのユニットおよび下部部門を設置している。

①生命科学動物実験ユニット

小動物から大動物に至る種々の実験動物を用いたシームレスな生命科学研究を推進・支援するため、研究支援センター動物実験施設と医用ミニボタ・先端医療開発研究センターの統合によって設立されたユニットである。令和4年4月に発足した本ユニットでは、動物実験に関する研究推進や教育、実験動物の品質管理および安全管理による動物実験の適正化を基に、シーズ創出から実用化を目指した動物実験を推進するため、動物管理・小動物研究推進部門、大動物研究推進部門、共同研究部門として医用ミニボタ・先端医療開発共同研究部門の3部門が設置されている。

②研究支援ユニット

高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、RIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備、および解析機器類を整備する遺伝子実験部門、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図る機器分析部門、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理・防護ならびに核燃料物質の管理を行うアイソトープ実験部門の3部門が設置されている。



▲先端科学研究推進センター

③感染制御研究ユニット

本学における先進的感染制御研究の推進を目的して、新たに設置されたユニットである。バイオセーフティレベル3 (BSL3) 実験室を擁し、学内の各部局や、海外を含めた他大学・研究機関、企業と連携・協力することで、社会・地域からのニーズが高い新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を中心とする新興・再興ウイルス感染症から人々を守るための予防・治療法の研究開発や、それに携わる研究者育成等を担う。感染制御研究部門の1部門が設置されている。

北米教育研究センター

米国カリフォルニア州サンフランシスコに、海外拠点として北米教育研究センターを置いている。平成16年に産学連携ベンチャービジネス部門のシリコンバレー・オフィスとしてスタートし、平成20年に全学組織へと発展した。平成23年には、本学のプランチ・オフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実ともに海外拠点としての体制を整えた。センターは、1) 学生海外研修やインターンシップの実施、2) 北米における大学や企業等との連携、3) ベイエリア地区に拠点を置く日本の大学間ネットワークであるJUNBAへの参加、情報交換などを行っている。



▲海外インターンシップ研修の様子

フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校 (UPV) の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミアガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。

水産学度は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行った。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており、平成27年度から開始された「熱帯水産学国際連携プログラム」などによる大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ビサヤス校

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学等との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進するなど、国際的な交流活動を行っている。



▲共通教育科目「進取の精神海外研修inベトナム」の様子

鹿児島大学奄美群島拠点

奄美群島拠点は、鹿児島大学の機能強化の一環として、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として設置された。この拠点は、(1)国際島嶼教育研究センター奄美分室、(2)徳之島サテライト教室、(3)与論水産実験室の3つの施設から構成されている。

国際島嶼教育研究センター奄美分室(奄美市)

国際島嶼教育研究センター奄美分室は、奄美群島拠点の3つの施設の中で唯一教職員が常駐しており、奄美群島拠点の中核的施設である。平成27年4月に奄美市名瀬の旧名瀬保健所跡に設置された後、平成31年4月に奄美市名瀬の奄美群島大島袖会館6階に改めて設置され、令和5年7月には名瀬公民館金久分館にあった奄美サテライト教室と奄美島嶼実験室の機能を奄美分室に集約し、研究者や学生、地域住民と交流ができるセミナールーム及び多目的ルームを設置した。このことにより奄美地域と本学さらには奄美地域で活動する高等教育機関の教育研究を繋ぐハブ機能が強化され、地域の課題解決や活性化により一層貢献することが期待される。

奄美分室では、分室を訪問した研究者が島民に講演を行う「奄美分室で語ろう」の開催や島民を招いた勉強会、鹿児島で開催されている研究会に遠隔方式で参加できる体制の構築など、研究成果の社会への還元活動も行っている。

分室内には、教育研究のためのスペースのほかに、中学生・高校生に鹿児島大学や大学生活を紹介するスペースや奄美群島の社会・文化・自然などに関連する書籍を準備している。また、この施設の近くには、教職員・学生が利用できる宿泊所(名瀬長浜町)がある。



▲奄美分室で行われた勉強会の様子

◀ 袖会館(6階に奄美分室がある)



学部等附属教育研究施設

共同獣医学部附属動物病院

鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院は、学部附属の教育施設であり、将来の獣医師を養成するための重要な教育病院である。動物の診断や治療に関する各種研究活動も行っており、地域獣医療の中核病院としても機能している。診療対象動物は、犬や猫といった伴侶動物の他に、地域性も背景とした産業動物の比率も大きく、この分野における機能が充実した数少ない病院でもある。平成20年には他の獣医系大学では類を見ない軽種馬診療センターも設置し、馬の診療にも対応している。共同獣医学部は、令和元年に獣医学教育の国際認証を取得しており、その一環として、平成29年に伴侶動物の診療を行う小動物診療センターと産業動物の診療を行う大動物診療センターをそれぞれ新営、改修設置した。

診療時間 月～金曜日	9:00～11:30 (予約制)	休診	土曜日	日曜日
	14:00～16:30 (予約制)		祝祭日	
19:00～翌6:00 (予約制・夜間診療)				



▲動物病院建物外観

法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

本センターは2022年10月に法文学部の附属機関として設立された。活動は大きく二つの柱からなっており、一つは鹿児島の近現代にかかる歴史・文化・社会の記録(資料)の収集、目録作成やデジタル化を推進し、教育・研究に活用できるように整備を行う事業である。もう一つは地域が抱える様々な問題を、学内の研究者が中心となって自治体・企業・学校・市民など学外の協力を得ながら解決を目指す、公募型のプロジェクトを展開していく事業である。

二つの事業で得られた成果は、鹿児島大学の社会貢献の一環として鹿児島あるいは近現代に関するシンポジウム、ワークショップ、講座の開催、出版、ホームページを通して広く地域や世界に向けて発信していく。



▲設立記念シンポジウム「鑑山の鹿児島」

教育関係共同利用拠点

各国立大学が有するさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、平成21年9月に認定制度が創設された。国立大学からの申請に基づき、文部科学大臣が認定を行う。

水産学部附属練習船かごしま丸

水産学部附属練習船かごしま丸は、平成22年度に、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として文部科学大臣より認定され、水産・海洋系カリキュラムを持ちながら練習船を保有しない全国の大学に質の高い洋上実習の機会を提供している。令和2年度より拠点認定3期目(5年間)に入り、従来の共同利用乗船実習に加えて、全国の大学の教職課程学生向けに、初等中等教育における海洋教育指導に資する洋上実習の機会提供を開始した。平成24年3月には、かごしま丸(IV世)が竣工し、30年にわたり活躍してきたかごしま丸(III世)の代船として、平成24年度から共同利用に投入された。かごしま丸(IV世)は、電気推進システムと自動船位保持装置を搭載し、横・斜め移動やその場回頭など特殊操船能力を持ち、防振・防音対策を施した。さらに、実験室を拡充したことにより実習環境が大幅に向上した。また、水産・海洋分野の幅広い分野の教育のために搭載した様々な漁具や生物標本採集具、海洋観測装置など最新鋭の設備を活用し、本学および利用大学の学生・大学院生に高度な洋上教育を安全かつ効率的に実施できる。

拠点認定以降、国内の大学の水産・海洋系学部や研究科による利用に加えて、文系学部や放送大学の全国開放型授業、更には水産学部の主な対象域でもある東南アジア域内の大学に国際共同利用されるなど、充実した共同利用が展開されている。



農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設された。総面積3,061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われている。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきたが、平成12(2000)年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がるようになってきた。

そこでこれまでの実績を基に、演習林のさらなる有効活用を図るため、平成26年度から高隈演習林は文部科学省より教育関係共同利用拠点到認定された。平成26年度～30年度の5年間で42大学から延べ3,011人の利用があった。平成31年度より「鹿児島の自然とくらしと林業をつなぐ学びの森拠点」として共同利用拠点の2期目がスタートし、林業、環境教育、動植物、防災、地域コミュニティ等の多様な分野で多くの大学から利用されている。



教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、創立144年目を迎える全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20名、4歳児15名、5歳児19名、計3学級54名が在籍している。研究主題に「体を動かす楽しさや心地よさを実感する保育【1年次】」を掲げ研究し、研究成果を公開することで、本県の幼稚園教育に寄与している。また、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園を目指している。



附属小学校

附属小学校は、創立146周年目を迎え、24学級763人の児童が在籍している。教育学部の附属機関として、教員としての確かな資質・能力を高める講義や教育実習に取り組むとともに、国や県の教育の動向や課題を踏まえた先導的な教育研究の推進及び、その成果の公開に取り組んでいる。また、複式学習指導法やICTを活用した教育活動の実際など、学校現場の様々なニーズに対応した授業視察を受け入れることを通して、県内外の教育の発展に寄与している。なお、令和3年度入学児童から6か年の計画で、1学年の定員を1学級(35名)減じることにより、学校規模の見直しを図っている。



附属中学校

附属中学校は、創立73年目を迎え、538名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒58名が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追究し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



◆本学の特徴ある研究

(1) 地域社会の課題解決につながる研究

① 島嶼

国内外島嶼地域における自立的発展に寄与する研究の推進

鹿児島大学はその創立以来、鹿児島県下の島嶼域はもちろんのこと東南アジアや南太平洋の島々をフィールドとした研究が各学部で独自に行われてきた。このような歴史的伝統を踏まえ、南九州からアジア・太平洋諸地域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化・情報環境の改善や向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、島嶼学の世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトとデータベース作成が行われている。

【環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト】

自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成する。令和4年度は新型コロナウイルスもおさまりつつあり、対面式・オンラインのハイブリッド式のシンポジウムを開催した。シンポジウムのタイトルは「奄美群島における『生物文化多様性』と『地方創生』」及び「甌島列島の魅力と可能性を探る」であった。

【島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト】

人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築する。令和4年度は昨年度に続き、主に奄美群島において総合調査を行った。

【島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクト】

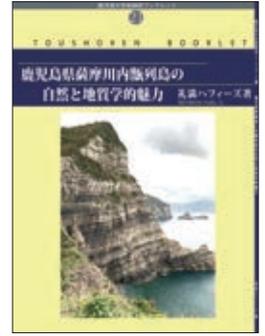
県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行う。令和4年度は人材養成を目指し、2冊の鹿児島大学島嶼研ブックレット『鹿児島県薩摩川内甌列島の自然と地質学的魅力』『奄美群島の水産産業の現状と未来』を出版した。

【多島域データベース】

鹿児島県南部の島嶼に関する文献データベースである「薩南諸島データベース」、国際島嶼教育研究センターの出版物データベースである「島嶼研出版物データベース」、奄美群島の自然科学系文献を対象にした「奄美生物多様性文献データベース」から成る『文献データベース』と鹿児島県島嶼統計資料から成る『資料データベース』を作成している。



▲シンポジウムのポスター



▲出版したブックレット

② 環境・生物多様性

2021年7月に世界自然遺産に登録された奄美地域と2023年に登録から30年を迎える屋久島を抱える、鹿児島の豊かな自然環境と文化に関して、地域とともに問題解決を模索する研究である鹿児島環境学プロジェクトと、生物多様性に関する全学的な研究を推進する生物多様性プロジェクトを進めている。

鹿児島環境学プロジェクトでは、2008年の開始以来、奄美の世界自然遺産登録に関する地域との共同研究を進めてきた。2018-2021年度には、地域の自然環境に育まれた「環境文化」を豊かな地域づくりにつなげる方策を考えるシンポジウムを奄美大島各所で開催し、成果は記録集等として各方面に配布すると共に研究会HPに掲載し、広く島内外への発信に努めている。2022年度は、奄美と屋久島に共通するキーワードである環境文化とそれを体験し学ぶ場である里(集落)を紹介するため、屋久島環境文化財団と共同で電子書籍を編集した。また、世界遺産登録後の重要な課題である、生物多様性モニタリングの住民参加による推進体制の構築を支援するため、2022年度は、外来植物を対象に調査マニュアルを作成し、10月に奄美市住用町で調査体験講習会を開催し、参加者の中から希望者に約3ヶ月間、マニュアルに基づく調査とGPS機器を用いた報告を実施していただいた。2023年2月4日にはその調査結果の報告会を兼ね、さらに徳之島、沖縄島北部および西表島の状況を理解する目的で、環境省との共催によるモニタリングワークショップ「地域の目が捉える外来植物の侵入」を奄美市内で開催した。

生物多様性プロジェクトでは、ミッション実現戦略予算の「奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル」の研究者と協力して、陸域及び沿岸域において次のような研究と情報発信を進めた。奄美の世界自然遺産地域の30ヶ所で各400㎡の生態系長期モニタリング調査区を設定し、陸域の動植物の変動を探知するシステムを作った。奄美群島の外来植物について調べ、奄美大島の外来種対策について提言を行った。干潟、岩礁、マングローブ林を含む沿岸域では魚類、甲殻類、貝類、海藻等の生物の分類や生態などを研究し、進化や生物多様性維持機構の解明を進めている。また、地域研究として、奄美群島の農業、水産業、歴史、伝統文化および文化の変遷に関する研究を行った。教育活動としては、奄美群島の5つの島で「島めぐり講演会」、3つの島で植物観察会を開催、奄美の自然を解説するYouTube番組を8件作成して公開した。2023年2月19日には奄美大島で「地方創生」研究者と合同シンポジウムを行い、今までの成果を発表し今後の方針について議論した。



化財団が共同編集した電子書籍



▲奄美大島でのモニタリング調査区の設定

③ 食と安全

食と安全プロジェクトは、鹿児島県の豊かな食物・飲物が持つ機能性とより良い活用方法を研究することで、高齢化社会の中での生活習慣病予防や老年症候群予防など、食による安全と健康長寿に寄与することを目的とする。また、本研究により機能性が明らかになった食品に対し消費者の関心が高まり、市場での価値を上げることで県内産飲食物の需要拡大に寄与することが期待される。

本研究は、鹿児島大学医学部・農学部・水産学部ならびに県内外複数の民間企業との部局横断産学連携プロジェクトであり、民間企業・農家・地方自治体からの機能性解明・活用法開発の要望を受け、大学の知識・研究技術を活用し研究を実施する。



▲ 2019年度お弁当・お惣菜大賞全国第二位を受賞した薩摩黒膳弁当(左)と薩摩黒膳かんばち弁当(右)

【黒膳プロジェクト】

黒膳プロジェクトでは、鹿児島県産食材の機能性解析ならびに高機能メニューを作成している。現在各城山ストア店舗の他、鹿児島中央駅および博多駅構内、ネットスーパーにて「薩摩黒膳弁当」「薩摩黒膳かんばち弁当」を販売中である。その他、県産柑橘類や月桃など県内産の高機能食材を用いたメニューの試作も順次行っている。

【焼酎プロジェクト】

百寿者が多い鹿児島県民の食生活に着目した焼酎プロジェクトにおいて、焼酎・黒糖焼酎に老化を抑え健康長寿を促進するホルモン「グレリン」と同様の働きをする物質(グレリン様物質)が含まれることを明らかにしている(特願2019-239495)。



④ 水産・海洋資源、再生可能エネルギー

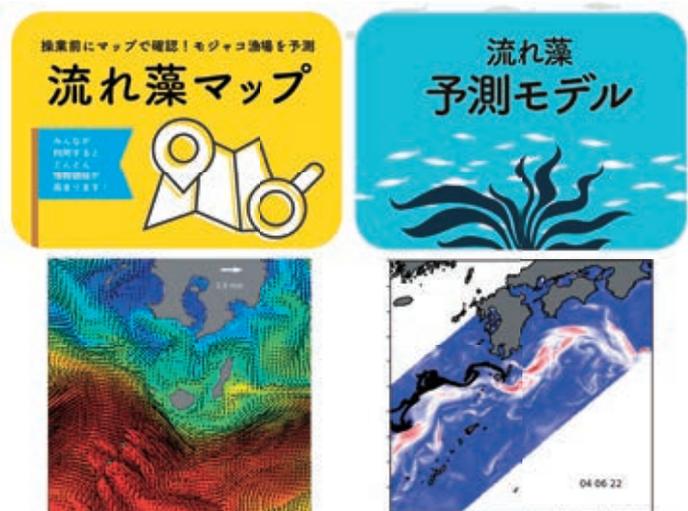
鹿児島県の水産業は漁業就労者数の減少が進み、効率化につながる技術導入の必要性に迫られている。また、本県の多くの島嶼部は需要に則した発送電が困難で、一次産業の高度化に課題を抱えている。さらに広い海岸線を有する鹿児島県にとって海洋プラスチックごみ問題は極めて深刻である。海×島SDGs推進プロジェクトは、上記の課題を解決し既存事業の強化と新規事業の創出をめざす、SDGsに関連する研究であり、地域版ビッグデータの活用により、鹿児島県の水産・海洋産業のスマート化を推進するシステム、鹿児島県島嶼部において、再生可能エネルギーを高効率で利用するシステム、海洋プラスチックごみの合理的な処理・処分の実現を可能とする海洋プラごみ監視システム等の開発を進めている。スマート水産業にかかわるシステム開発について下記に記載する。

【スマート水産業プロジェクト】

理工学研究科で開発中の高分解能海洋モデルと黒潮域に展開する洋上フィールド施設(練習船南星丸・かごしま丸)を利用して、水産・海洋産業における予測困難なリスクを分散するための、異分野融合による技術創出と社会実装化に関するプロジェクトを推進している。漁場探索における不確実性低減・経費削減・業務効率化を可能とする、海洋ビッグデータ・数値実験・人工知能を駆使したシステムを産学官で開発中である。地域基幹産業であるブリ・カンパチ養殖の種苗確保(モジャコ漁)を支援するため、練習船による流れ藻観測速報公開、高分解能海洋モデルによる高精度漁場予報、高分解能海洋モデルと数値実験による高精度漁場予測をこれまでに開発し、社会実装中である。

【未利用資源開発プロジェクト】

未利用で莫大な資源量が期待されるハダカイワシ科魚類を利用して、地域循環型の持続可能な水産養殖モデルの基盤構築を、異分野融合研究によって推進している。洋上フィールド施設(練習船南星丸)を利用して、ハダカイワシ科魚類が安定的・持続的に利用可能な資源特性を有することを評価すると共に、これら魚類を効率的に漁獲する技術を開発する。また、機能物質や有用成分を探索し、臨海フィールド施設を利用しながら輸入魚粉・魚油と代替可能な水産養殖飼料を開発する。社会情勢や環境変動にレジリエントな水産養殖モデルを構築することによって、地域基幹産業の振興に貢献する。

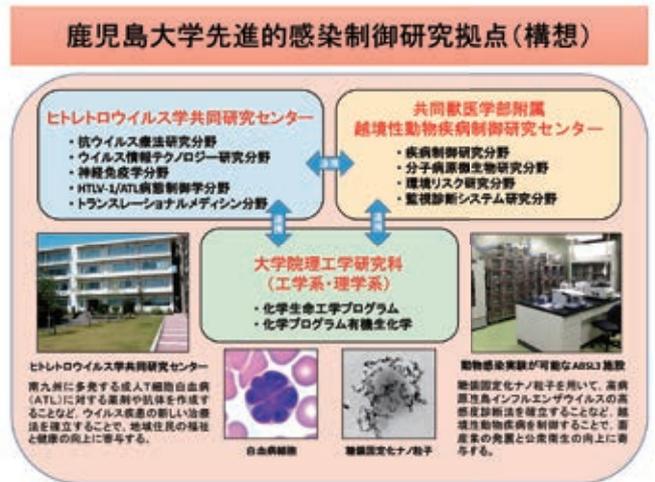


ウェブサイト(<https://nagaremo.fish.kagoshima-u.ac.jp/>)で公開している高精度漁場予報(流れ藻マップ・流れ藻予測モデル)。

(2) 国際水準の卓越した研究

⑤ 先進的感染制御(難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等)

ヒトレトロウイルス学共同研究センター、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター、そして大学院理工学研究科の研究分野の一部が連携することで、感染症制御に関する新しい学際的研究を実施している。特に、HTLV-1や鳥インフルエンザウイルスなど、鹿児島地域において脅威となる感染症に対し、診断・予防・治療に関わる先進的な研究を展開する事によって防御体制を構築し、地域住民の福祉と健康の増進を図るとともに、地元畜産業の発展と公衆衛生の向上にも寄与するような、感染症に関する国際レベルの研究を目指している。本学ではこれまでに、医学分野においてHTLV-1やそれによって起こる成人T細胞白血病や中枢神経疾患のHAMに関する卓越した研究業績があり、また、獣医学分野では鳥インフルエンザのサーベイランスや各種ウイルスの病原性解析、感染実験動物モデルの構築に多くの実績がある。さらに、世界的喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症の治療法開発にも取り組んでいる。



⑥ 天の川銀河

七夕伝承でおなじみの天の川は、数千億もの星々が集まった直径10万光年にも及ぶ天体で、太陽系はその中にある。宇宙には同種の天体である銀河が無数に存在するが、天の川銀河だけがその内部を3次的に詳しく調べることができる。鹿児島大学では、天の川銀河の構造・内部運動、そこで起こる恒星・惑星の形成や末期の恒星が起こす種々の現象、銀河中心核のブラックホールの影響

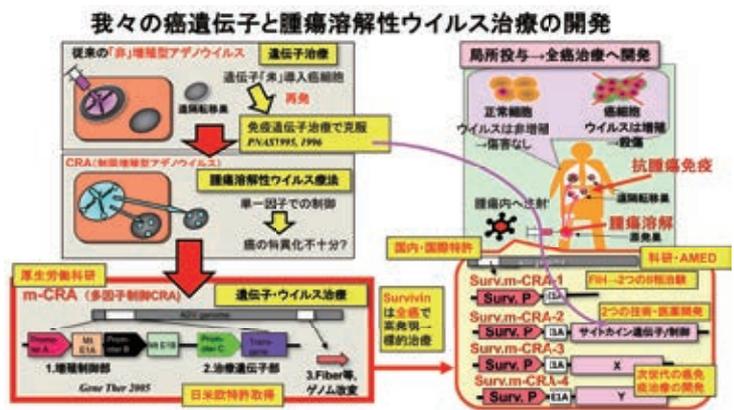


などについて、世界トップレベルの研究を行っている。国立天文台と共同で種々の天体までの距離や運動を観測したり、星間ガスの広域観測を実施するなど、天の川銀河の構造・運動の解明に大きな貢献をしている。薩摩川内市入来の20m電波望遠鏡は鹿児島大学が運用しており、他の望遠鏡と連携して巨大電波干渉計を構成できる能力を持つ。その隣にある鹿児島大学1m赤外線望遠鏡では、独自に開発したカメラkSIRIUSを用いて、天の川銀河内の変光星の分布など、多様な天体の研究を行っている。これに加えて、国内外の種々の望遠鏡を用いて様々な天体に関する詳細観測を行うと共にスーパーコンピュータを用いたシミュレーション研究も行っており、年老いた恒星が放つジェットのごく初期の様子を明らかにしたり、銀河中心にあるブラックホール周囲で惑星に相当する天体が形成される可能性を示すなど、天の川の完全理解に挑戦している。

◀ 入来観測所に設置されている1m赤外線望遠鏡とkSIRIUS。kSIRIUSは、近赤外線の3波長帯を観測できるカメラであり、本学教員と大学院生によって手作りされた。

⑦ 難治性がん

遺伝子治療の早期開発・実用化が世界的に期待されているが、独創先駆性と高度専門性が要求されるため、革新的ながん遺伝子治療の腫瘍溶解性ウイルス(OV)の承認例も、世界でも未だ二例に過ぎない。本プロジェクトは「次世代OVの独自開発と実用化」という、最先端かつ挑戦的研究である。まず研究代表者(小賤)は、従来のOVの性能を凌ぐ「多因子によるがん特異的増殖制御型アデノウイルス(m-CRA)」のプラットフォーム作製技術を独自開発した。次にその技術でサバイビン反応性m-CRA(Surv.m-CRA)を発明し、第一弾Surv.m-CRA-1のグローバル基準での非臨床開発(GMP製造、GLP非臨床試験、規制対応)にも成功した。本学でFirst-In-Human(患者さんへ世界初の投与)第1相医師主導治験を実施して高い安全性と一部有効性のデータを得て、現在、二つの本学主導のSurv.m-CRA-1の第II相医師主導治験(一つは世界初の骨腫瘍へのOV薬承認を目標)を、日本医療研究開発機構(AMED)の大型事業で進行中である。さらに転移がんも効果的に治療できる第二弾のSurv.m-CRA-2の二つのシーズも、AMED大型事業で非臨床開発中である。併せて、革新的ながん免疫治療となる次世代m-CRAの基礎研究開発も、文部科研やAMED事業などで進めている。これらの研究成果の社会実装のため、鹿児島大学認定ベンチャーも創業し、10億円規模の投資契約も得た。大型競争的研究費の取得額、自学主導の医師主導治験数、遺伝子治療の基礎・非臨床・臨床応用から事業化までの研究開発の実績はいずれも本邦トップクラスであり、学術的・社会的意義が何度も全国報道されてきているように、本プロジェクトは社会的にも非常に期待されている。



◆かごしまルネッサンスアカデミー

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきた。

平成24年度からは、この成果を受け、後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラム（焼酎マイスター養成コース、次世代林業マイスター養成講座（旧「林業生産専門技術者養成プログラム」）、稲盛経営哲学プログラム、食品安全管理基礎講座（旧「食品管理技術者養成コース」）、学校教育キャッチアップ講座）を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー＊」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。

＊年度によっては中止・延期等ございますので、受講希望の方は必ず各プログラムの最新情報をご確認ください。

＊かごしまルネッサンスアカデミーとは、本学が実施する履修証明プログラムのうち、主に社会人向けに「地域力」を高めることを目的として実施される人材育成プログラムの総称です。



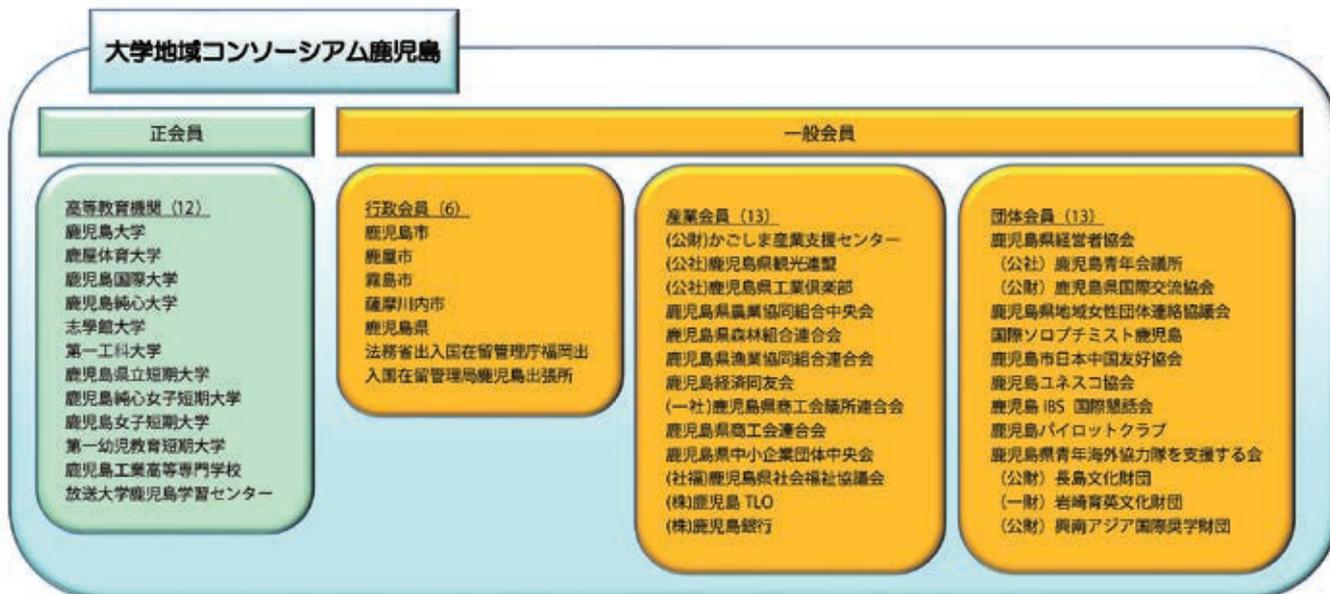
▲講義（焼酎マイスター養成コース）

◆大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内13の高等教育機関（当時）が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。

令和2年度からは、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」として平成27年度から令和元年度まで実施された「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」の共同事業を継承し、また、鹿児島県内の国際交流の推進や留学支援を目的とした「鹿児島地域留学生交流推進会議」を本コンソーシアムに集約したことから、参加機関も国の機関、地方公共団体、産業関係団体及び各種団体を含む44機関に拡充された。さらに実施事業も再編し、現在「教育連携」「FD・SD活動」「教員養成・研修事業開発推進部会（仮称）」「高大連携」「地域連携・就業」「地域留学生交流推進」の6事業部会を置き、活動を行っている。

〈参加機関〉



男女共同参画推進センター

鹿児島大学男女共同参画基本理念に基づく行動計画及び女性活躍推進法に係る一般事業主行動計画等により、男女共同参画の視点に立った情報提供や環境整備、仕事と生活の調和(ライフワークバランス)の推進、男女共同参画の視点に立った能力開発・能力発揮の支援、学外関係機関との連携等に取り組んでいる。

「研究支援員制度」「教員業務短期支援員制度」「保育支援制度」の運用や育児・介護制度紹介等による仕事と生活の両立支援、男女共同参画や次世代リーダー育成に関するセミナー及び男女共同参画に係る共通教育科目等による意識醸成機会の提供、「メンター制度」の運用による相談対応等を実施している。

～一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために～



▲男女共同参画推進センターシンボルマーク
(2010年11月制定)

ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、平成20年7月に設置され、学生が様々なボランティア活動に参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整、災害支援ボランティア活動を行う学生に対する活動費の一部助成などの業務を行って、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を設けて支援している。



障害学生支援センター（修学支援室）

修学支援室では、つまづきを感じている学生や障害を有する学生および保護者、担当教員からの修学に関わる相談に応じている。専任教員および事務職員が常駐し、障害を有する学生への支援を円滑に実施するため、各部署や保健管理センターと連携を取りながら、支援を実施している。また、必要に応じ会議を実施(入学事前・入学前・修学支援)し、合理的配慮の提供を含めた支援方法を検討することで障害を有する学生が自分らしく豊かな生活を送ることができるように支援している。令和3年度より「障害学生支援センター学習室」(支援員常駐)を設け、遠隔授業や遠隔での就職活動に利用できる学習スペース及び個別ボックスを利用できるようにしている。



▲学習室の様子



▲学習ボックスもあります

インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々との交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ等の販売を行っている。



開館時間 月～金曜日(祝祭日等除く) 9:30～16:30(販売は16:00まで)

販売物 鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、ねじめびわ茶、寮歌・学部歌歌集(CD)、全国藩校サミット鹿児島大会冊子、オリジナルブレンドハーブティ、研究書籍、長命草シリーズ、サツマ黒味噌、マスクケース

主な展示物 ポストカード

総合研究博物館常設展示室(国登録有形文化財)

鹿児島大学には数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、常設展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示しており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。



▲常設展示室外観

▲展示室内

開館時間 10:00～17:00 **休館日** 毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始(その他、臨時休館・閉館あり) **観覧料** 無料

稲盛会館

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された鹿児島大学名誉博士の稲盛和夫京セラ株式会社代表取締役会長(当時)から工学部創立50周年記念事業(平成7年)の際に寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。この建物は日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計によるもので、非常にユニークな構造であり、特に中央のキミ&ケサ メモリアルホールは卵型で、講演会・式典などに利用されている。



日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、
延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

キミ&ケサ メモリアルホール
(稲盛名誉博士のご両親の名前に由来)

稲盛記念館

本学の卒業生で、第一号の名誉博士である稲盛和夫鹿児島大学名誉博士より令和元年に寄贈されたもので、稲盛和夫名誉博士の哲学を学び、知の創造を刺激する場として、国際社会で活躍しうる有為な人材の育成と地域・産業界との連携強化を図ることを目的としている。ITコンセントを利用できるITプラザやフードコート・レストランがあり、学生・教職員が日常的に集うことができる施設となっている。また、稲盛和夫名誉博士の歩みや哲学等に触れる場として、稲盛ライブラリーや京都賞ライブラリーを設置している。



稲盛記念館外観

京都賞ライブラリー(3階)

植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって壊滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。



植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種をターゲットに種々の野鳥が集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れている。キャンパス内の緑のオアシスに是非足を運んでいただきたい。

学習交流プラザ

学生、教職員等が相互に交流を深めることにより、学生の進取の精神を育み、活気ある交流と情報交換を促進することを目的として、平成25年10月に設置された。

グループ学習室、学習ラウンジおよび学習交流ホールがあり、飲食もできるなど多様な学習形態に対応している。また、学生の自学自習をサポートするための書店や売店も併設されている。

〈施設名及び用途〉

階 別	施 設 名	用 途 等
1 階	ライフサポート フードコーナー 学習ラウンジ1 スタディサポート	売店 軽食・喫茶等 学習、休憩、談話等 文具、書籍、福利厚生関連商品の販売等
中2階	学習ラウンジ2 学習ラウンジ3 学習交流ホール グループ学習室	学習、休憩、談話等 学習、休憩、談話等 学習、講演会、研修、会議等 学習、研修、会議等
2 階	学習ラウンジ4	学習、休憩、談話等



食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施 設 名	席 数	所 在 地
中 央 食 堂	532席	郡元地区
軽 食 堂 (ガ ロ ア)	42席	郡元地区
郡 元 南 食 堂	144席	郡元地区
フードコーナー(学習交流プラザ) ※2023年休止中	188席	郡元地区
桜ヶ丘 食 堂	252席	桜ヶ丘地区
水 産 学 部 食 堂	90席	下荒田地区

大学会館

学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



階別	施 設 名	用 途 等
1	軽 食 堂	喫茶、食事 (59席)
	理 髪 室	理髪 (3台)
2	共 用 談 話 室	休憩、談話 (48人)
	音 楽 鑑 賞 室	音楽鑑賞 (51人)
3	会 議 室 (1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
	和 室 (1 ~ 5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
4	ホ ー ル	音楽会、講演会、研究会等(300人)
	音 楽 練 習 室 (1・2)	音楽等練習

課外活動施設

課外活動(サークル)は、大学教育における人間形成の上で非常に有益であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する学生会館以外に、平成14年3月に設置された学生サークル会館Ⅱ、平成25年10月に改築された学生サークル会館Ⅰなどがある。

学生サークル会館ⅠおよびⅡは、サークル間の交流・連携の場として、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室、多目的ホールおよびサークル室等を配置し、文化系、音楽系、体育系合わせて約120サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
学生サークル会館Ⅰ・Ⅱ	郡元地区	文化系・音楽系・体育系サークル
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



体育施設(体育館等)



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック・夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面・夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)

学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	女子寮	鉄筋4階建	1,627	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍		鉄筋5階建	2,693	99
合計			7,617	348

国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資



することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置された。

(1号館)

室名	面積(㎡)	室数
单身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	5~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考:延面積/1,430㎡ 建物構造/RC4

(2号館)

室名	面積(㎡)	室数
单身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	56	4室
補食室	11	4室
洗濯室	11	4室
ラウンジコーナー	49	
応接コーナー	14	

備考:延面積/1,259㎡ 建物構造/R4

(3号館)

室名	面積(㎡)	室数
单身室	15.6	57室
洗濯室	31.2	5室
応接コーナー	15.6	1室

備考:延面積/1,507㎡ 建物構造/RC5

外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室がある。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成した(鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室)。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始した(薄板軽量形鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室)。



大崎活性化センター

大崎活性化センターは、大崎町との「大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定」の締結により平成23年6月、大崎ものづくり会館内に設置された。

地域社会の教育・文化活動、健康・医療の推進、企業や自治体等との産学官連携活動等を通じて地域の課題解決に取り組み、活力ある地域の活性化を図ることを目的とし、地域教育・研究・交流の拠点として活用されている。

〒899-8313 鹿児島県曽於郡大崎町野方6222-1
TEL099-478-2611 FAX 099-478-2900



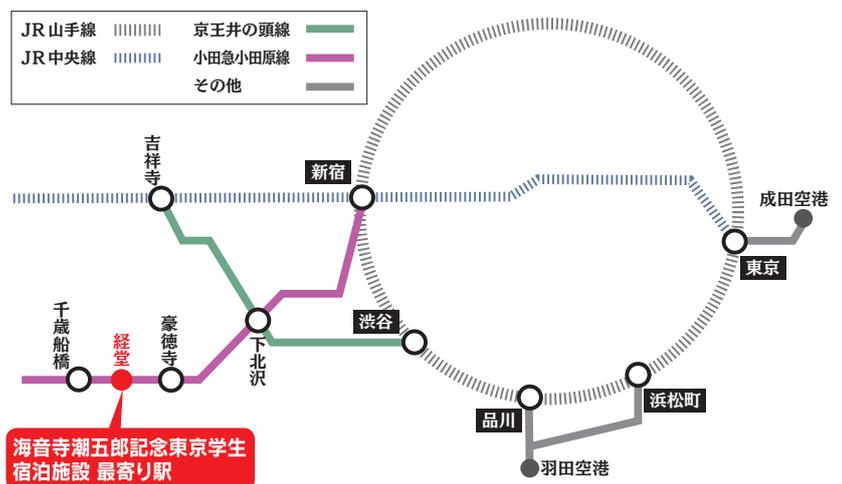
海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設は、鹿児島県伊佐郡(現伊佐市)出身の歴史小説家海音寺潮五郎氏のご遺族様より本学が寄贈を受けた世田谷区経堂の海音寺潮五郎記念館を、本学学生の首都圏における就職活動や学生および教職員が教育・研究等を行う際の東京拠点(宿泊施設)として改修・整備し、平成27年8月から運用を開始した。

〒156-0052 東京都世田谷区経堂2-12-9

交通アクセス

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設
小田急線 経堂駅から約400m、徒歩約5分



資料編

- 43… 役職員等
- 45… 役職員数
- 46… 入学定員・現員数
- 47… 附属学校入学定員・現員数
- 48… 入学状況
- 50… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 51… 奨学生状況／経済支援制度
- 52… 産学官連携活動
- 54… 公開講座等
- 55… 学術国際交流協定締結状況
- 57… 外国人留学生
- 58… 収入・支出決算額/予算
- 59… 外部資金受入状況
- 61… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 62… 附属図書館実績
- 63… 土地・建物・船舶
- 64… 位置図・交通アクセス
- 65… 地区別建物等配置図
- 69… 所在地一覧

役員

学長	佐野 輝
【筆頭理事】 理事	研究・情報担当 井戸 章雄
	総務担当 橋本 文雄
	企画・社会連携担当 岩井 久
理事	教育担当 武隈 晃
	財務・施設担当 田頭 吉一
	特命担当(広報・男女共同参画推進) 石窪奈穂美
	特命担当(附属病院経営) 萩元美恵野
監事	業務監査 日高 正文
	会計監査 松枝 千鶴

副学長

研究・情報担当	井戸 章雄
総務担当	橋本 文雄
企画・社会連携担当	岩井 久
教育担当	武隈 晃
財務・施設担当	田頭 吉一
附属病院担当	坂本 泰二
国際担当	郡山 千早

学長補佐

総務・人事・広報担当	坂巻 祥孝
コンプライアンス担当	原田いづみ
ダイバーシティ推進担当	八代 利香
企画・評価担当	藤内 哲也
社会連携担当	村上加奈子
防災担当	地頭 蘭 隆
南九州畜産獣医学拠点担当	宮本 篤
教務担当	溝口 和宏
地域人材育成プラットフォーム担当	橋本 雅仁
学生生活担当	前田 雅人
高大接続・入試広報担当	土田 理
入試担当	富原 一哉
キャリア支援担当	新留 康郎
研究企画推進担当	奥野 浩行
情報担当	佐藤 豊彦
IR担当	北原 兼文

経営協議会委員

学長	佐野 輝
鹿児島県医師会会長	池田 琢哉
株式会社鹿児島銀行取締役会長 (代表取締役)	上村 基宏
鹿児島市長	下鶴 隆央
鹿児島市立病院長	坪内 博仁
学校法人津曲学園理事長	津曲 貞利
日本ガス株式会社代表取締役社長	
株式会社南日本放送取締役相談役	中村 耕治
弁護士法人福元法律事務所代表社員	福元 紳一
JA鹿児島県中央会代表理事会長	山野 徹
理事	井戸 章雄
理事	橋本 文雄
理事	岩井 久
理事	武隈 晃
理事・事務局長	田頭 吉一
鹿児島大学病院長	坂本 泰二

教育研究評議会評議員

学長	佐野 輝
理事	井戸 章雄
理事	橋本 文雄
理事	岩井 久
理事	武隈 晃
理事	田頭 吉一
副学長	郡山 千早
法文学部長	松田 忠大
教育学部長	有倉 巳幸
理学部長	小山 佳一
医学部長	大脇 哲洋
歯学部長	西村 正宏
工学部長	木方 十根
農学部長	寺岡 行雄
水産学部長	西 隆一郎
共同獣医学部長	三角 一浩
鹿児島大学病院長	坂本 泰二
理工学研究科長	山口 明伸
歯学総合研究科長	橋口 照人
臨床心理学研究科長	中原 睦美
連合農学研究科長	寺田 竜太
総合教育機構長	武隈 晃
総合教育機構副機構長	大前 慶和
ヒトレトロウイルス学共同研究センター長	久保田龍二
附属図書館長	山本 智子
学内共同教育研究施設代表者	岩井 久
事務局長	田頭 吉一
学長補佐(学長指名)	原田いづみ

事務局

事務局長	田頭 吉一
総務部長	沓澤 進
総務課長	山下 憲一郎
企画評価課長	野間 尚宜
人事課長(兼)労務調査室長	平野謙一郎
研究推進部長	湊 由己
研究協力課長	尾崎 誠
社会連携課長	東 洋充
財務部長	鈴木 康彦
財務課長	三木 隆史
経理課長	松元 公良
学生部長	山口 大地
教務課長	安田 和義
共通教育課長	大園豊美代
学生生活課長	加治屋明子
キャリア形成支援課長	下田 智子
入試課長	加治 裕文
国際事業課長	成瀬 雅也
施設部長	篠原 憲二
企画課長	森吉 徳和
建築課長	乗富 公一
設備課長	初井 輝寿
情報推進部長	佐藤 秀
情報企画課長	原田 達意
情報基盤課長	田中 賢治
図書サービス課長	松木 智子

環境支援部長	田頭 吉一
職場環境支援課長	平野謙一郎
環境保全課長	森吉 徳和

監査室

監査室長	安永いづみ
------	-------

学術研究院

学域長	
法文教育学域長	有倉 巳幸
理工学域長	山口 明伸
歯学域長	橋口 照人
農水産獣医学域長	三角 一浩
総合科学域長	井戸 章雄

学系長

法文学系長	松田 忠大
臨床心理学系長	中原 睦美
教育学系長	有倉 巳幸
理学系長	小山 佳一
工学系長	木方 十根
医学系長	大脇 哲洋
歯学系長	西村 正宏
ヒトレトロウイルス学系長	久保田龍二
農学系長	寺岡 行雄
水産学系長	西 隆一郎
獣医学系長	三角 一浩
総合教育学系長	武隈 晃
共同学系長	岩井 久

学部等

法文学部

学部長	松田 忠大
副学部長	藤内 哲也
副学部長	中島 大輔
事務長	村山 敬三
附属司法政策教育研究センター長	米田 憲市
附属「鹿児島」の近現代」教育研究センター長	丹羽 謙治

教育学部

学部長	有倉 巳幸
副学部長	瀬戸 房子
副学部長	日吉 武
副学部長	松井 智彰
事務長	松崎 聖一
附属教育実践総合センター長	土田 理
附属幼稚園長	大田 高行
附属小学校長	橋元 忠史
附属中学校長	坂中 裕一
附属特別支援学校長	水野 高明

理学部

学部長	小山 佳一
副学部長	新留 康郎
副学部長	富安 卓滋
副学部長	中尾 茂

(令和5年5月1日現在)

医学部	
学部長	大脇 哲洋
副学部長	赤崎 安昭
副学部長	下堂 蘭 恵
副学部長	堀内 正久
副学部長	八代 利香

歯学部	
学部長	西村 正宏
副学部長	杉村 光隆
副学部長	佐藤 友昭
副学部長	田口 則宏

鹿児島大学病院	
病院長	坂本 泰二
副病院長(医科総括・総務担当)	石塚 賢治
副病院長(歯科総括担当)	杉村 光隆
薬剤部長	-
看護部長	宮園 幸江
臨床技術部長	弓場 裕之
事務部長	染矢 朋宏
総務課長	鮎川 秋徳
経営企画課長	宮野 英彦
経理調達課長	玉利 陽二
施設管理課長	本田 謙
医務課長	山森 剛

工学部	
学部長	木方 十根
副学部長	二井 晋
副学部長	橋本 雅仁
副学部長	堀江 雄二

農学部	
学部長	寺岡 行雄
副学部長	境 雅夫
副学部長	山本 雅史
副学部長	高峯 和則
附属農場長	高山 耕二
附属演習林長	井倉 洋二
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	玉置 尚徳

水産学部	
学部長	西 隆一郎
副学部長	石川 学
副学部長	小松 正治
副学部長	小谷 知也
事務長	瀬戸口 浩
附属練習船かごしま丸船長	幅野 明正
附属練習船南星丸船長	東 隆文
附属海洋資源環境教育研究センター長	安樂 和彦

共同獣医学部	
学部長	三角 一浩
副学部長	三好 宣彰
副学部長	遠藤 泰之
附属動物病院長	藤木 誠
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小原 恭子

農学部・共同獣医学部等事務部	
事務部長	今辻 幸二
総務課長	今辻 幸二
学務課長	濱崎 利幸

大 学 院

人文社会科学研究科	
研究科長	松田 忠大
副研究科長	竹内 勝徳

教育学研究科	
研究科長	有倉 巳幸

保健学研究科	
研究科長	赤崎 安昭

農林水産学研究科	
研究科長	寺岡 行雄
副研究科長	西 隆一郎

理工学研究科	
研究科長	山口 明伸
副研究科長	木方 十根
副研究科長	小山 佳一
副研究科長	上谷 俊平
副研究科長	古澤 仁
附属地域コトづくりセンター長	上谷 俊平
附属天の川銀河研究センター長	和田 桂一
附属南西島弧地震火山観測所長	中尾 茂

理工学研究科等事務部	
事務部長	永松 巖
研究科・工学系総務課長	永松 巖
研究科・工学系学務課長	黒岩 芳純
理学系事務課長	立和名幸洋

医歯学総合研究科	
研究科長	橋口 照人
副研究科長	田川 義晃
副研究科長	後藤 哲哉
附属南九州先端医療開発センター長	小戩健一郎

医歯学総合研究科等事務部	
事務部長	中間 勝利
総務課長	横枕久美子
学務課長	本田 敏幸

臨床心理学研究科	
研究科長	中原 睦美
副研究科長	宇都宮敦浩

共同獣医学研究科	
研究科長	三角 一浩

連合農学研究科	
研究科長	寺田 竜太
副研究科長	北原 兼文

機 構

総合教育機構		
機構長	武隈 晃	
高等教育研究開発センター長	伊藤奈賀子	
共通教育センター長	大前 慶和	
キャリア形成支援センター長	新留 康郎	
中等・高等教育接続センター長	土田 理	
グローバルセンター長	尾崎 孝宏	
稲盛アカデミー長	武隈 晃	

ヒトレトロウイルス学共同研究センター	
センター長	久保田龍二
鹿児島大学キャンパス長	久保田龍二

学内共同教育研究施設	
附属図書館	
附属図書館長	山本 智子
桜ヶ丘分館長	野口 和行
水産学部分館長	大富 潤
保健管理センター所長	伊地知信二
総合研究博物館長	本村 浩之
埋蔵文化財調査センター長	中村 直子
環境安全センター長	富安 卓滋
情報基盤統括センター長	井戸 章雄
地域防災教育研究センター長	地頭 蘭 隆
南九州・西諸島域 イノベーションセンター長	藤枝 繁
国際島嶼教育研究センター長	高宮 広士
先端科学研究推進センター長	岡村 浩昭

海外拠点	
北米教育研究センター長	スティーブンコーダ

奄美群島拠点	
奄美群島拠点長	岩井 久

■ 役員数

令和5年5月1日現在(人)

学 長	理 事	監 事
1	7	2

(注) ※ 非常勤を含む。

■ 教職員数

令和5年5月1日現在(人)

区 分	教 員							事務・技術職員等				総 計				
	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	教諭等	教 員 計		常 勤	非常勤	事務・技術職員等計					
							全 体	うち女性			全 体	うち女性	全 体	うち女性		
事 務 局	監 査 室									3	1	4	2	4	2	
	総 務 部									50	15	65	25	65	25	
	研 究 推 進 部									17	7	24	14	24	14	
	財 務 部									32	3	35	11	35	11	
	学 生 部									47	22	69	45	69	45	
	施 設 部									18	4	22	5	22	5	
	情 報 推 進 部									34	35	69	38	69	38	
学 部 等	環 境 支 援 部									16	27	43	5	43	5	
	法 文 学 部	40	24	1	4	2		71	15	18	10	28	18	99	33	
	附属司法政策教育研究センター	2		1				3	2		2	2	1	5	3	
	附属「鹿児島近代」教育研究センター		1		3			4						4	0	
	教 育 学 部	18	34	7	5			64	10	19	13	32	23	96	33	
	附属教育実践総合センター	1						1			1	1	1	2	1	
	附 属 幼 稚 園						4	4	3					4	3	
	附 属 小 学 校						35	35	6	4	4	8	7	43	13	
	附 属 中 学 校						32	32	7	1	2	3	2	35	9	
	附 属 特 別 支 援 学 校						28	28	12	2	5	7	6	35	18	
	医 学 部	19	7	2	18			46	23			11	11	10	57	33
	鹿児島大学病院	3	9	48	136			196	49	1,077	603	1,680	1,119	1,876	1,168	
	農 学 部	18	26	1	8			53	7	31	43	74	56	127	63	
	附 属 農 場	1	2					3		17	2	19	5	22	5	
	附 属 演 習 林		1		2			3	1	5	1	6	2	9	3	
	附属焼酎・発酵学教育研究センター	2	2					4	1					4	1	
	共 同 獣 医 学 部	12	8		2			22	1		12	12	9	34	10	
	附 属 動 物 病 院	3	2		8			13	3	2	21	23	17	36	20	
	附属越境性動物疾病制御研究センター	1	3		3			7	2		3	3	3	10	5	
	水 産 学 部	13	15		14			42	6	19	11	30	13	72	19	
附属練習船かごしま丸									18		18	1	18	1		
附属練習船南星丸									6		6		6	0		
附属海洋資源環境教育研究センター	2			1			3	1	2		2		5	1		
大 学 院	人 文 社 会 科 学 研 究 科	1					1				1	1	1	2	1	
	教 育 学 研 究 科	7	5		1		13	1						13	1	
	医 歯 学 総 合 研 究 科	4	4	4	24			36	7	72	169	241	205	277	212	
	医歯学総合研究科(医学系)	38	21	20	61			140	27					140	27	
	医歯学総合研究科(歯学系)	17	10	8	48			83	25					83	25	
	附属南九州先端医療開発センター									1		1		1	0	
	臨 床 心 理 学 研 究 科	4	4		2			10	6		2	2	2	12	8	
	連 合 農 学 研 究 科	1						1						1	0	
	理 工 学 研 究 科	5	2		6			13	2	24	28	52	28	65	30	
	理工学研究科(理学系)	17	26	2	9			54	5	11	8	19	16	73	21	
	理工学研究科(工学系)	38	38		19			95	5	18	15	33	21	128	26	
	附属南西島弧地震火山観測所		1					1			1	1		2	0	
	附属天の川銀河研究センター										1	1	1	1	1	
	共 同 獣 医 学 研 究 科		1					1						1	0	
総 合 教 育 機 構	高等教育研究開発センター		2	1	1		4	2					4	2		
	共 通 教 育 セ ン タ ー	5	18	4	4		31	11		1	1	1	32	12		
	中等・高等教育接続センター		1		1		2		1		1	1	3	1		
	グ ローバル センター	2		2			4	4	1	1	2	2	6	6		
	キャリア形成支援センター		1		2		3		1	1	2	1	5	1		
	稲盛アカデミー		1	1			2	1	3		3	2	5	3		
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	先端科学研究推進センター	3	4		1		8	1	8	17	25	14	33	15		
	国際島嶼教育研究センター	3	2				5			5	5	2	10	2		
	保 健 管 理 セ ン タ ー	1	1				3	1	5	4	9	9	12	10		
	総 合 研 究 博 物 館	2	1		1		4	1		4	4	4	8	5		
	埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー	1			1		2	2		3	3	3	5	5		
	環 境 安 全 セ ン タ ー				1		1	1	1		1		2	1		
	南九州・南西諸島域イノベーションセンター	5	3	1			9	4	5	4	9	6	18	10		
	障 害 学 生 支 援 セ ン タ ー				1		1	1	1	1	2	2	3	3		
	ボランティア支援センター									1	1	1	1	1	1	
	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	9	4		1			14	2		10	10	10	24	12	
	情 報 基 盤 統 括 セ ン タ ー	3	2		1			6		1		1	1	7	1	
	I R セ ン タ ー	1						1						1	0	
	地域防災教育研究センター									2	1	3	1	3	1	
合 計	302	286	103	390	2	99	1,182	258	1,593	1,136	2,729	1,772	3,911	2,030		

(注) ※ 休職者および休業者は含まない。

※ 教員には、非常勤の特任教員も含む。

※ 事務・技術職員等は、一般職員、海事職員(教員以外)、医療職員および特任職員(教員は除く)等を計上している。

学部

(令和5年5月1日現在)

学部	学科・課程	入学定員	3年次編入定員	現員						計
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
法文学部	法経社会学科	245	10	253 (129)	251 (112)	251 (112)	298 (126)			1,053 (479)
	人文学科	165		169 (110)	171 (109)	174 (114)	221 (155)			735 (488)
	経済情報学科※						5 (0)			5 (0)
	小計	410		422 (239)	422 (221)	425 (226)	524 (281)			1,793 (967)
教育学部	学校教育教員養成課程	190		198 (109)	201 (124)	194 (118)	252 (133)			845 (484)
	特別支援教育教員養成課程※						3 (3)			3 (3)
	小計	190		198 (109)	201 (124)	194 (118)	255 (136)			848 (487)
理学部	理学科	185		191 (51)	190 (55)	227 (66)	144 (51)			752 (223)
	数理情報科学科※					10 (1)	6 (1)			16 (2)
	物理科学科※					9 (0)	8 (0)			17 (0)
	生命化学科※					4 (2)	3 (1)			7 (3)
	地球環境科学科※					3 (1)	14 (1)			17 (2)
	小計	185		191 (51)	190 (55)	253 (70)	175 (54)			809 (230)
医学部	医学科	110	10	117 (45)	134 (49)	119 (48)	118 (42)	110 (46)	109 (37)	707 (267)
	保健学科	120	20	121 (106)	121 (102)	123 (102)	119 (99)			484 (409)
	小計	230	30	238 (151)	255 (151)	242 (150)	237 (141)	110 (46)	109 (37)	1,191 (676)
歯学部	歯学科	53		58 (18)	53 (26)	65 (31)	41 (25)	45 (26)	57 (27)	319 (153)
工学部	先進工学科	385	20	458 (52)	420 (56)	391 (60)	302 (52)			1,571 (220)
	建築学科	55		61 (13)	68 (21)	52 (12)	48 (12)			229 (58)
	機械工学科※					10 (0)	18 (1)			28 (1)
	電気電子工学科※				2 (0)	8 (0)	18 (2)			28 (2)
	建築学科※				1 (0)	1 (0)	8 (2)			10 (2)
	環境化学プロセス工学科※				1 (0)	1 (0)	1 (0)			3 (0)
	海洋土木工学科※					7 (0)	14 (0)			21 (0)
	情報生体システム工学科※				2 (0)	6 (1)	17 (1)			25 (2)
	化学生命工学科※					2 (0)	5 (0)			7 (0)
	小計	440	20	519 (65)	494 (77)	478 (73)	431 (70)			1,922 (285)
農学部	農業生産科学科	71		75 (35)	75 (40)	81 (41)	98 (47)			329 (163)
	食料生命科学科	66		70 (43)	70 (51)	71 (52)	71 (47)			282 (193)
	農林環境科学科	56		62 (19)	58 (22)	63 (25)	72 (25)			255 (91)
	国際食料資源学特別コース	12		11 (7)	15 (11)	1 (0)				27 (18)
	小計	205		218 (104)	218 (124)	216 (118)	241 (119)			893 (465)
水産学部	水産学科	130		140 (38)	139 (33)	157 (40)	155 (45)			591 (156)
	国際食料資源学特別コース	10		10 (2)	9 (5)					19 (7)
	小計	140		150 (40)	148 (38)	157 (40)	155 (45)			610 (163)
共同獣医学部	獣医学科	30		31 (15)	37 (19)	28 (13)	32 (15)	29 (11)	32 (15)	189 (88)
合計		1,883	60	2,025 (792)	2,018 (835)	2,058 (839)	2,091 (886)	184 (83)	198 (79)	8,574 (3514)

(注) 1. ()は女子で内数、現員には外国人留学生を含む。 2. 医学部医学科の編入学定員は2年次の編入学定員。 3. ※は旧学科、旧課程を表す。
4. 農学部及び水産学部の国際食料資源学特別コースは、学科配属が決定した場合の現員は学科に含まれる。

大学院

(令和5年5月1日現在)

研究科	入学定員	現員								合計
		修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程				計	
		1年	2年	計	1年	2年	3年	4年		
人文社会科学部	28	25 (12)	29 (11)	54 (23)						54 (23)
	6				5 (3)	3 (3)	12 (7)		20 (13)	20 (13)
教育学部	20		1 (0)	1 (0)	20 (8)	23 (8)			43 (16)	43 (16)
保健学部	22	26 (17)	29 (17)	55 (34)					25 (7)	55 (34)
	6				10 (2)	5 (1)	10 (4)		25 (7)	25 (7)
理工学部	301	305 (53)	288 (37)	593 (90)						593 (90)
	24				17 (2)	8 (2)	11 (1)		36 (5)	36 (5)
農林水産学部	101	107 (41)	138 (67)	245 (108)						245 (108)
医歯学総合部	15	8 (4)	7 (5)	15 (9)						15 (9)
	50				52 (14)	59 (20)	51 (11)	153 (38)	315 (83)	315 (83)
臨床心理学部	15				15 (11)	15 (11)			30 (22)	30 (22)
連合農学部	23				30 (12)	25 (6)	45 (11)		100 (29)	100 (29)
共同獣医学部	6				7 (1)	10 (4)	6 (2)	15 (1)	38 (8)	38 (8)
合計	617	471 (127)	492 (137)	963 (264)	156 (53)	148 (55)	135 (36)	168 (39)	607 (183)	1,570 (447)

(注) 1. ()は女子で内数、現員には外国人留学生を含む。
2. 教育学部研究科学校教育実践高度化専攻、臨床心理学部研究科は専門職学位課程である。
3. 連合農学部研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(令和5年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育	20	20	15	19	54
2年保育	15					

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(令和5年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
附属小学校	单式学級	1~3年	105	105	104	132	137	134	717	1~3年3学級、4~6年4学級 計21学級
		4~6年	140							
	複式学級	1年	8	7					46	1・2年で1学級
		2年	8	8						
		3年	8		7					3・4年で1学級 計3学級
		4年	8			8				
		5年	8				8			5・6年で1学級
6年	8					8				
合 計	1~3年	113	112	113	111	140	145	142	763	計24学級
	4~6年	148								

【教育学部附属中学校】

(令和5年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
附属中学校	普通学級	180	180	180	178	538	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(令和5年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
附属特別支援学校	小学部	3	3	3	3	3	3	3	18	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
	中学部	6	6	5	7	-	-	-	18	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	6	8	8	-	-	-	22	各学年1学級 計3学級

学部

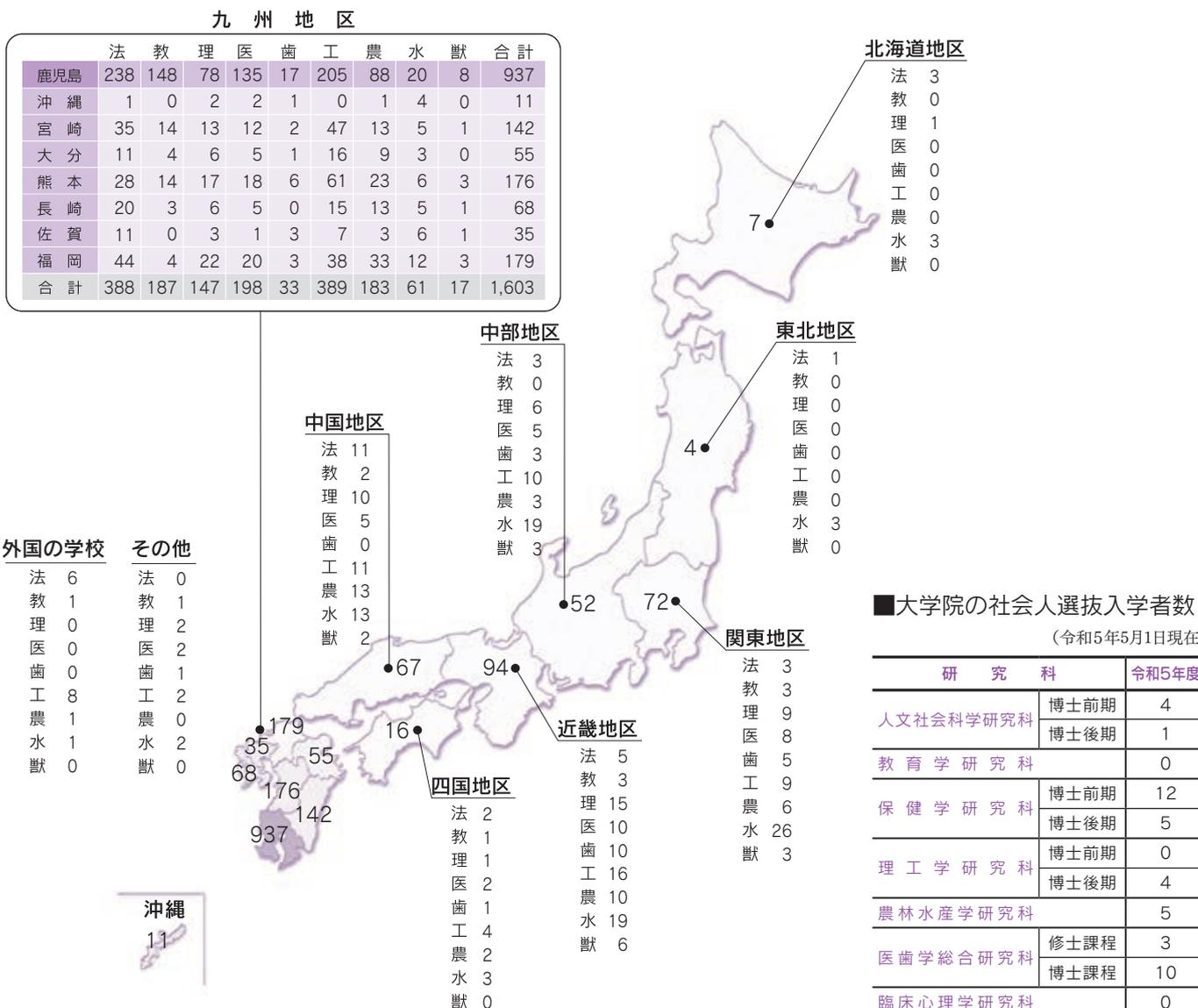
(令和5年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地		入学者の出身地割合(%)	
				県 内	県 外	県 内	県 外
法 文 学 部	410	1,170 (638)	422 (239)	238	184	56.4	43.6
教 育 学 部	190	611 (337)	198 (109)	148	50	74.7	25.3
理 学 学 部	185	631 (183)	191 (51)	78	113	40.8	59.2
医 学 学 部	230	1,124 (616)	230 (150)	135	95	58.7	41.3
歯 学 学 部	53	378 (166)	53 (17)	17	36	32.1	67.9
工 学 学 部	440	1,276 (202)	449 (62)	205	244	45.7	54.3
農 学 学 部	205	554 (254)	218 (104)	88	130	40.4	59.6
水 産 学 部	140	499 (162)	150 (40)	20	130	13.3	86.7
共同獣医学部	30	288 (172)	31 (15)	8	23	25.8	74.2
合 計	1,883	6,531 (2,730)	1,942 (787)	937	1,005	48.2	51.8

(注) ()内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験(従前の大学入学資格検定を含む)合格等の入学者を表す。



■大学院の社会人選抜入学者数

(令和5年5月1日現在)

研究科	令和5年度	
人文社会科学研究科	博士前期	4
	博士後期	1
教育学研究科		0
保健学研究科	博士前期	12
	博士後期	5
理工学研究科	博士前期	0
	博士後期	4
農林水産学研究科		5
歯学総合研究科	修士課程	3
	博士課程	10
臨床心理学研究科		0
共同獣医学研究科		0
連合農学研究科		0
合 計		44

(注) 現職教員を含む。

■大学院(志願者・受験者・合格者状況)【10月入学を除く】

【修士課程・博士前期課程】

(令和5年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	
人文社会科学研究科	法学専攻	5	1	2	0	-	3	1	2	0	-	3	0	2	0	-	2	2
	経済社会システム専攻	10	2	2	6	-	10	2	2	6	-	10	1	1	5	-	7	7
	人間環境文化論専攻	5	2	1	3	-	6	1	1	3	-	5	1	1	3	-	5	5
	国際総合文化論専攻	8	7	0	2	-	9	7	0	2	-	9	5	0	2	-	7	7
	計	28	12	5	11	-	28	11	5	11	-	27	7	4	10	-	21	21
保健学研究科	保健学専攻	22	21	12	0	-	33	17	12	0	-	29	15	12	0	-	27	26
理工学研究科	理学専攻	64	64	0	3	14	81	59	0	3	14	76	52	0	2	14	68	56
	工学専攻	237	145	0	14	147	306	141	0	12	147	300	114	0	11	147	272	249
	計	301	209	0	17	161	387	200	0	15	161	376	166	0	13	161	340	305
医歯学総合研究科	医科学専攻	15	3	4	1	-	8	3	4	1	-	8	3	4	1	-	8	6
農林水産学研究科	農林資源科学専攻	39	39	2	11	-	52	35	2	11	-	48	35	2	9	-	46	38
	食品創成科学専攻	26	33	0	4	-	37	30	0	4	-	34	29	0	4	-	33	30
	環境フィールド科学専攻	16	23	1	2	-	26	21	1	2	-	24	20	1	2	-	23	21
	水産資源科学専攻	20	18	2	0	-	20	18	2	0	-	20	17	2	0	-	19	18
	計	101	113	5	17	-	135	104	5	17	-	126	101	5	15	-	121	107
合計		467	358	26	46	161	591	335	26	44	161	566	292	25	39	161	517	465

【博士課程・博士後期課程】

(令和5年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学専攻	6	0	3	0	2	5	0	3	0	2	5	0	1	0	2	3	3
保健学研究科	保健学専攻	6	5	5	0	-	10	5	5	0	-	10	5	5	0	-	10	10
理工学研究科	総合理工学専攻	24	11	4	2	-	17	11	4	2	-	17	11	4	2	-	17	17
医歯学総合研究科	健康科学専攻	19	7	4	0	-	11	7	4	0	-	11	7	3	0	-	10	10
	先進治療科学専攻	31	21	10	3	-	34	21	10	3	-	34	21	7	3	-	31	31
	計	50	28	14	3	-	45	28	14	3	-	45	28	10	3	-	41	41
連合農学研究科	生物生産科学専攻	7	10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	9	-	-	-	9	9
	応用生命科学専攻	8	6	-	-	-	6	6	-	-	-	6	6	-	-	-	6	6
	農水圏資源環境科学専攻	8	17	-	-	-	17	16	-	-	-	16	13	-	-	-	13	13
	計	23	33	-	-	-	33	32	-	-	-	32	28	-	-	-	28	28
共同獣医学研究科	獣医学専攻	6	7	-	-	-	7	7	-	-	-	7	7	-	-	-	7	7
合計		115	84	26	5	2	117	83	26	5	2	116	79	20	5	2	106	106

【専門職学位課程】

(令和5年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
教育学研究科	学校教育実践高度化専攻	20	21	-	-	21	21	-	-	21	21	-	-	21	20
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	15	34	0	0	34	28	0	0	28	16	0	0	16	15
合計		35	55	0	0	55	49	0	0	49	37	0	0	37	35

■卒業生数・就職状況

(令和5年5月1日現在)

学部	卒業生数 (累計)	令和4年度 卒業生数	就職状況																
			就職希望者数	就職者数	就職率 (%)	業種別						地区別							
						農林業 漁業	建設製造 電気ガス水道 情報通信運輸 卸売・小売	金融保険 医療福祉 教育学習 サービス	公務員	教員	その他	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	鹿児島 県内	その他
法文学部	19,087	408	335	319	95.2	1	107	62	118	4	27	61	6	5	5	1	86	143	12
教育学部	20,724	196	171	170	99.4		19	16	24	108	3	8	3	2	2		41	113	1
理学部	8,236	160	89	87	97.8		35	25	20	7		18	4	5		1	26	33	
医学部	8,786	228	105	103	98.1		1	94	8			8	4	3	1		14	73	
歯学部	2,355	46																	
工学部	21,415	449	182	182	100.0		122	28	27	2	3	61	10	17	1	1	48	44	
農学部	14,225	200	143	138	96.5	5	51	33	45	1	3	28	3	4	8		42	52	1
水産学部	8,664	142	82	82	100.0	4	42	17	15	2	2	33	5	7	1	1	20	15	
共同獣医学部 (文理学部)	181 2,651	30	25	25	100.0		7	10	8			6	2	2			4	7	4
合計	106,324	1,859	1,132	1,106	97.7	10	384	285	265	124	38	223	37	45	18	4	281	480	18

- (注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降を計上した。
 2. 卒業生数は9月卒業生を含む。
 3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。
 4. 卒業生数(累計)には、令和4年度を含む。

■大学院修了生数

(令和5年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	令和4年度 修了生数	修了生数 (累計)	令和4年度 修了生数	修了生数 (累計)	令和4年度 修了生数
人文社会科学研究科	700	13	32	1	-	-
教育学研究科	917	0	-	-	72	14
保健学研究科	390	20	22	6	-	-
理工学研究科	8,230	294	445	5	-	-
農林水産学研究科	262	106	-	-	-	-
歯学総合研究科	240	12	634	41	-	-
臨床心理学研究科	-	-	-	-	225	17
共同獣医学研究科	-	-	3	3	-	-
連合農学研究科	-	-	839	24	-	-
法学研究科*	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科*	120	-	-	-	-	-
理学研究科*	539	-	-	-	-	-
農学研究科*	2,307	-	-	-	-	-
水産学研究科*	1,315	-	-	-	-	-
医学研究科*	-	-	581	-	-	-
歯学研究科*	-	-	112	-	-	-
司法政策研究科*	-	-	-	-	144	-
合計	15,143	445	2,668	80	441	31

- (注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。
 2. *印は旧研究科である。

■学位授与状況

(令和5年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	令和4年度 授与	課程		論文		累計	令和4年度 授与
			累計	令和4年度授与	累計	令和4年度授与		
人文社会科学研究科	700	13	48	1	1	0	-	-
教育学研究科	917	0	-	-	-	-	72	14
保健学研究科	390	20	36	8	4	1	-	-
理工学研究科	8,230	294	509	5	81	1	-	-
農林水産学研究科	262	106	-	-	-	-	-	-
歯学総合研究科	240	12	698	43	45	1	-	-
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-	225	17
共同獣医学研究科	-	-	5	5	0	0	-	-
連合農学研究科	-	-	1,049	30	142	0	-	-
(法学研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
(農学研究科)	2,307	-	-	-	-	-	-	-
(水産学研究科)	1,315	-	-	-	-	-	-	-
(医学研究科)	-	-	701	-	1,484	-	-	-
(歯学研究科)	-	-	136	-	71	-	-	-
(司法政策研究科)	-	-	-	-	-	-	144	-
合計	15,143	445	3,182	92	1,828	3	441	31

- (注) 1. 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。
 2. ()は旧研究科である。

■奨学生状況

(令和5年5月1日現在)

学部・研究科等	在学生数	給付	日本学生支援機構		各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率	
			第一種奨学生	第二種奨学生				
学部	法文学部	1,793	210	350	268	11	839	46.8
	教育学部	848	91	171	131	17	410	48.3
	理学部	809	93	160	124	4	381	47.1
	医学部	1,191	86	190	180	14	470	39.5
	歯学部	319	19	32	41	3	95	29.8
	工学部	1,922	182	366	246	7	801	41.7
	農学部	893	97	185	122	0	404	45.2
	水産学部	610	51	89	74	2	216	35.4
	共同獣医学部	189	13	21	22	3	59	31.2
計	8,574	842	1,564	1,208	61	3,675	42.9	
大学院 (修士課程)	人文社会科学研究科	54		5	0	5	10	18.5
	教育学研究科	1		1	0	0	1	100.0
	保健学研究科	55		5	0	0	5	9.1
	理工学研究科	593		113	7	3	123	20.7
	農林水産学研究科	245		42	2	1	45	18.4
	医歯学総合研究科	15		1	0	0	1	6.7
	計	963		167	9	9	185	19.2
大学院 (博士課程)	人文社会科学研究科	20		1	0	1	2	10.0
	保健学研究科	25		1	0	0	1	4.0
	理工学研究科	36		4	0	0	4	11.1
	医歯学総合研究科	315		19	0	6	25	7.9
	共同獣医学研究科	38		0	0	1	1	2.6
	連合農学研究科	100		9	0	2	11	11.0
	計	534		34	0	10	44	8.2
大学院 (専門職学位課程)	教育学研究科	43		2	0	0	2	4.7
	臨床心理学研究科	30		1	1	0	2	6.7
	計	73		3	1	0	4	5.5
合 計	10,144		1,768	1,218	80	3,908	38.5	

※在学生数は外国人留学生を含む

<備考:日本学生支援機構奨学金月額(令和5年度入学者)>

- 新型給付奨学生 ●学部生のみ 第Ⅰ区分-自宅生:29,200(33,300)円/自宅外生:66,700円 ※()は生活保護者、児童養護施設出身者等の給付額
第Ⅱ区分-自宅生:19,500(22,200)円/自宅外生:44,500円 第Ⅲ区分-自宅生:9,800(11,100)円/自宅外生:22,300円
- 第一種奨学生 ●学部生:自宅通学20,000・30,000・45,000円/自宅外通学20,000・30,000・40,000・45,000・51,000円
●大学院生:修士・博士前期課程50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円
- 第二種奨学生 ●学部生:20,000・30,000・40,000・50,000・60,000・70,000・80,000・90,000・100,000・110,000・120,000円
●大学院生:50,000・80,000・100,000・130,000・150,000円

■大学独自の経済支援制度

鹿児島大学離島出身者スタートアップ奨学金

鹿児島県内の離島地域に所在する小学校、中学校又は高等学校を卒業し、鹿児島大学に入学した学部生のうち、入学年度の本学前期分授業料免除を申請した上で許可された学生を対象に、予算の範囲内で、25万円を給付する制度です。

■協定

協定名	協定締結年月日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定	平成23年 6月24日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日
国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人水産総合研究センターとの包括連携に関する協定	平成25年 9月27日
鹿児島県と国立大学法人鹿児島大学の動物疾病制御及び関連分野に係る相互連携に関する協定	平成26年 7月 3日
特定非営利活動法人 NPO 造士館講座と国立大学法人鹿児島大学との連携協定	平成26年 7月 7日
株式会社鹿児島銀行及び野村證券株式会社との産学連携に関する連携協定	平成26年9月26日
奄美群島広域事務組合との包括連携協定	平成26年11月28日
与論町漁業協同組合と国立大学法人鹿児島大学との水産学分野における実践的教育研究等に関する協定	平成27年7月14日
鹿児島商工会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年 4月 7日
国立大学法人鹿児島大学と株式会社三井住友銀行との産学連携協力に関する協定	平成28年8月29日
日置市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年11月1日
鹿児島銀行との地方創生への取組みに関する連携協定	平成29年 4月 7日
志布志市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成29年 5月 8日
林野庁九州森林管理局と国立大学法人鹿児島大学の連携と協力に関する協定書	平成29年8月30日
伊佐市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成30年 7月 6日
国立大学法人鹿児島大学と JA グループ鹿児島との組織間連携の推進に関する協定	平成31年 3月 4日
南九州市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成31年 3月13日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和元年 7月 2日
徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和2年 5月15日
地域密着型パイロット人材創出プログラムの実施に伴う連携協力に関する協定	令和2年10月5日
国立大学法人鹿児島大学と日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社との包括連携に関する協定	令和3年 3月16日
大崎町と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和5年 3月27日

■寄附講座

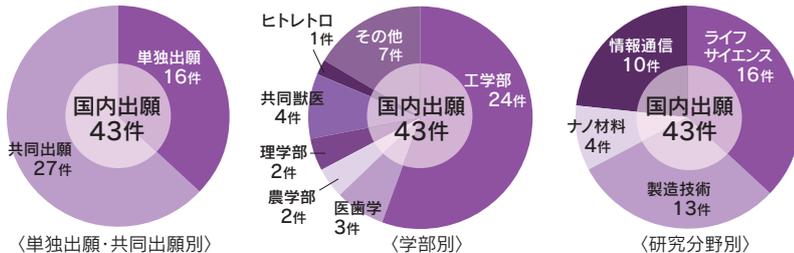
設置部局	寄附講座名	設置期間	寄附者	主な研究内容等
医歯学総合研究科	医療関節材料開発講座	平成18年6月～令和8年5月	京セラ(株)	・人工関節及び人工骨頭の臨床データを基にした次世代生体材料の開発 ・人工材料によるQOLの改善、医療経済上の有効性をアンケートや統計学的解析に基づいた新たな治療方針の再構築 ・新しい関節外科の治療を創造するための学部教育のカリキュラム構築
	地域医療・健康医学講座	平成30年12月～令和5年11月	出水市病院事業	・出水地区において、生活習慣病及び消化器疾患の高リスク群を囲い込み、健康寿命の延伸を図るとともに、生活習慣病や消化器癌の発症・重症化予防モデルを確立する。
	心血管病予防分析学講座	平成31年4月～令和7年3月	社会医療法人義順顕彰会	・心血管病を予知・予防する先制医療を実現し、健康寿命延伸に寄与するモデルとして、種子島において既存の健診を生かした島民健康分析を行う。
	骨関節医学講座	令和2年4月～令和7年3月	出水市病院事業	・骨関節障害の新規治療法開発を目的とした病態メカニズムの研究
	運動器再生学講座	令和4年4月～令和7年3月	医療法人術徳会	・運動器構成細胞再生のための増殖と分化の方法論の開発 ・再生足場の開発
	婦人科がん先端医療学講座	令和5年4月～令和8年3月	指宿市南薩3市医療体制充実等推進協議会(南さつま市、南九州市、枕崎市)	・病巣特異的抗がん剤産生バイオシステムの創薬開発 ・婦人科がんに対するがん遺伝子パネル検査 ・ナノメディスンを利用した低毒性抗がん剤の開発 ・子宮がんに対するセンチネルノードナビゲーションサージャリー ・妊孕性温存・拳児希望を希望する若年子宮頸がん患者に対する公況子宮頸部摘出術 ・婦人科がんロボット手術による患者QOL向上とロボット手術遠隔医療に関する研究
	救急集中治療生命科学学講座	令和5年4月～令和8年3月	社会医療法人恒心会	重症敗血症の病態変化および認知機能障害と、一酸化窒素の補酵素であるテトラヒドロピオプレンの血中濃度との関連検討と新たな治療戦略の構築
	感染症専門医養成講座	令和5年7月～令和9年3月	鹿児島県	・感染症専門医の養成 ・地域連携による県内感染防御体制の強化 ・医療従事者及び県民向けの研修会・講座の開催 ・感染症に関する教育、調査・研究
理工学研究科	街・海・宇宙からみるプラスチックごみ監視システム研究講座	令和4年4月～令和9年3月	木村 真也	・街中プラスチックごみ、海岸漂着プラスチックごみの定量化手法の構築 ・人工衛星によるプラスチックごみの広域監視システムの構築

■共同研究講座・共同研究部門

設置部局	共同研究講座・部門名	設置期間	相手方企業等
医歯学総合研究科	漢方薬理学共同研究講座	令和3年1月～令和5年12月	クラシエ製薬株式会社
	次世代GcMAF創薬学共同研究講座	令和3年4月～令和6年3月	医療法人再生未来
	ピカッシュ・地域包括ケア支援歯科医学共同研究講座	令和3年10月～令和6年9月	株式会社ピカッシュ
	DDS創薬学共同研究講座	令和4年4月～令和9年3月	祐徳薬品工業株式会社
	先進画像診断学共同研究講座	令和5年4月～令和10年3月	株式会社新日本科学
先端科学研究推進センター	医用ミニブタ・先端医療開発共同研究部門	令和4年4月～令和7年3月	・社会医療法人白光会白石病院 ・特定非営利活動法人医用ミニブタ研究所
理工学研究科	糖鎖ナノテクノロジー共同研究講座	令和4年4月～令和7年3月	株式会社スディックスバイオテック
	南九州地殻構造共同研究講座	令和5年4月～令和9年3月	九州電力株式会社

■知的財産管理状況

〈令和4年度出願状況〉



〈令和4年度 ライセンス・譲渡実績〉

	新規件数	金額(千円)
特許	18	19,733
商標	3	354
意匠	0	22
ソフトウェア	2	4,012
ノウハウ	2	1,736
マテリアル	1	1,335
合計	26	27,192

〈令和4年度末特許保有件数〉

	登録済	出願中	合計	登録済	出願中	合計
国内	384	185	569	86	113	199
外国						

(注)千円未満四捨五入により作成 (2023年3月31日現在)

■公開講座

公開講座名	実施部局	開催期間	代表者	職名	受講対象者
いまさら聞けない! iDeCo(個人型確定拠出年金)の基礎知識	法文学部	2022年7月9日	王鏡凱	准教授	青少年と社会人
いまさら聞けない! NISAと積立NISAの基礎知識	法文学部	2022年7月9日	王鏡凱	准教授	青少年と社会人
いまさら聞けない! 積立NISAとiDeCoの違い	法文学部	2022年7月9日	王鏡凱	准教授	青少年と社会人
小・中学校における情報モラル・セキュリティ教育	教育学部附属教育実践総合センター	2022年8月4日	高瀬和也	助教	現職教員を中心とした小・中学校の教育関係者
教育臨床セミナー・アドバンス篇	教育学部附属教育実践総合センター	2022年8月5日	関山徹	准教授	現職教員を中心とした教育関係者
教育臨床セミナー・ベーシック篇	教育学部附属教育実践総合センター	2022年8月4日	関山徹	准教授	現職教員を中心とした教育関係者
理学LABO～香りの化学: いいにおいを作ろう	理学部	2022年7月16日、7月17日、7月30日、7月31日	岡村浩昭	教授	一般社会人(小学校4年生以上の児童生徒も1名同伴可)
理学LABO～草木染の化学	理学部	2022年7月16日、7月17日、7月30日、7月31日	鬼束聡明	准教授	一般社会人(小学校高学年以上の児童生徒も1名同伴可)
理学LABO～城山で地学散歩	理学部	2022年7月16日	北村有迅	助教	一般社会人(中学生以上同伴可)
小山教授の育て理数系女子! 親娘で簡単ゲームプログラミング	理学部	2022年6月25日	小山佳一	教授	一般社会人(小学校4-6年生女子の1名同伴可)
理学LABO ～子供に教える簡単 micro:bit プログラミング初級編	理学部	2022年7月16日、7月30日	小山佳一	教授	一般社会人(小学4年以上中学生まで1名同伴可)
理学LABO～子供に教える micro:bit プログラミングと簡単ロボット制作	理学部	2022年7月16日、7月30日	小山佳一	教授	一般社会人(小学4年以上中学生まで1名同伴可)
理学LABO ～子供に教える簡単音楽ゲームプログラミング	理学部	2022年7月17日、7月31日	小山佳一	教授	一般社会人(小学校4-6年生の1名同伴可)
理学LABO～子供に教えるプログラミングとインペーダー風ゲーム作成に挑戦	理学部	2022年7月17日、7月31日	小山佳一	教授	一般社会人(小学校4-6年生の1名同伴可)
理学LABO～ウニの受精・いのちの始まり	理学部	2022年7月16日、7月17日、7月30日、7月31日	塔筋弘章	准教授	一般社会人(小学3年生以上高校生まで1名同伴可)
理学LABO～光の化学	理学部	2022年7月16日、7月17日	新留康郎	教授	一般社会人(小学4年以上の生徒も1名同伴可)
はたと閃! コンピュータによる科学シミュレーション入門	理学部	2022年6月25日、8月10日	秦浩起	准教授	中高生
理学LABO～はたとひらめく光の実験・分かれて混ぜて	理学部	2022年7月16日、7月17日、7月30日	秦浩起	准教授	一般社会人(小学4年以上の生徒も1名同伴可)
理学LABO ～はたとひらめくリズムの実験・楽器も地震も	理学部	2022年7月17日、7月30日、7月31日	秦浩起	准教授	一般社会人(小学2年以上の生徒も1名同伴可)
ぶつりな自転車ー初級編ー	理学部	2022年4月17日、4月23日 両日は同内容。雨天順延(予備日4月24日)	和田桂一	教授	サイクリングを趣味とする人<初心者・中級者>、同伴不可
鹿児島島の歴史的資産を活かす	大学院理工学研究科(工学系)	2022年7月26日	鯉坂徹	教授	一般
ものづくり体験教室 2022	大学院理工学研究科(工学系)	2022年8月10日	中村喜寛	技術専門職員	主として中学生対象
助産師・看護師の学び力を伸ばす極意 ～もっと面白くなる学び方を学ぶ～	医学部保健学科	2022年6月4日、7月2日、8月20日、9月17日	井上尚美	准教授	助産師・小児看護師1～3年目、学び方を学びたいという方
理学療法士・作業療法士のための統計処理	医学部保健学科	2022年6月19日	大渡昭彦	准教授	理学療法士、作業療法士など
高齢者の介護	医学部保健学科	2022年8月27日	大重匡	教授	医療・介護職
ジュニア陸上教室 1期	共通教育センター	2022年5月14日、5月28日、6月4日、6月18日、6月25日、7月2日、7月9日	塗木淳夫	准教授	小学1～6年生
ジュニア陸上教室 2期	共通教育センター	2022年9月3日、9月17日、10月2日、11月5日、11月19日、11月26日、12月10日	塗木淳夫	准教授	小学1～6年生
ジュニア陸上教室 3期	共通教育センター	2023年1月7日、1月21日、2月18日、3月4日、3月18日 (予備日:3月19日、3月26日)	塗木淳夫	准教授	小学1～6年生
にほんごきょうしつ	高等教育研究開発センター	2022年9月11日、9月25日、10月9日、10月23日	酒井佑輔	准教授	大隅半島に居住する在留外国人

■大学間国際学術交流協定校(27カ国・地域、94機関)

(令和5年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日	国・地域	締結機関名	締結年月日	
インド	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日	フィリピン	フィリピン大学	2007年12月12日	
	アンダラス大学	2003年12月1日		フィリピンポリテクニク大学	2017年4月1日	
	インドネシア	インドネシア大学	2009年12月9日	ベトナム	ベトナム国家農業大学	2002年3月6日
ボゴール農科大学		2010年6月4日	ハノイ貿易大学		2002年12月25日	
テイボネゴロ大学		2008年6月30日	ベトナム社会科学院		2007年5月23日	
バンドン工科大学		2010年11月22日	ニヤチャン大学		2015年7月31日	
サムラトランギ大学		2011年2月8日	カントー大学	2009年5月25日		
パティムラ大学		2014年3月25日	ミャンマー	獣医科学大学	2018年12月24日	
スリウィジャヤ大学		2015年11月2日		マレーシア	マレーシアアトレンガヌ大学	2005年4月22日
アイルランガ大学		2012年11月19日			マレーシアサバ大学	2009年3月4日
メジョー大学		2001年4月30日			マレーシアプトラ大学	2010年3月16日
タイ	国立モンクット王工科大学トンプリ校	2002年1月16日	マレーシア国際イスラム大学	2013年10月29日		
	国立モンクット王工科大学ラカバン校	2016年4月1日	パキスタン	シンド大学	2020年12月21日	
	カセサート大学	2005年12月19日		淡江大学	2005年11月5日	
	スラナリ工科大学	2009年4月17日	台湾	国立高雄科技大学	2008年2月29日	
韓国	釜慶大 学 校	1995年7月6日		国立中興大学	2009年4月1日	
	全北大 学 校	1997年4月22日		国立高雄大学	2016年4月7日	
	群山大 学 校	1997年12月1日		国立成功大学	2005年12月23日	
	済州大 学 校	1998年1月30日		国立台湾海洋大学	2010年7月15日	
	江陵原州大 学 校	2001年2月8日	オーストラリア	ニューイングランド大学	1995年7月20日	
	江原大 学 校	2002年4月5日		シドニー工科大学	2000年3月1日	
	公州大 学 校	2004年10月18日		セントラルクイーンズランド大学	2019年12月5日	
	木浦大 学 校	2010年5月28日	バブアニューギニア	バブアニューギニア大学	1987年5月29日	
	祥明大 学 校	2013年5月13日	南太平洋12カ国・地域	南太平洋大学	1982年7月21日	
	忠北大 学 校	2016年8月18日		ジョージア大学	1979年11月29日	
	韓国外国語大 学 校	2013年1月22日		マイアミ大学	1992年11月30日	
	中国	湘潭大 学		1986年12月11日	グアム大学	2006年4月5日
		雲南農業大 学		1989年5月11日	西ジョージア大学	2007年5月23日
湖南農業大 学		1989年6月2日		サンノゼ州立大学	2012年4月23日	
中南大 学		1993年6月15日		ノースダコタ州立大学	2014年1月15日	
中国医科大 学		1993年9月13日		ハワイ大学マノア校	2018年8月8日	
南京工業大 学		1999年9月14日		ウイスコンシン大学ラクロス校	2021年2月4日	
東北師範大 学		2001年11月13日		フロリダ農工大学	2021年5月3日	
中国人民大 学		2002年7月1日		ブラジル	サンカルロス連邦大学	2011年8月19日
東北大 学		2004年12月3日			アマソナス連邦大学	2016年4月28日
重慶大 学		2006年5月22日	イギリス	セントラル・ランカシャー大学	2022年5月9日	
山東師範大 学		2009年12月24日	スウェーデン	リンシェーピン大学	2010年6月11日	
上海海洋大 学		2011年10月24日	スペイン	バレンシア工芸大学	2000年2月7日	
首都経済貿易大 学		2013年3月1日	スロバキア	スロバキア農業大学	2015年5月1日	
華東政法大 学		2013年10月10日	ドイツ	カール・フォン・オシエツキー大学	2015年7月27日	
大連海事大 学		2015年7月27日		オルテンブルク		
四川大 学 錦江学院		2011年12月16日	ロットンブルク林業大学	2013年11月5日		
山西師範大 学		2022年6月15日	フランス	レンヌ第2オート・ブルターニュ大学	2010年7月1日	
バングラデシュ		ダツカ大 学		2013年12月24日	ボルドー・モンテーニュ大学	2017年1月26日
		バングラデシュ農業大 学	2014年12月27日	ヴェットアグロ スープ (フランス獣医学農学高等教育学校)	2015年8月25日	
トルコ	アンカラ大 学	2012年12月10日	エジプト	カフルアツシャイフ大学	2011年9月5日	
	エジプト	ベンハ大 学		2018年8月7日		
ザンビア	ザンビア大 学	2019年8月22日	イラン	イスファハン医科大 学	2017年4月18日	

■部局間国際学術交流協定校(31カ国・地域、81機関)

(令和5年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日
法文学部		
中国	内蒙古師範大学外国語学院	2017年6月19日
	長江大学外国語学院	2019年6月28日
モンゴル	ユネスコ後援国際遊牧文明研究所	2023年2月20日
フランス	大西洋ブルターニュ・マネジメント学院	2019年4月12日
ドイツ	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	2003年10月29日
イタリア	フィレンツェ大学歴史考古地理芸術学科	2020年8月9日
法文学部・人文社会科学研究科		
中国	内蒙古大学民族学与社会学学院	2016年11月1日
	上海海事大学外国語学院	2018年7月1日
	海南大学外国語学院	2019年7月19日
台湾	国立暨南国際大学人文学院	2017年4月18日
タンザニア	セントオーガスティン大学タンザニア	2018年12月16日
教育学部		
台湾	国立台北教育大学	2012年4月1日
ドイツ	ボン大学哲学部	2006年9月26日
フランス	国立障害者教育指導方法高等研究所	2013年9月24日
教育学部附属中学校		
台湾	台北市立大直高級中学校	2013年12月16日
医学部		
韓国	中央大学校赤十字看護大学	2012年11月15日
アメリカ合衆国	ベレア大学	2023年3月13日
鹿児島大学病院		
韓国	韓国中央大学病院	2015年1月28日
歯学部		
中国	香港大学歯学部	2017年7月11日
韓国	慶熙大学校歯学部	2019年11月28日
台湾	国立陽明大学歯学部	2017年8月12日
	高雄医学大学歯学部	2017年8月7日
タイ	プリンスオブソンクラーク大学歯学部	2018年7月4日
インドネシア	ブラウイジャヤ大学歯学部	2020年4月8日
マレーシア	マラヤ大学歯学部	2020年2月19日
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	2014年10月30日
	マンダレー歯科大学	2014年10月30日
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学歯学部	2014年11月17日
農学部		
インド	ガウハティ大学	2018年11月22日
中国	華中農業大学	2018年5月22日
台湾	中国文化大学農学院	2012年10月3日
タンザニア	セントオーガスティン大学タンザニア	2018年4月19日
タイ	メーファンラン大学農産学部	2016年11月14日
マラウイ	リロングウェ農業天然資源大学	2016年8月23日
	マラウイ科学技術大学	2019年3月25日
メキシコ	ヌエボレオン自治大学	2019年1月22日

国・地域	締結機関名	締結年月日
水産学部		
インドネシア	ハサヌティン大学海洋科学水産学部	2007年11月17日
タイ	東南アジア漁業開発センター	2003年12月3日
韓国	韓国海洋科学技術院	2017年5月22日
	大連海洋大学	2003年10月21日
	浙江海洋学院	2011年4月5日
	中国国家海洋局第2研究所	2014年10月9日
中国	華中農業大学水産学院	2018年7月27日
	国立嘉義大学生命科学院	2016年11月28日
台湾	国立嘉義大学生命科学院	2016年11月28日
フィリピン	サンカルロス大学文理学部	2012年5月30日
マレーシア	マレーシア科学大学	2019年11月1日
ノルウェー	トロムソ大学生物水産経済学部	2019年6月25日
エリトリア	海洋科学技術大学	2011年4月30日
エジプト	エジプト国立海洋水産研究所	2018年3月20日
トルコ	チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学	2017年12月21日
コロンビア	マグダレナ大学	2020年2月12日
ブラジル	アマゾン連邦農業大学	2019年2月28日
大学院国際連携プログラムの形成のための包括協定	サムラトランギ大学(インドネシア)	2014年8月19日
	フィリピン大学ヴィサヤス校(フィリピン)	
	カセサート大学(タイ)	
	トレンガヌ大学(マレーシア)	2016年2月29日
	ニャチャン大学(ベトナム)	
	ボゴール農科大学(インドネシア)	
国立嘉義大学(台湾)	2023年4月11日	
共同獣医学部		
バングラデシュ	チッタゴン獣医動物科学大学	2013年6月23日
	シレバングラ農科大学動物科学・獣医学部	2019年10月31日
フィリピン	カヴィテ州立大学獣医生命科学部	2020年3月13日
ドイツ	ベルリン自由大学	2018年7月6日
フランス	アルフォー獣医大学	2021年10月18日
ポルトガル	トラスモンテスアルトデウオ大学獣医学部	2019年2月13日
トルコ	アフイヨン・コジャテペ大学	2014年3月21日
ベトナム	タイグエン農林大学動物科学・獣医学部	2018年10月3日
リトアニア	リトアニア健康科学大学獣医学部	2021年7月7日
理工学研究科		
台湾	国立台湾大学理学部	2019年1月19日
アメリカ合衆国	州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所	2015年11月30日
フランス	ソルボンヌ大学	2017年3月31日
イタリア	フィレンツェ大学建築学科	2016年10月13日
スイス	西スイス応用科学技術大学	2017年7月4日
メキシコ	モンテレイ大学	2020年4月1日
医歯学総合研究科		
中国	徐州医科大学	2018年5月11日
インドネシア	ジェンバー大学医学部	2008年3月25日
タイ	プリンスオブソンクラーク大学医学部	2011年3月11日
ベトナム	ハノイ医科大学	2008年5月9日
ネパール	ネパールガンジ医科大学	2016年7月31日
オーストラリア	フリンダース大学	2022年5月3日
国際島嶼教育研究センター		
韓国	済州研究院済州学研究センター	2019年6月10日

■出身国(地域)別(37か国・地域 368名)

(令和5年5月1日現在)

地域	国(地域)	法文・人社研	教育学部	理工学研究科(理)	医歯研	理工学研究科(工)	農学部・農水研(農)	水産学部・農水研(水)	共同獣医学部・研究科	連合農学研究科	グローバルセンター	合計
アジア地域	中国	62	6①	8	9	24	31	10		9		159①
	韓国	11①	3	5	3	13	10	3		4		52①
	台湾	1	1	1					1			4
	ベトナム				1	3	18⑨	4①		3②		29⑫
	マレーシア	2				9			1①			12①
	ミャンマー		1①				1①			2①		4③
	フィリピン	2					1①			2②	1①	6④
	インドネシア	1			4②	2①	3③			3②		13⑧
	タイ	1①								4②		5③
	カンボジア	1					3					4
	インド			1								1
ネパール					2①						2①	
スリランカ									6⑤		6⑤	
パキスタン				3③							3③	
バングラデシュ			1	3	1	1①		8④	5③		19⑧	
中近東地域	イラン				1							1
	トルコ	3②	2									5②
アフリカ地域	エジプト								1			1
	エチオピア									1①		1①
	ウガンダ									1		1
	ケニア									1		1
	タンザニア				1①		1		1①			3②
	南スーダン									1		1
	ソマリア						1					1
	シエラレオネ									2①		2①
ベナン									1①		1①	
ヨーロッパ地域	スペイン	1										1
	ドイツ	2	2					1				5
	フランス	7										7
	ノルウェー							3				3
北米地域	アメリカ合衆国	1	1									2
南米地域	ブラジル	2①							1①			3②
	ペルー	1			1							2
大洋州地域	セントルシア									1		1
	オーストラリア		2		1							3
	フィジー							1①		1		2①
	ソロモン諸島						1			1①		2①
合計		98⑤	18②	19③	26④	55①	68⑬	22②	13⑦	48⑫	1①	368⑯

■在籍別

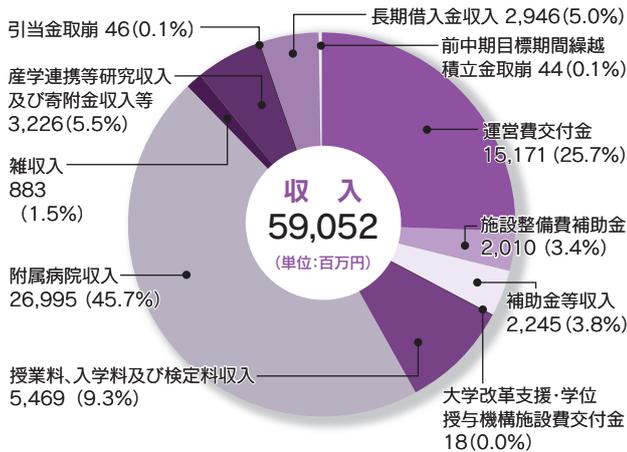
(令和5年5月1日現在)

在籍身分	法文・人社研	教育学部	理工学研究科(理)	医歯研	理工学研究科(工)	農学部・農水研(農)	水産学部・農水研(水)	共同獣医学部・研究科	連合農学研究科	グローバルセンター	合計
大学院 博士[博士後期]	4			10③							10③
〃 〃	3	6		3①	1			4②	23⑧		37⑪
〃 〃	2	2	1	1	1			3①	12⑥		20⑦
〃 〃	1	3	2①	4				3①	13⑦		25⑨
〃 修士[博士前期]	2	8	1	1	3	18⑧	1①				32⑨
〃 〃	1	13	4②	1	13①	12③	3				46⑥
学部	6							1①			1①
〃	5										
〃	4	10	2	4	7	10②	6①				39③
〃	3	3	3	1	8	8②	3				26②
〃	2	2	1	1	8	4	2				19
〃	1	6	1		9	1	1				18
研究生	4		1		4	15		2②			26②
特別研究学生											
特別聴講学生	41⑤	14②	2	4	1		6				68⑦
科目等履修生											
日本語研修コース生										1①	1①
合計	98⑤	18②	19③	26④	55①	68⑬	22②	13⑦	48⑫	1①	368⑯

(注) ※○印内は内数で国費留学生を示す。

※大学院連合農学研究科名の内訳：鹿大24(6) 佐大19(11) 琉大5(4) (()内は国費留学生を示す。)

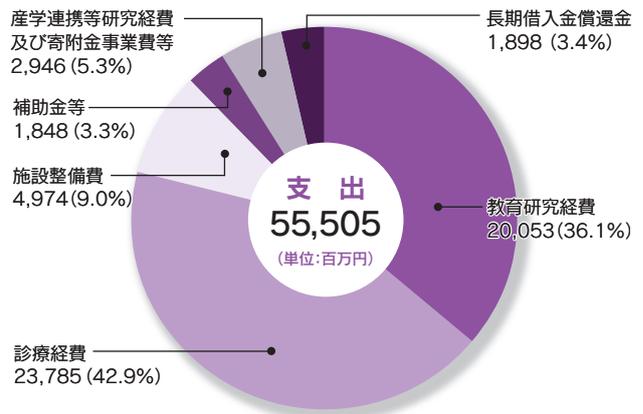
令和4年度収入・支出決算額



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	15,171
施設整備費補助金	2,010
補助金等収入	2,245
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	18
授業料、入学科及び検定料収入	5,469
附属病院収入	26,995
財産処分収入	-
雑収入	883
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,226
引当金取崩	46
長期借入金収入	2,946
前中期目標期間繰越積立金取崩	44
目的積立金取崩	-
合計	59,052

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

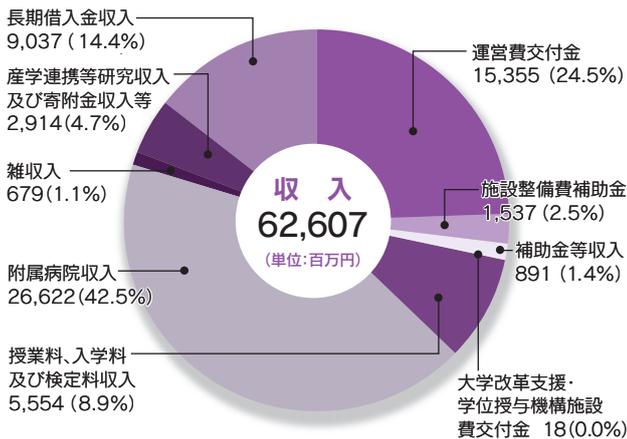


(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	20,053
診療経費	23,785
施設整備費	4,974
補助金等	1,848
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,946
長期借入金償還金	1,898
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	-
合計	55,505

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

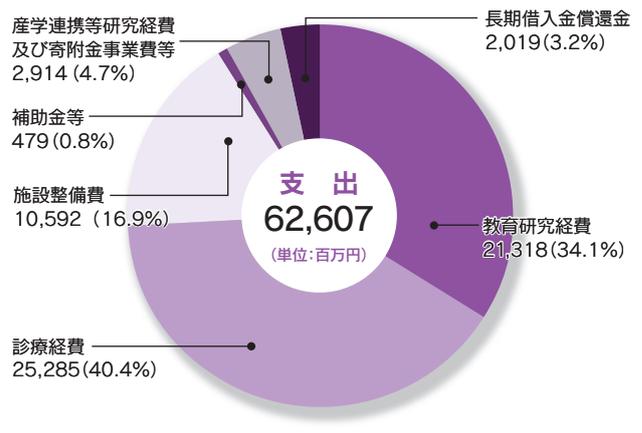
令和5年度予算



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	15,355
施設整備費補助金	1,537
補助金等収入	891
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	18
授業料、入学科及び検定料収入	5,554
附属病院収入	26,622
雑収入	679
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,914
長期借入金収入	9,037
合計	62,607

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。



(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	21,318
診療経費	25,285
施設整備費	10,592
補助金等	479
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,914
長期借入金償還金	2,019
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	-
合計	62,607

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■科学研究費助成事業

【種目別採択状況(令和4年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
新学術領域研究 (研究領域提案型)	3	6,300	研究活動スタート支援	11	11,000
学術変革領域研究(A)	1	10,600	奨励研究	5	2,280
基盤研究(A)	6	48,800	研究成果公開促進費 (学術図書)	1	1,600
基盤研究(B)	53	199,500	研究成果公開促進費(ひら めき☆ときめきサイエンス)	3	1,490
基盤研究(C)	349	341,900	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(A))	3	31,300
挑戦的研究(開拓)	2	11,300	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	3	11,000
挑戦的研究(萌芽)	15	28,400	特別研究員奨励費	16	13,800
若手研究	94	99,600	合計	565	818,870

【学部等別採択状況(令和4年度)】

(単位:千円)

学部等	件数	金額	学部等	件数	金額
法文学部	27	30,100	大学院理工学研究科(工学系)	45	71,030
教育学部	40	55,300	大学院医歯学総合研究科	176	249,000
医学部	30	28,700	大学院臨床心理学研究科	4	3,100
鹿児島大学病院	101	103,500	大学院連合農学研究科	7	5,700
農学部	27	50,270	共同獣医学研究科	2	1,900
共同獣医学部	18	50,100	総合教育機構	16	14,200
水産学部	18	40,900	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	4	7,300
保健学研究科	1	900	学内共同教育研究施設等	18	48,580
大学院理工学研究科(理学系)	31	58,290	合計	565	818,870

(注1)本表は、令和4年度に本学の研究者が研究代表者として採択された新規課題に既に採択されている継続課題を加え集計したもの。

(注2)金額は、日本学術振興会の交付内定一覧に記載された令和4年度の交付予定額(直接経費)を記載。

(注3)所属は、交付内定時(補助金(新規・継続)、基金(新規))及び支払請求時(基金(継続))の部局等で集計。

(注4)応募から交付内定までの間の転出者及び令和4年度中に承認された廃止課題を含み、令和4年度転入者を除く。

(注5)補助金繰越・基金延長課題を除く(育休取得等に伴う中断・延長課題は含む)。

■厚生労働科学研究費

(単位:千円)

研究事業名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
地域医療基盤開発推進研究事業	1	1,840	1	1,544		
長寿科学施策研究事業	1	3,670				
難治性疾患政策研究事業	1	12,308	1	12,308	2	20,947
合計	3	17,818	2	13,852	2	20,947

(注)金額は直接経費を記載

■寄附金

(単位:千円)

学部等	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
法文学部・人文社会科学研究所	24	10,851	17	9,029	24	8,739
教育学部・教育学研究科(附属学校含む)	60	20,415	59	22,200	82	24,031
理学部	-	-	-	-	1	10,000
医学部・保健学研究科	51	15,195	34	11,925	28	11,043
歯学部	3	2,064	9	4,148	27	10,814
工学部	108	4,635	39	4,049	1	70
農学部	81	36,955	69	46,226	83	41,237
水産学部	36	33,405	38	24,946	54	35,015
共同獣医学部・共同獣医学研究科	52	33,535	40	37,059	78	66,326
鹿児島大学病院	145	77,501	176	141,365	213	98,220
理工学研究科	219	128,271	226	129,321	203	207,839
農林水産学研究科	-	-	-	-	-	-
医歯学総合研究科	1,116	983,610	1,114	907,210	1,151	989,698
臨床心理学研究科	7	961	3	666	3	567
連合農学研究科	2	436	3	822	2	1,390
機構・学内共同教育研究施設	2,703	85,971	3,839	58,201	3,209	26,891
事務局	980	243,825	600	426,301	277	13,665
合計	5,587	1,677,637	6,266	1,823,477	5,436	1,545,551

(注) 1. 件数、金額には、令和2年度・・・3,110件、376,885千円、令和3年度・・・4,237件、397,560千円、令和4年度・・・3,589件、204,182千円
現物寄附の件数と金額は寄附金の明細から転記の現物寄附を含む。(現物寄附の件数に図書の入冊数を含む。)

2. 千円未満切捨てにより作成。

■受託研究

(単位:千円)

学部等	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
法文学部	3	424	5	1,696	7	11,436
教育学部	1	667	-	-	-	-
医学部・保健学研究科	6	9,885	7	20,835	9	17,914
農学部	23	88,334	12	43,501	13	45,823
水産学部	14	33,561	16	31,435	18	50,401
共同獣医学部	254	80,023	247	57,877	256	59,510
(うち、動物病理組織検査)	229	3,569	222	3,531	230	3,873
鹿児島大学病院	207	198,520	214	186,449	222	188,827
(うち、医薬品等の臨床研究)	107	130,457	120	124,633	122	116,416
理工学研究科(理学系)	20	202,621	19	193,823	16	179,231
(うち、受託試験)	-	-	-	-	-	-
理工学研究科(工学系)	32	122,765	100	90,508	48	105,105
(うち、受託試験)	8	15	67	146	16	39
医歯学総合研究科	202	476,440	148	351,673	136	245,075
(うち、病理組織検査)	117	47,843	73	38,140	61	36,181
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-
連合農学研究科	1	232	1	232	2	732
ヒトレトロウイルス学共同研究センター	5	21,950	4	25,450	5	15,100
学内共同教育研究施設等	3	11,907	5	21,619	6	29,616
合計	771	1,247,329	778	1,025,098	738	948,770
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	461	181,884	482	166,450	429	156,509

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。

2. 千円未満四捨五入により作成。

3. 端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■共同研究

(単位:千円)

学部等	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
法文学部	2	0	6	1,900	4	0
教育学部	5	1,506	1	335	1	1,105
医学部・保健学研究科	5	6,550	4	2,990	5	5,760
農学部	70	47,535	82	33,093	55	39,046
水産学部	46	29,452	37	28,986	24	18,885
共同獣医学部	25	84,531	25	52,557	13	37,365
鹿児島大学病院	21	9,180	25	9,260	24	19,790
理工学研究科(理学系)	19	33,474	22	15,730	21	29,671
理工学研究科(工学系)	82	83,218	90	86,960	88	102,881
医歯学総合研究科	58	68,383	57	158,955	51	87,718
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-
連合農学研究科	-	-	-	-	-	-
ヒトレトロウイルス学共同研究センター	4	4,456	9	16,893	4	2,470
学内共同教育研究施設等	35	23,531	29	17,612	19	23,689
合計	372	391,816	387	425,272	309	368,380

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。

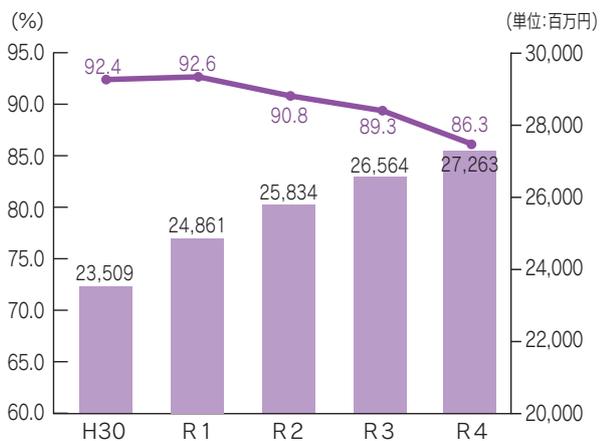
2. 共同研究契約については、金額の受入がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)

3. 千円未満四捨五入により作成。

4. 端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

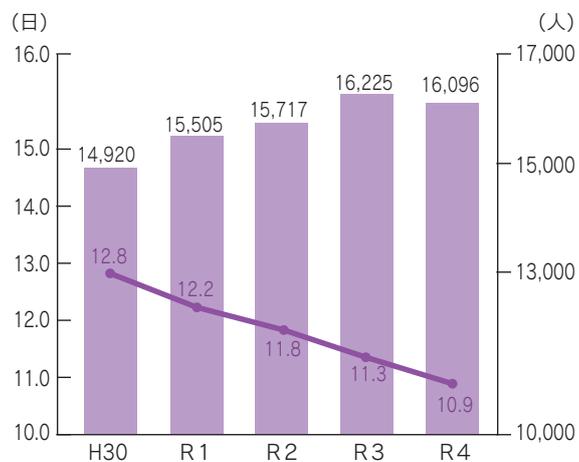
鹿児島大学病院実績等

診療報酬稼働額と病床稼働率の推移



	H30	R1	R2	R3	R4
稼働額 (百万円)	23,509	24,861	25,834	26,564	27,263
病床稼働率 (%)	92.4	92.6	90.8	89.3	86.3

平均在院日数 (一般病床) と新入院患者数の推移



	H30	R1	R2	R3	R4
新入院患者数 (人)	14,920	15,505	15,717	16,225	16,096
平均在院日数 (日)	12.8	12.2	11.8	11.3	10.9

病床数

				床
一	般	病	床	612
精	神	病	床	40
感	染	症	病	1
鹿児島大学病院合計				653

附属動物病院実績等

診療件数および稼働額

動物種	診療科等	件数 (件)	稼働額 (千円)
伴侶動物	伴侶系	5,224	212,106
	検査系	607	21,178
産業動物	馬診療科	457	7,827
	牛・山羊診療科	320	25,717
夜間診療		453	14,015
火葬		493	6,553
合計		7,554	287,396



附属図書館実績等

【令和4年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				合 計
		平 日			土・日 及び祝日	
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	309	113,300	47,087	160,387	22,553	182,940
桜ヶ丘分館	296	27,869	6,267	34,136	5,452	39,588
水産学部分館	274	9,093	1,569	10,662	600	11,262
合 計		150,262	54,923	205,185	28,605	233,790

【蔵 書】

図書(冊)

(令和5年4月1日現在)

区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計	
和漢書	中央図書館	68,596	42,722	80,368	204,145	101,962	68,254	52,837	28,506	28,523	71,934	747,847
	桜ヶ丘分館	812	1,816	730	5,099	86,273	960	337	747	1,554	1,533	99,861
	水産学部分館	1,798	374	1,114	6,208	13,025	6,429	13,226	917	1,272	938	45,301
	小 計	71,206	44,912	82,212	215,452	201,260	75,643	66,400	30,170	31,349	74,405	893,009
洋書	中央図書館	14,135	18,178	17,083	52,082	72,224	18,243	19,691	4,910	13,516	32,161	262,223
	桜ヶ丘分館	495	228	71	614	59,433	55	35	55	285	423	61,694
	水産学部分館	413	111	262	625	5,505	2,262	4,196	249	271	88	13,982
	小 計	15,043	18,517	17,416	53,321	137,162	20,560	23,922	5,214	14,072	32,672	337,899
合 計	86,249	63,429	99,628	268,773	338,422	96,203	90,322	35,384	45,421	107,077	1,230,908	

雑誌(総種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	22,411	9,440	31,851
桜ヶ丘分館	3,878	2,509	6,387
水産学部分館	2,574	1,140	3,714
合 計	28,863	13,089	41,952



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア・太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
市来文庫	伊佐市の郷土史家であった市来政香氏旧蔵書 政香氏収集の文書記録類 同様に市来政香氏旧蔵書で当館所蔵の中世・近世の市来家文書に連なる史料9冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊本、馱謨、臼杵の各郡が比較的まとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
山下(森)徳治文書	旧制鹿児島師範学校出身の教育学者、山下(森)徳治氏の直筆原稿・ノート等 356点					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	144点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

■土地・建物・船舶

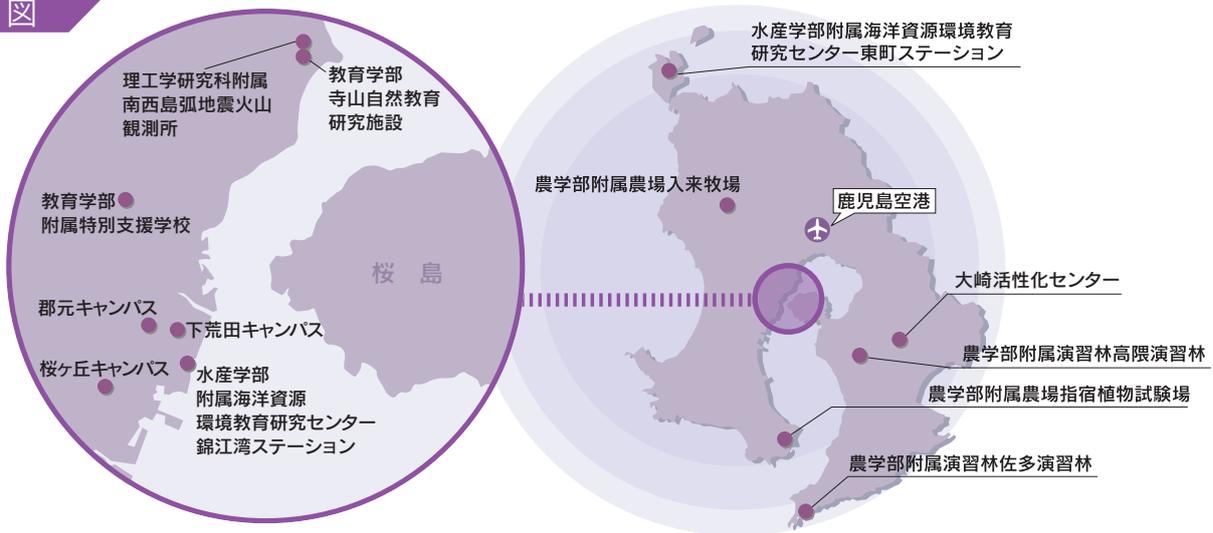
(令和5年5月1日現在)

区分	土地(m ²)	建物(延面積m ²)			備考(単位:m ²)
		木造	非木造	計	
郡元地区	事務局	233,630 (23)	0	13,311	13,311
	保健管理センター		0	902	902
	附属図書館		0	12,703	12,703
	法文学部		0	6,930	6,930
	理学部		0	13,764	13,764
	工学部		0	38,540	38,540
	農学部		169	24,958	25,127
	共同獣医学部		0	14,058	14,058
	共通教育部		0	17,440	17,440
	その他		0	14,310	14,310
	教育学部	118,265	308	41,855	42,163
小計	351,895 (23)	477	198,771	199,248	
桜ヶ丘地区	医学部	218,183	0	21,992	21,992
	歯学部		0	3,115	3,115
	医歯学総合研究科		0	35,230	35,230
	鹿児島大学病院		0	106,601	106,601
	附属図書館		0	2,010	2,010
	研究支援センター		0	4,381	4,381
	亀ヶ原総合グラウンド		0	52	52
桜ヶ丘寄宿舎	0	3,122	3,122		
小計	218,183	0	176,503	176,503	
下荒田地区	水産学部地区	49,154	93	12,144	12,237
	国際交流会館(1号館)		0	1,430	1,430
	国際交流会館(2号館)		0	1,259	1,259
	国際交流会館(3号館)		0	1,507	1,507
	外国人研究者宿泊施設		0	686	686
小計	49,154	93	17,026	17,119	
その他	唐湊寄宿舎	24,391	0	5,694	5,694
	唐湊果樹園	72,682	0	1,207	1,207
	唐湊林園	9,958	0	0	0
	寺山自然教育研究施設	300,855	0	885	885
	教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,105	3,565
	桜島火山観測点	298	0	31	31
	高隈演習林	30,598,349	0	1,530	1,530
	佐多演習林	2,972,857	0	0	0
	入来牧場	1,478,451 (26)	178	3,856	4,034
	桜島熔岩実験場	372,714	0	0	0
	指宿植物試験場	30,725	279	2,031	2,310
	東町ステーション	16,902	0	1,183	1,183
	錦江湾ステーション	4,990 (94)	0	2,150	2,150
	外国人宿泊施設	344	0	294	294
	磯艇庫	408	0	243	243
	海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設	457	0	389	389
	谷山心頭	0 (777)	0	0	0
	甞島観測点	0 (49)	0	24	24
	伊集院観測点	0 (7)	0	0	0
	屋久島観測点	0 (109)	0	40	40
	串間観測点	0 (58)	0	58	58
	紫尾観測点	0 (59)	0	58	58
	黒島観測点	0 (59)	0	58	58
	佐多観測点	0 (58)	0	11	11
	高岡観測点	0 (58)	0	40	40
	吉松観測点	0 (47)	0	0	0
	田代観測点	0 (6)	0	0	0
その他	0 (2860)	0	644	644	
小計	35,901,157 (4,267)	917	23,531	24,448	
合計	36,520,389 (4,290)	1,487	415,831	417,318	
					寄宿舎(土地 33,048 建物 21,493)

(注) 1. 土地欄()内数量は借用地。
 2. 各地区土地及び建物数量には備考欄寄宿舎の数量は含まない。

船名	トン数(トン)	機関	計画出力(kw)	全長(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
かごしま丸	935.00	電気推進	3,200	66.92	12.10	4.60	平成24年3月30日
南星丸	175.00	ディーゼル	1,323	41.96	7.50	3.30	平成14年11月28日

位置図



鹿児島市へのアクセス 鹿児島空港から鹿児島中央駅まで約40分

鹿児島市内交通アクセス

1 郡元キャンパス

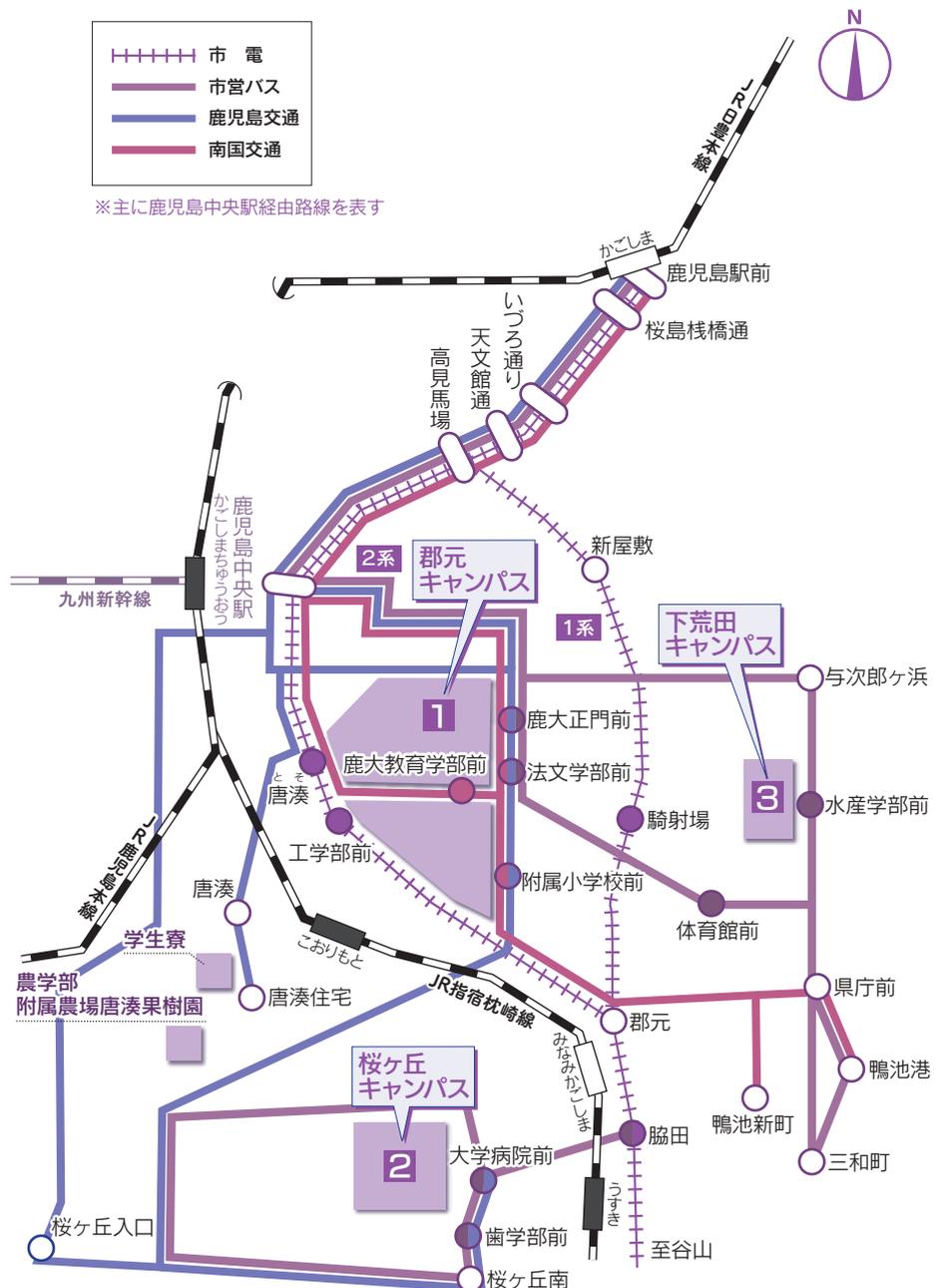
- 市電** ※()は最寄りの門
 - 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分(正門、東門)
 - 2系 唐湊電停下車(西門)
 - 工学部前電停下車(工学部門)
- 市営バス**【鹿児島中央駅経由】
 - 鹿大正門前または、法文学部前下車
 - 10 高麗橋線 11 鴨池・冷水線
 - 20 緑が丘・鴨池港線
- 鹿児島交通**【鹿児島中央駅経由】
 - 鹿大正門前または、法文学部前下車
 - 18 大学病院線
 - 19 紫原・桜ヶ丘五丁目行
- 南国交通**【鹿児島中央駅経由】
 - 鹿大教育学部前または、附属小前下車
 - 30 県庁西・鴨池新町方面
 - 鹿大正門前または、法文学部前下車
 - 39 武岡・鴨池港線
- 徒歩**
 - 鹿児島中央駅から市電2系通り沿いに歩いて約25分

2 桜ヶ丘キャンパス

- 市電**
 - 1系 脇田電停下車
- 市営バス**
 - 【脇田電停前発】
 - 大学病院前または、歯学部前下車
 - 18 大学病院線(シャトル便)
- 鹿児島交通**【鹿児島中央駅経由】
 - 大学病院前または、歯学部前下車
 - 17 桜ヶ丘団地行
 - 18 大学病院線
 - 19 紫原・桜ヶ丘五丁目行
- JR**【JR指宿枕崎線】宇宿(うすき)駅下車

3 下荒田キャンパス

- 市電**
 - 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分
- 市営バス**【鹿児島中央駅経由】
 - 体育館前下車 徒歩約5分
 - 11 鴨池・冷水線
 - 水産学部前下車
 - 27 県庁・与次郎線



郡元キャンパス

- 法文学部
- 教育学部
- 理学部
- 工学部
- 農学部
- 共同獣医学部
- 理工学研究科
- 臨床心理学研究科
- 連合農学研究科

- 1 北辰通り(大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り(稲盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り(附属農場越しに桜島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り(初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り(鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り



A-

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局
- 3 保健管理センター
- 4 埋蔵文化財調査センター・事務局車庫
- 5 農・獣医共通棟(管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A(獣医学科実験研究室)
- 7 共同獣医学部研究棟 B(獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C
- 9 農学部研究棟 D
- 10 農学部研究棟 E
- 11 共同獣医学部附属動物病院大動物診療センター
- 12 共同獣医学部附属動物病院軽種馬診療センター
- 13 農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)
- 14 // 温室
- 15 // 植物研究実験施設
- 16 // 網室・硝子室
- 17 // 附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実習棟
- 19 // 倉庫
- 20 // 水理実験棟
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟(獣医学科実験研究室・総合研究博物館・先端科学研究推進センター(感染制御研究部門)等)
- 23 先端科学研究推進センター(遺伝子実験部門)
- 24 先端科学研究推進センター(アイソトープ実験部門)
- 25 馬術部馬房
- 26 大学院連合農学研究科棟
- 27 総合研究博物館展示棟(常設展示室)
- 28 学習交流プラザ
- 29 学生会館
- 30 中央食堂
- 31-1 産学交流プラザ1(地域防災教育研究センター)
- 31-2 産学交流プラザ2(南九州・南西諸島域イノベーションセンター)

- 32 情報基盤統括センター
- 33 中央変電所・総合研究博物館標本収蔵庫
- 34 工学部情報・生体工学棟
- 35 地域コトづくりセンター・中央実験工場
- 36 工学部電気電子工学棟
- 37 // 建築学棟
- 38 // 化学工学棟
- 39 // 機械工学第一実験棟
- 40 // 機械工学第二実験棟
- 41 // 機械工学第三実験棟
- 42 // 機械工学2号棟
- 43 // 機械工学1号棟
- 44 // 化学生命工学棟
- 45 // 薬品庫
- 46 // 海洋波動実験棟
- 47 稲盛会館
- 48 工学系講義棟
- 49 工学部海洋土木工学棟
- 50 // 共通棟
- 51 理工系総合研究棟・先端科学研究推進センター(機器分析部門)
- 52 理学部1号館(管理室・物理・宇宙プログラム・化学プログラム・地球科学プログラム・実験研究室・講義室)・理学先端研究棟・天の川銀河研究センター
- 53 理学部2号館(数理情報科学プログラム・生物学プログラム・化学プログラム・地球科学プログラム・実験研究室・講義室)



関係施設凡例

- 法文学部
- 教育学部
- 理学部
- 工学部
- 農学部
- 共通教育棟
- 学内共同教育研究施設等
- 共通施設
- 稲盛会館
- 稲盛記念館
- 共同獣医学部

学内共同
教育研究
施設等

厚生施設等

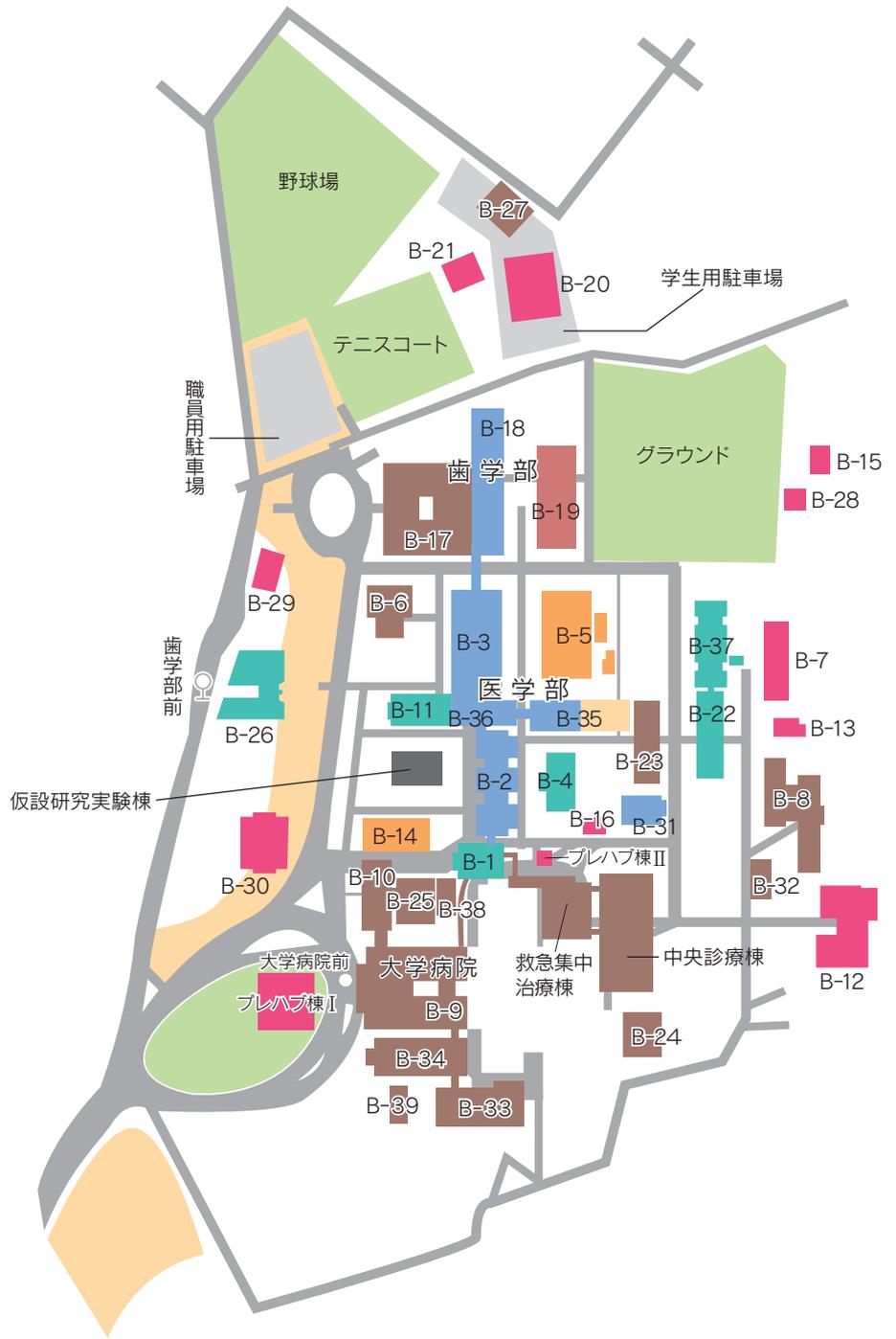
- 54 理学部 3 号館 (生物学プログラム・実験研究室・講義室)
- 55 総合研究博物館
- 56 共通教育棟 1 号館 (事務室・講義室・共通教育センター・キャリア形成支援センター・ボランティア支援センター・障害学生支援センター・グローバルセンター・高等教育研究開発センター)
- 57 共通教育棟 2 号館
- 58 稲盛アカデミー棟
- 59 共通教育棟 3 号館
- 60 共通教育棟 4 号館・環境安全センター
- 61 中央図書館
- 62 総合教育研究棟 (司法政策教育研究センター・大学院臨床心理学研究科・国際島嶼教育研究センター)
- 63 法文学部 1 号館 (管理棟・研究棟・講義棟)
- 64 // 2 号館 (研究棟・講義棟)
- 65 // 3 号館 (講義棟)
- 66 学生サークル会館 II - 1
- 67 屋内プール 50m
- 68 弓道場
- 69 学生サークル会館 II - 2
- 70 第一体育館
- 71 第二体育館
- 72 教育学部 武道館
- 73 部元南食堂
- 74 教育学部 管理棟・理系研究棟
- 75 // 実習棟
- 76 // 第一講義棟
- 77 // 生涯教育総合研究棟
- 78 // 文系研究棟
- 79 // 附属教育実践総合センター
- 80 // 音楽美術科棟
- 81 // 附属幼稚園
- 82 // 附属小学校
- 83 // 附属小学校昆虫飼育棟
- 84 // 附属小学校体育館
- 85 // 附属中学校
- 86 // 附属中学校体育館
- 87 学生寮
- 88 総合動物実験施設
- 89 教育学部 第二講義棟 (アクティブラーニングプラザ)
- 90 共同獣医学部 附属動物病院 小動物診療センター
- 91 さつつん保育園
- 92 学生サークル会館 I
- 93 稲盛記念館

桜ヶ丘キャンパス

医学部
歯学部
医歯学総合研究科
鹿児島大学病院

B-

- ① 医学部臨床講義棟
- ② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系)
- ③ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系)
- ④ 実験施設
- ⑤ 先端科学研究推進センター(動物実験施設)
- ⑥ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館)
- ⑦ 桜ヶ丘寄宿舍(学生寮)
- ⑧ 看護師宿舎
- ⑨ 鹿児島大学病院内科診療棟
- ⑩ 鹿児島大学病院管理棟
- ⑪ 医学部基礎講義実習棟
- ⑫ 中央機械棟
- ⑬ ポンプ室
- ⑭ 附属図書館桜ヶ丘分館(医学図書館)
- ⑮ サークル棟
- ⑯ 実験廃液処理施設
- ⑰ 鹿児島大学病院歯科診療棟
回復期リハビリテーション病棟
- ⑱ 医歯学総合研究科棟1(歯学系)
- ⑲ 歯学部講義・実習棟
- ⑳ 桜ヶ丘体育館
- ㉑ 運動器具庫
- ㉒ 医学部保健学科東研究棟
- ㉓ 共通教育棟
- ㉔ 資料保管庫
- ㉕ 医療情報施設
- ㉖ 鶴陵会館
- ㉗ 医学部・歯学部課外活動施設
- ㉘ 弓道場
- ㉙ さくらっ子保育園
- ㉚ 患者用立体駐車場
- ㉛ 医歯学総合研究科棟5
- ㉜ レジデントハウス
- ㉝ 病棟(C棟)
- ㉞ 病棟・診療棟(B棟)
- ㉟ 医歯学総合研究科棟4(新臨床医学系)
ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- ㊱ 共同利用研究棟
- ㊲ 医学部保健学科西研究棟
- ㊳ 地域医療支援センター
- ㊴ トリアージ施設



関係施設凡例

- | | |
|----------------|---------------|
| ■ 大学院 医歯学総合研究科 | ■ 大学病院 |
| ■ 医学部 | ■ 学内共同教育研究施設等 |
| ■ 歯学部 | ■ 共通施設 |

下荒田キャンパス

水産学部

関係施設凡例

- 水産学部
- 学内共同教育研究施設等
- 共通施設



C-

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 1号館 ② 2号館 ③ 変電室 ④ 水圏生物標本棟 ⑤ 3号館 ⑥ 6号館(食堂(1階)) ⑦ 6号館(附属海洋資源環境教育研究センター(2階)) ⑧ 国際交流会館(1号館) ⑨ " (2号館) ⑩ " (3号館) ⑪ 大型回流水槽実験棟 ⑫ 職員宿舎 | <ul style="list-style-type: none"> ⑬ 車庫・倉庫 ⑭ 実験・実習支援棟 ⑮ 5号館 ⑯ 附属図書館水産学部分館(水産学図書館) ⑰ 4号館 ⑱ 外国人研究者宿泊施設(A・B・C) |
|---|---|

教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目



D-

- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

学生寮

唐湊3丁目



A-87-

- ① 男子寄宿舎A棟
- ② " B棟
- ③ 女子寄宿舎
- ④ 共用棟

●所在地一覽●

A	[事務局]	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
A	[法文法学部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
A	[附属司法政策教育研究センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3905
A	[附属「鹿児島の近現代」教育研究センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7532
A	[教育学部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
A	[附属幼稚園]	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
A	[附属小学校]	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
A	[附属中学校]	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
	[附属特別支援学校]	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
A	[附属教育実践総合センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
	[寺山自然教育研究施設]	〒892-0871	〃 吉野町10857-1	
A	[理工学研究科]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
A	[附属地域コトづくりセンター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8487
A	[附属天の川銀河研究センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)8012
	[附属南西島弧地震火山観測所]	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
A	[理学部・理工学研究科(理学系)]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
A	[工学部・理工学研究科(工学系)]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
A	[農学部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
A	[附属農場]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
A	[学内農事部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8779
	[唐湊果樹園]	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
	[指宿植物試験場]	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
	[入来牧場]	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
	[附属演習林]	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
	[高隈演習林]	〒891-2101	垂水市海瀨3237番地	☎0994(32)6329
	[佐多演習林]	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
A	[附属焼酎・発酵学教育研究センター]	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
C	[水産学部]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
	[附属海洋資源環境教育研究センター]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
	[附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション]	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤潟1620-3	☎0996(64)5013
	[附属海洋資源環境教育研究センター錦江湾ステーション]	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目9	
A	[共同獣医学部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
	[附属動物病院]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
	[大隅産業動物診療研修センター]	〒899-8313	曾於郡大崎町野方6222-1 大崎ものづくり会館内	☎099(478)1000
A	[附属越境性動物疾病制御研究センター]	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
B	[医歯学総合研究科]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
B	[附属南九州先端医療開発センター]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6107
B	[医学部]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
B	[歯学部]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
B	[鹿児島大学病院]	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
A	[臨床心理学研究科]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
A	[連合農学研究科]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
A	[附属図書館]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
B	[桜ヶ丘分館(医学図書館)]	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
C	[水産学部分館(水産学図書館)]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
A	[保健管理センター]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
A	[共通教育センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8821
A	[稲盛アカデミー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3751
A	[高等教育研究開発センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	
A	[高等教育部門]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8826
A	[生涯学習部門]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7294
A	[キャリア形成支援センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
A	[中等・高等教育接続センター]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3049
A	[グローバルセンター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3601
A	[総合研究博物館]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
A	[環境安全センター]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8126
A	[国際島嶼教育研究センター]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
	[奄美分室]	〒894-0026	奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島絵会館6階	☎0997(69)4852
A	[先端科学 研究推進センター]	〒890-8520	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
B	[動物管理・小動物研究推進部門]	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
B	[大動物研究推進部門]	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
A	[遺伝子実験部門]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
A	[機器分析部門]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7188
A	[アイソトープ実験部門]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8740
A	[感染制御研究部門]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7674
A	[南九州・南西諸島域イノベーションセンター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	
A	[研究・産学地域連携ユニット]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
A	[知的財産・リスクマネジメントユニット]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3881
A	[地域防災教育研究センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7234
B	[ヒトレトロウイルス学共同研究センター]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6246
A	[情報基盤統括センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7869
A	[埋蔵文化財調査センター]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7270
A	[ボランティア支援センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3147
A	[障害学生支援センター]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3287
A	[稲盛会館]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
A	[大学学生会]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
	[学生寮]	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238-099(254)9098
C	[国際交流会館(1号館・2号館・3号館)]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
	[外国人研究員等宿泊施設]	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
C	[外国人研究者宿泊施設]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	
	[北米教育研究センター]		201 Spear St. Suite 1100, San Francisco, CA 94105 アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ	

※ A: 郡元キャンパス、B: 桜ヶ丘キャンパス、C: 下荒田キャンパス



鹿児島大学学章

創立50周年を記念して制定された。KAGOSHIMAの頭文字『K』をデザインしたものである。今、まさに飛び立とうとしている姿を『鳳』の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さつん



薩摩の偉人たちの歴史を思わせる紋付き袴と頭の桜島が特徴の大きなしろくまのキャラクター。名前の由来は薩摩の「さつ」と西郷隆盛の愛犬「つん」。



編集・発行 **鹿児島大学 広報センター**

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号
[代表電話] 099-285-7111 [FAX] 099-285-3854
[URL] www.kagoshima-u.ac.jp

発行月 令和5年6月